

平成 26 年度第 1 回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 平成 26 年 6 月 27 日 (金) 14 時 00 分～16 時 15 分

2 場 所 千葉市消費生活センター 3 階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

齊藤誠一 委員長、
小野和美 委員、大木操 委員、井上真理 委員、十倉典子 委員、
能勢仁 委員、栗原佳代 委員、高梨綾子 委員、大山努 委員、溝添周二 委員

(2) 事務局

橘中央図書館長、森川みやこ図書館長、渡辺花見川図書館長、幸島稲毛図書館
長、坂本若葉図書館長、古館緑図書館長、中田美浜図書館長、布施中央図書館
管理課長、元好中央図書館情報資料課長、小林中央図書館管理課担当課長

(3) 傍聴人

9 人

4 議 事

(1) 副委員長の選出について

(2) 平成 25 年度千葉市図書館の評価について

5 議事の概要

(1) 副委員長の選出について〔委員の互選〕

→ 大山委員が副委員長に選出された

(2) 平成 25 年度 千葉市図書館の評価について

ア 取組結果及び内部評価について〔事務局から説明〕

イ 外部評価について〔外部評価部会長(委員長)から説明〕

ウ ア・イについての質疑応答・協議

→ 概ね原案どおりとし、協議会で出た意見等による外部評価案の修正については委員長に一任された。

(3) その他

・「まほうの読書ノート」の配布について〔事務局から報告〕

6 会議経過

<開 会>

○委員の紹介

○中央図書館館長あいさつ〔事務局職員紹介〕

○定足数の確認(図書館協議会委員 10 名の出席をもって成立)

○会議の公開についての説明

○委員長あいさつ

<議 事>

(1) 副委員長の選出について

委員長 それでは、これより協議に入らせていただきます。

まず、次第の議事(1)副委員長の選出についてですが、お手元にお配り

しております「千葉市図書館協議会 委員名簿」をご覧ください。

杉田前副委員長さんの離任に伴いまして、副委員長を選出が必要となっております。副委員長は図書館管理規則により、委員の互選となっておりますので、ここで協議をしたいと思います。

この件に関しまして、ご意見はございますか。

委員 副委員長には、前任の杉田さんの後任ですし、任期中の前任の職を引き継ぐ形として、ご異存がなければ大山委員にお願いしてはどうかと思います。

委員長 今、大山委員をとということでご意見がありました。他の方はいかかでしょうか。大山委員、よろしいですか。

各委員 《異議なし》

委員長 それでは、よろしく申し上げます。副委員長席に移っていただいて、ご挨拶をいただきたいと思います。

副委員長 力不足の点もあろうかと思いますが、お役にたてるよう努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます、よろしく申し上げます。

(2) 平成25年度 千葉市図書館の評価について

委員長 それでは続きまして、議事(2)平成25年度千葉市図書館の評価に移りたいと思います。内部評価に関しましては事務局の方からご説明いただき、外部評価に関しましては、部会長である私の方からお話をさせていただきます。

まず取組結果及び内部評価について、事務局からご報告をお願いします。

事務局 《配布資料「平成25年度 千葉市図書館の評価」に基づく説明》
事務局からの説明は以上です。

委員長 ありがとうございます。委員の皆様方にも、事前に資料は事務局から送られていたかと思います。

こちらの取組結果及び内部評価を基に、我々の外部評価を行っております。個々の項目全てを説明されると大変なこととなりますので、個々の項目に関しては、この後ご質問等をお受けしてご説明いただきたいと思います。

それでは、引き続き外部評価につきましても私の方から説明させていただきます。

外部評価につきましては、ただいまの内部評価をいただいた後に、現在できている外部評価部会、その部会員3名でそれぞれ中身を見させていただき、それぞれの意見等を作成しました。

6月3日に開催しました外部評価部会に、それぞれの意見等を持ち寄りまして、その会議の審議結果を基にまとめさせて頂いております。

こちらも全てご説明するのは厳しいので、内部と外部で評価が異なっている箇所を中心にお話しさせていただきます。

その前に、資料の 25 ページ、総合評価のうち外部評価の欄を見ていただきたいと思います。

冒頭挨拶でもお話ししましたとおり、ここ何年か千葉市図書館においていろいろな改善が行われてきております。

特に「千葉市読書環境整備計画」が策定され、計画の実施に向けて図書館が動き始めている、かつ、サービスの向上に取り組んでいるということについては、大変良い評価としております。

その他も以下の項目のとおり、文言としては一部検証が必要かもしれませんが、良い評価をさせていただいております。

ただ、課題がないわけではありません。

作られた「千葉市読書環境整備計画」を、今後確実に推進していただくことが課題となっておりますし、資料費の確保、専門職員の確保というものが重要となっております。

また、毎回書かせていただいているところですが、公民館図書室の在り方について、今一度検討していく必要があると考えております。もちろん、お金の問題、人の問題、研修を含めた職員の能力の問題についても、課題になってくるかと思っております。

今、地域の課題解決支援に積極的に関わっていくことが、様々な図書館で取り組まれていますけれども、その基礎となるレファレンスサービスの充実も必要だと思いますし、図書館の未利用者の方への積極的な PR、学校との連携強化なども課題かと思っております。

最後になりますが、先ほどもご説明しました公民館図書室ですけれども、公民館施設の中でも図書室は非常に市民に使われている施設であります。また、地域の中でも一番身近な読書施設でもある公民館図書室を活性化させていくということは、千葉市の図書館行政としても大変大きな目玉になるのではないかと考えています。

そういったサービスに力を入れていくべきではないかという思いを込めて、課題に挙げさせていただきました。

また、元に戻りまして、各項目の中から内部評価と外部評価が違うところを簡単に説明させていただきます。

まず、1 ページ【方針 1】の(1)“ア”資料の収集・提供の充実のところは、外部評価を下げておりますが、期待を込めた“B”評価となっております、他の項目でも“A”に近い“B”評価というのが、多くなっております。

貸出冊数で図書館を評価すべきではないと思いますが、貸出冊数が減ってきている現状があります。今後いろいろな取り組みをしていただき、これらの数字に影響を与えてほしいと思いますので、ここは“B”評価としております。

“イ”資料費の有効活用につきまして、館長等の努力により資料費が維持されているのが現状ですが、今後は資料費の増額が必要になってくるのでは

ないかと思えます。

受入資料数が若干減少してきているということですし、寄贈に頼っている現状をどうにかできないかということから、“B”評価としました。

2 ページ“エ”館内表示などについては、内部では“B”評価のところ、我々は逆に“A”評価に上げております。

館内表示等は大変分かりやすくなってきていると思えますし、今回は利用カードの仕様変更をされたということもあります。また、利用者のマナーへの対応も良くされているということからの“A”評価です。

3 ページ“ケ”の公民館図書室への支援については、“B”から“C”評価に下げしております。これは先ほどもお話ししたとおり、地域にいちばん近い読書施設としての公民館図書室、この意義を捉えていただき、充実に努めていただきたいと思います。

研修なども頑張っているとは思いますが、より一層の充実をしていただきたいと思います。

それから5ページ【方針2】の(1)“ア”レファレンスの利用促進については“A”から“B”評価に下げしております。

どこの図書館でもレファレンス件数は減ってきているのですけれども、市民からの問合せ件数を増やしていく努力は必要だと思いますし、図書館が問題解決の場と知らない市民の方もいらっしゃいますので、より積極的なPRをしていただきたいと思います。それと同時に、レファレンスで問題解決に至らないケースも多くあるようですので、職員の方の能力の向上を期待することからも“B”評価としました。

“イ”のパスファインダーについてですが、整備を進められていることは大変良いことと思えますが、インターネットだけでなく紙ベースの資料も整備して館内配布をしていただきたいと思います、ということから“B”評価としました。

6 ページ“オ”職員のレファレンス技術の向上についてですが、先ほどのとおり、期待を込めて“B”評価としております。

(2)“ア”図書館未利用者へのPR等については、内部が“B”評価のところを逆に“A”評価としました。子育て応援コーナーを新たに整備され、YAコーナーでもさまざまな取組みで利用を促す動きがなされているということからです。また、地域や学校と連携した広報活動などは、大変良い動きだと思います。

7 ページの“エ”高齢・障害者へのサービスについては、闘病記コーナーの整備等の活動はありますが、よりニーズを把握し、充実したサービスを図ってもらいたいということから“B”評価としました。

9 ページ【方針3】の(1)“オ”につきましては、図書館はフェイスブックを活用した新しい図書館と利用者とのコミュニケーションを始められています。

現状は有効に機能しており、職員の対応でカバーできている状況だとは

と思いますが、コメントに対する返信等の負担はかなりものと思われるため、費用対効果などをもう少し検討して運用にあたる必要があるかとは思いますが、もう少し長い目で見た評価が必要かと思いましたが、“B”評価としました。

10 ページ(2) “ウ”の出前講座など地域での広報活動についてですが、そもそも出前講座の数がまだまだ少ないのでは、ということから “C” 評価としております。

続いて 12 ページ、【方針 4】 (1) “ア”の子どもへのサービスについては、昔から積極的に取り組まれているとは思いますが、やはり貸出冊数の減少傾向が続いているところは課題かと思えます。

貸出冊数が多くなるように努力願いたい、また、ブックリストの更新についても、もう少し新しいものをお願いしたいことから “B” 評価としております。

“ウ”の児童コーナーの企画展示については、もう少し子どものニーズやより関心を持たれる企画の実施などの期待を込めて、“B”評価としました。

13 ページ “ケ”の啓発ですが、“B”評価としたのは実施が一部の学校に限られていることからです。大変かと思いますが、市内全学校の児童に拡げてもらいたいと思えます。

14 ページ “エ”の団体貸出ですが、以前の協議会でも提起されておりました配送の問題については、未だ残っていると思えます。改善を求めるところからも、“B”評価としております。

“オ”の教育センターとの連携については、司書教諭や指導員とはセンターを介した連携だけでなく、もっと連携強化を進めていただいたいということから “B” 評価としました。

17 ページ【方針 5】の (1) “エ”のネットワーク協議会について、私も関わっているのですが、加盟館展示や研修会などを実施しており、事務局はかなりの負担があるかと思えます。

こういった図書館の連携に関する団体の運営については、どこが事務局を請け負ってもらえるかというのは、非常に大きな要素を占めております。事務局の運営が大きな課題となり、図書館間の連携などがうまくいかないということも多々あります。

ここの部分を、千葉市の図書館は事務局を引き受け、しっかりとした運営をされていることから、“B”評価を“A”評価に上げております。

18 ページ (2) “ウ”の庁内職員への支援についてですが、この件については私も図書館勤務時代に担当したことがあるのですが、非常に地道な展開が必要となると同時に、積極的に職員に対して働き掛けていく必要があります。その活動がまだまだ足りないと思えますので、“C”評価としております。

20 ページ【方針 6】の (1) “オ”の市民参加による事業の実施について

ですが、子ども読書まつりなどは積極的に行っており、また、新たな試みもされているようですが、更なる市民参画による事業の実施、実施に伴う市民の意識の醸成を図っていただきたいということから、“B”評価としております。

21 ページ (2) “エ” の図書館見学ツアーの実施についてですが、これは回数の問題です。年 1 回に留まらず、もっと開催回数を増やしてもらいたいという思いから、“B”評価としました。

23 ページ【サービス推進のための経営資源について】の“ウ”資料費の確保については、大変かとは思いますが、寄贈図書に頼る必要のない更なる資料費の確保をお願いしたいということから、“B”評価としました。

最後に“カ”専門職員の確保と育成についてです。ここ数年、専門職員として永く図書館に努められてきた方達が退職の時期を迎えられておりますが、替わる人材の確保がなされていないのが現状かと思っております。

若い職員でも優秀な人材がたくさん入ってきていると思っておりますので、専門職員をうまく活用して、良い図書館サービスにつなげてもらいたいと思っております。育成だけでなく補充にも努めてもらいたいということで、“C”評価としております。

以上、一通り説明をさせていただきました。

大分大変な作業となりましたが、他の部会員のご協力により、ようやく形としてお示しすることが出来ました。

この後、皆様からのご意見等により、更にこの評価をブラッシュアップしていきたいと思っております。

ご質問・ご意見等につきまして、いかがでしょうか

委員

1 ページ【方針 1】(1) “ア” のコメントで、「YA 世代への利用促進に繋がったのかは疑問が残る。」となっておりますが、年代別の利用については昨年度公表されております。

利用統計「2013 千葉市の図書館」37 ページのデータから見たところ、児童書の貸出の約 75%は文学です。また、児童書の中でどのくらい YA 世代の図書が読まれているかという点、7.1%・約 1 割です。

出版業界の統計では、文学の 10%が YA 世代の文学、業界では“ライトノベル”と言われているものですが、こちらが占めております。このジャンルは現在も伸びており、現在は 15%くらいになっているのではないかと思います。

この比較から言いますと、千葉市の図書館ではこの割合まで達していないということです。それは、置いてある本がエンターテインメント、いわゆる娯楽系を重視する利用者のニーズとマッチしていないのか、それとも PR が少ないのかといった理由からかもしれません。

それから、次の“イ”ですが、確かに千葉市の蔵書は寄贈に依存しております。これでいいのだろうか、というところは確かにあります。

「2013 千葉市の図書館」25 ページの受入図書資料数のデータで、一番寄贈書の割合が多いのは花見川図書館で 50.9%、その他みやこ図書館が 44.6%、稲毛図書館が 43.0%など、半分に近い蔵書が寄贈となっています。なお、公民館図書室に至っては 64%が寄贈という状況です。

寄贈というのは大変ありがたいことですがけれども。欲しい本が入ってくるとは限りません。

寄贈のメリットとして、蔵書が増える、資料購入費が節約できるといったことがあります。ですが私は、寄贈の最大のメリットについて、図書館・図書を愛好されている方は、自分の愛読した本を他の方にも読んでもらいたいといった再生産の意思を非常に強く持っております。そのような図書館のファンの姿が、寄贈書から見えてくるということではないかと思っています。

逆に、最大のデメリットとしては、図書館の選書の方針が行き届かなくなるということです。利用者にとって、いくら資料があっても欲しい本がなければ、来た人をがっかりさせてしまいます。図書館として、無駄な蔵書を抱えしまうということにもつながります。

そこで、既に図書館としても対応しているかと思いますが、“この本は受け取れません”といった方針を示すべきではないかと思っています。コミック本とか、2年以上経った文芸書とか、受入の際のブレーキというものについて、図書館としてどう考えられているのか、私は知りたいと思っております。

特に注意しなければならないのは、ベストセラー本です。出版業界では、持ち込まれてもほとんど扱わない状態です。後から残る本は極めて少ない、未だに読まれているのは「ノルウェーの森」、「窓ぎわのトットちゃん」、「五体不満足」こちらはかなりの人気です。それと松下幸之助さんの「道をひらく」、この程度かと思っています。

他はほとんど顧みられない、そういった状況の中、ベストセラーの持ち込みにもどう対応するかが必要となります。ベストセラーは刊行から 1 年以内とか、別途基準を設ける必要があるかもしれません。

私は選書の中で、図書館側として寄贈されたものについての凛とした対応方針を示していただきたいと思っておりますので、この点についてお尋ねいたします。

委員長 今、委員から 2 点の指摘がありました。YA 等の蔵書構成が今の時代にマッチしていないのではないかとということと、寄贈に頼っている点が数字的に表れているけれど、この寄贈についての図書館側の対応状況がどうなっているのかということだったと思います。

事務局から、現状等についてお答えいただきたいと思っております。

事務局 YA の関係ですがけれども、やはりエンターテイメント系は入れないという方針であります。そのため、どうしても業界との蔵書構成に違いが出てきてしまいます。

ただ、そういった中でも業界の文学書の 10%という割合と大きくかけ離

れていないというところを見ますと、大きく蔵書構成に乖離が出ていないということだと思っております。

事務局 委員の発言のとおり、寄贈に関する考え方についてはメリット・デメリットの両方があります。

今回の評価を見ますと、寄贈に頼らないようにとの評価です。しかし、別の場所、例えば教育委員会会議などですと、予算のない中、もっと寄贈について積極的にPRするようにとの意見をいただいております。

いろいろな意見が見られる状況の中、図書館としては寄贈のメリット面を最大限活用し、積極的に受け入れていきたい、良い本はどんどん配架していきたいと考えております。

それから、本によっては凜として断る対応も必要との意見もいただきました。しかし図書館の立場から申しますと、段ボールに重い本を詰め込んで、図書館まで持ってきていただいた方に対し、“これは受け取ります、後はお持ち帰りください”とは、正直とても言いにくいところです。

ですので、持ち込まれた本は全ていただくことが多くなります。ただ、受け入れについては、こちらにお任せいただくよう伝えます。

寄贈者の了解を得た上で、受け入れない資料については、図書館のイベントの際に市民への無償配布などの対応を行っております。このイベントは非常に集客力がありまして、昨年度も中央図書館のアトリウムで配布イベントを行ったのですが、その日の図書館来館者数がかなりアップした、ということがありました。

改めて申し上げますが、寄贈者に対し持ち込まれた本の受け入れを断るといのは、図書館として非常に難しいというところです。

委員長 ありがとうございます。

私からも質問なのですが、今の寄贈のお話しでは、図書館では持ち込まれた資料を受け取っても、受け入れないということもあるわけですね。

また、指標に出てくる数字については、持込数ではなく受入された本のみをカウントしているということでしょうか。

事務局 はい、そのとおりです。

委員長 それにしても、随分な数の資料を受入されているものだと思います。

ただ評価としては、寄贈がどうこうと言いたいわけではなく、図書館として資料費をしっかりと確保する必要があると言いたいのです。

もちろん、財政的にも厳しいのは分かっていますが、図書館として資料を揃えるための体力というものは、しっかりと整えてもらいたいということ、大きく言いたいのです。市民の行為を無にする、ということでは絶対にはないと思います。

委員 先ほどのお話しでも、重たいものを持ち込まれてその場では断れないという気持ちは分かります。ただ、その場で明らかに資料として受け入れ難いもの、例えばかなり古い資料だとか、一見して不要だと分かるものも多

くあるかと思えます。

そういった資料を前にして、図書館としてもこういった資料は受け付けないといった基準を市民にしっかりと示していただかないと、受入後の処理の負担もかなりのものかと思えますので、やはり必要ではないでしょうか。

事務局 寄贈に関しては、例えば文学全集、古い百科事典や資料価値のない古い資料などについては、図書館でもほぼ揃えられていますので、その場でお断りすることもあります。絶対に必要がないと判断できる資料については、その場でお断りはしているということです。

委員 そうではなくて、市民に対し寄贈の呼びかけをされる際、こういった本は受け入れられないとかいった基準を知らせた方が良いのではないか、と思うのです。

事務局 今のところ、寄贈のお願いをする際には、こういったタイトルの本を探しているといった必要な本を挙げた呼びかけを行っております。

確かに、お断りの資料については一切挙げていない状況ですので、その点に関しましては、もう少し考えていきたいと思っています。

委員 もう1つ、本の選定会議のことで伺います。

児童書などはもう少し長い間隔かもしれませんが、選定会議は毎週されていると思います。選定会議の時に朝日・毎日・読賣・日経の4大紙はチェックされているかと思えます。それ以外に毎日出版文化賞とか、いろいろな賞の受賞を基準にして判断されているかと思えますが、ほとんどの選書は見計らいの中から選書されているのだと思えます。

そうしますと、自動的に落ちてしまう本も多くなってくると思えます。例えば、3千円を超える資料は最初から外される、といった事例も多く発生しているのではないのでしょうか。

それを行いますと、図書館の中に専門性の高い資料が揃わなくなってしまうと思います。もちろん、高いから良書というわけではありませんが、高額な資料に多い、堅い本をどのように選んでいくかということが必要だと思えます。

いわゆる基本図書です。選書方針で定められているかと思えますが、それを堅持していかないと、折角図書館に来られても、探している本がないということになってしまつては困ると思えます。

一般的な基準となる文学賞についても、文学賞というのは全国で270から280ほどあります。芥川賞などは有名ですが、実際には偏った選考がなされる賞も多く、そういった受賞基準だけで選書をしてしまうと大変なことになりかねません。

サントリー学芸賞は専門書の芥川賞と言われるくらい、非常に権威があります。他に毎日出版文化賞など、非常に評価の高い賞もありますので、選書会議の際にはそれらを注視していただき、基本図書の充実については堅持していただきたいと思えます。

私の考えでは、基本図書というのはそのジャンルで核となるもの、必ず

揃えなければいけないもの、それともう 1 つ、社会に対し影響を与えたもの・与えるであろうと思われるものです。後世に残るべき本ですから、その分野の専門家・学者は必ず読む本であるとも言えます。そういった資料の背景も考慮して、高い本でも積極的に揃えてほしいと思います。

委員長 今、お話の中に“見計らい”という言葉がありました。これは新刊が出ますと、図書館に見本として送られてくる資料のことです。それを参考に、図書館職員は選書を行うわけです。なかなか一般的には知られていない用語ですので、捕捉させていただきます。

ところで、先ほどの委員のお話にありました値段による足切りは、図書館では行ってはいないと思いますが、いかがですか。

事務局 値段で切ることには行っていません。ただ現実として、値段の高い資料に手が出ない、ということは確かにあります。

千葉市図書館において値段の高い資料を揃える際に、まずは地区館等で購入を検討し、難しいようであれば中央館、中央館でも難しい場合、県立等に依頼する、といった流れで対応しております。

資料費の削減傾向が続く中、どうしても継続購入の冊子や雑誌、シリーズものなど核となる資料を揃えていくと、残りの資料費というのは本当にわずかなものになってしまいます。自由に資料を選定できる経費というのは、非常に少ないわけです。

そこをどう活かしていくのか、というところが図書館として非常に大事なところだと思っております。基本の図書を押さえた上で、各館の役割等をしっかり踏まえ、充実させていきたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。先ほどの委員のお話は大変重要なところだと思っております。やはり、市民が買えないような資料・専門的な資料を図書館はしっかりと押さえるべきだと思いますし、発行部数の少ないものこそ、図書館はしっかりと買っていくことが必要だと、みんなで使えるものを、図書館が持っていることが必要だと思っております。

ただ、その辺は資料収集方針で押さえられた上で、対応されているとは思いますが。図書館として、今の貴重なお話を頭に入れ、引き続き運営していただければと思います。よろしいですか。

委員 はい、よろしくお願いします。

委員 今回の資料費や資料の収集に関して、児童書について感じたことですが、新しい資料と別に、現状は複本が少ないかなという気はしております。全市で 2~3 冊しかないなど、全館に揃っていない絵本も数多くあります。せめて各地区館には 1 冊ずつ揃えてほしいと思います。

図書館としては、複本の充実についてはどうお考えでしょうか。

事務局 図書館としても、人気のある本・読んでほしいと思う本は、なるべく多くの館に、少なくとも中央館には必ず揃えるようにしております。

やはり地区館については、費用等の問題から制限がかかってしまうこと

はありますが、より多くの子どもたちに読んでもらうためにも揃える努力はしております。

委員 明らかに地区館の児童書が減っている、と感じる事が多くなっている気がしています。是非ともお願いします。

委員長 児童書につきましては、一定の定番の資料というのがあります。それを複本で揃えられていると思いますが、配架されている中でどんどん消耗してしまう可能性があります。

それらの資料の補充に関しては、何らかの計画的な対応をされているのでしょうか。

事務局 もちろん補充しております。

あと、資料費の減少している割合から見ますと、児童書の割合は全体よりもずっと金額ベースでは減っておりません。そういう意味では、資料全体の中から見た場合、それ程児童書は減っていないと思われま

す。6年ほど前の時期に、年額10~20%の減額といった、急激な財政削減の動きがありましたので、その際の印象が強く残ってしまっていることは考えられます。ここ何年かはあまり減ってはいないと思います。

委員長 ぜひ確保に努めていただきたいと思います。

資料の充実に関する評価としては、確保に努めていただくようお願いしている原文のとおりとさせていただきたいと思います。

他の項目について、何かありますか。

委員 寄贈と反対の、本の廃棄についてです。

極端な話ですが、本は買って書架に並べ、それから5年経てば書架から外し、10年経てば廃棄・除籍してしまう、といったような流れを取っているかと思

います。そういった流れを取らないと、図書館というのは保管にも限界がありますし、利用されない資料の集まりとなってしまいます。

図書館としても悩ましいところかと思いますが、実際のところこのような運用をされているのでしょうか。

事務局 千葉市の図書館としては、原則買った本はずっと取っておきます。ただ、先ほども取り上げられましたベストセラーなど複数購入した本については、程度の良い本を選び、少部数の保管としております。

地区館などでは収納スペースも限られておりますので、中央館に集めて、1・2冊でもなるべく長期的に保管するよう、努めております。

見学されたこともあるかもしれませんが、中央館では自動出納書庫が地下に整備されておまして、そちらの方に長期保管をしております。時期が来たから廃棄というのはありませんが、雑誌や重要性の低い資料などについてはこの限りでなく、一定期間が経過しましたら処分するようにしております。処分についても棄てるとかではなく、市民への配布などのリサイクル資料として活用するという事です。

委員長 よろしいですか。千葉市は中央図書館の自動出納書庫のスペースがあるので、1冊もしくは2冊程度は取っておく、ということです。

他のところでも、何か意見はありますか。

委員 評価に携わった者としてこの場で意見を言うのは大変恐縮ですが、評価を行う中で思ったことをお話しさせていただきます。

全体としては、図書館が読書環境整備計画を策定された、ということについて、表現については見直すこともあるかもしれませんが、今まで千葉市として、図書館の担当の方が計画を策定することがなかったものですから、そういった意味では評価の言葉のとおり“画期的”なことだと思います。

1970年の図書館網計画は、図書館関係者でなく研究所の委託で作ったものと聞いております。今回は図書館業務に携わっている職員が策定されたということですから、この計画については高く評価しております。

ただ、前回の会議の際、計画に掲載されたICTの推進等の項目について、いつ頃、どのように実施されるのか行程を示してほしいとの意見が出され、その回答は、実施計画の予算の査定によるとのことだったと思います。

私たちとしては、この計画に基づき、年度毎にどのようなものが整備されるのか、5年間の計画の間の目安となるものがある程度示されると、評価の際、これは予定どおりにできているなど判断がし易くなるので、更にそのような計画を作っていただくと非常にありがたいと思いました。

それともう1つ、地区図書館についてです。これは委員長の説明にもありましたが、地区図書館の奮闘ぶり、頑張りが目につき、地区図書館は元気だというのがここ何年かの流れになってきております。

地区図書館が非常にユニークな取り組みをされ、どうやったらその地域の方に知ってもらえるだろうか、といったことに非常に工夫を凝らされていることは、図書館として非常に良いことであると思っております。

反対に1点、委員を務めさせていただき、疑問といたしますか強く感じたことに、縦割り行政があります。行政というのが、こんなにも融通が利かないものなのかということ、強く感じました。

例えば学校との連携について、学校には学校の縦割り行政・図書館には図書館の縦割り行政があります。今回、「目指せ! 日本一の読書の街!!」というスローガンで「まほうの読書ノート」を配られるようですが、これがどのくらい有効に活用されるのかというのは、学校と強い連携を取らないと、作りました・配りました、で終わってしまい、一切効果のないものになってしまうと思われます。学校とどれだけ結び付き、学校の先生や指導員の方とどれだけ密接に連携できるのかということが、成果になっていくと思われます。

それなのに縦割り行政の弊害で、「私の担当ではない」の一言がまかり通ってしまう、ということに、行政というのは非常に融通が利かないところだ、ということを感じました。

もう1つの例が、公民館図書室の問題です。いつもこの場で申し上げて

恐縮ですが、いつも「図書館の管轄ではない」の一言で、どうすることもできないで終わってしまいます。

そういうことで良いのでしょうか。そこを打ち破って、行政として市民にとって良い図書館というのを考える、何か努力をするというのは本当に難しいことなのではないでしょうか。これは、委員を4年間続けて強く感じたところです。

先ほどの学校との連携に関してですが、私は文庫活動をやっています。そのため、他にも文庫活動を行っている方が周りにはおりますが、その中には何千人もの生徒を抱える、素晴らしい活動をされている文庫の方もいらっしゃいます。私のところは数百人規模なのですが、どこが違うのか調べたことがあります。そうしましたら、その文庫は学校と非常に密につながっておりました。具体的に申しますと、1年間に7回、1年生の教室に入って授業の中でお話し会をさせていただいているそうです。2・3年生では年4回、それを10年近く実行されてきております。それだけでなく、お昼休みの時間の15分間を使い、週1回お話し会をしたり本を読んだりする活動を、15年間続けられているそうです。

そうすると子どもたちも、あそこに行けば文庫がある、文庫の人がお話しを読んでくれる、ということを知り、文庫にもよく通ってくれるようになるということだと思います。

文庫は学校と良い関係を築かれており、当然文庫もしっかりと良い本を揃えていて、しっかりとしたお話をされるので、子ども達をがっかりさせません。子どもは満足して帰ってくれるそうです。

私は、文庫がやっている活動こそ図書館が行うべき活動だと思います。もし図書館が地域の学校と一緒に活動することができれば、子ども達も図書館を知り、図書館に行くこともできるようになる。また、学校も調べものの時に、どう図書館を利用すべきかを知ることができる、といった非常に良い関係ができ、学校と図書館がつながりあえると思います。

文庫の例を図書館に当てはめてみましたが、このような活動が実際には難しい。本当はこのような活動を行わないと、読書活動の成果は上がらないと思います。縦割りではなく、横に連携し合うとか、柔軟にできないのだろうか、と思います。

例えば図書館も、学校の指導課と館長で話し合いの場を持ったり、学校の先生や指導員と図書館の児童担当者が話し合ったり、地域の学校の校長先生・教頭先生と地区図書館長が話し合ったり、といった形が取れないものかだと思います。

地区図書館では、そのような努力をされているところも既にあると思います。そこで地区館長さんに、学校や地域との連携について、どのような活動をされているのかお聞きしたいと思います。

委員長 いくつかのご質問等がありましたけれども、まずは読書環境整備計画の

策定は素晴らしいことであるが、実施スケジュールを示した上で取り掛かっていただきたいということ。もう 1 つは縦割り行政になりがちの中で、さまざまな連携を進めていただきたいが、学校との連携・地域との連携について、図書館で現在、どのような取り組みがなされているのかという質問だったと思います。

事務局の方から、これらの意見についてお願いします。

事務局 花見川図書館です。今お話をいただいた学校との連携につきましては、図書館から一番近い、こてはし台小学校と話し合いまして、今年から全校生徒・全クラスを対象とした図書館見学を行っております。

ちょうど今、進めている最中なのですが、各 1 クラスずつ、述べ 23 回にわたって行う予定です。

その中では図書館の案内はもちろんですが、併せて本の貸出、この機会に必ず本を借りて行ってもらいます。今回の見学に合わせ、全校生徒に利用カードを作りまして、発行枚数は 500 枚にも及びました。

これは新しい取り組みとして、学校と連携して子どもたちにもっと図書館を知っていただきたいということで行っておりますが、他の図書館も同様に、学校と連携した図書館見学や図書館案内は行っていると思います。

事務局 みやこ図書館です。今のお話を花見川から聞きまして、こちらでも何か同様の取り組みを、ということで、近くにある都小学校・鶴沢小学校を対象に、全校生徒に利用カードを作ってもらおうということで、今、カードの作成作業を行っているところです。

他の学校との連携につきましては、夏休みに子どもたちに図書館に来てもらってさまざまなイベントを行いますが、そのポスターを学校への掲示をお願いすると同時に、学校便りの方に図書館のイベントも掲載していただくようお願いをしております。

私の方から、各小学校長・教頭先生の所にお伺いして、このような取り組みを行っております。

事務局 緑図書館です。他の図書館でも実施しておりますが、町たんけんや職場体験、1 日図書館員や子ども読書まつりでの各種のイベントなどを実施しております。

図書館見学につきましては、今年から新たに、図書整理日として通常休館している第 3 木曜日、その日の図書館訪問も提案させて頂いております。

休館日の図書館見学については、メリットが多くあります。1 つ目は図書館を貸し切りにできる、児童室を自由に使って本を読むことができます。このためには、図書整理を午前中は行わず、午後に集中して行うなどの対応が必要となりますが、これにより、午前中は学校に自由に使うことができるようになります。

2 つ目は、館内をゆっくり見て回れるということです。図書館内には多くの書架や対面音訳室、拡大読書器、また閉架書庫やブックポストの裏側な

どの普段なかなか見ることができない図書館のバックヤードを見学することができます。

3 つ目は、実際に図書館システムを使用して窓口業務も体験することができます。これは 1 日図書館員のメニューにも入っておりますが、窓口で貸出・返却を行う、リクエストをかける、利用カードを作る、といった作業も、図書館が休館している中であれば、ゆっくりと落ち着いた環境の中でできるのではないかと思います。

これらの休館日ならではのメリットが多い提案も含め、学校側と十分に連絡・調整を図り、多くの子どもたちに図書館に足を運んでいただきたいと考えております。

委員長 以前、緑図書館には養護学校の生徒を受け入れられた際に伺ったことがあります。

事務局 袖ヶ浦特別支援学校からの受入を行いました。緑図書館の近くにある県立の特別支援学校で、1 年生と 2 年生を 2 回に分けて受入いたしました。

近隣にはこども病院の院内学級、千葉聾学校などの特別支援学校等がございますので、これらの学校のお子さんたちも十分に工夫をすれば図書館を見ていただけると考え、6 月 5 日に 2 年生 9 名、6 月 19 日の図書整理日は 1 年生 8 名来ていただきました。

中には重度のお子さんもいて、医師と看護師が同行されるという状況ではありましたが、職員総出で対応いたしました。

子どもたちと意思疎通することが難しく、少し不安もありましたが、後で先生に聞いたところとても喜んでいただいていたので、ほっとしております。

緑図書館では、このような取り組みも行っております。

事務局 先ほど申しました利用カードの作成についてですが、学校に協力いただくことによる、大きなメリットがあります。

子どもたちがカードを作るときには、住所などを確認できる証明が必要となりますので、普段は保護者の方が一緒にいないと、なかなかカードを作ることができません。子ども達だけで図書館に来て、カードを作りたいと言われても、なかなかできないことがよくあります。

それが、学校を通じてお願いして、責任を持って住所の確認をしていただくことで、子どもたちが利用カードを直接受け取れるということが可能になるのです。

今、みやこ図書館では鶴沢小でこの手続きを行っているところですが、450 人の全校生徒のうち、今まで 2 割程度しか利用カードを持っていない。つまり、残りの 360 人に利用カードを発行する手続きを行うこととなります。学校を通じて生徒から申請を行ってもらっているところで、現時点で 204 名から申請を受けております。遅れて申請をされる生徒さんもいますので、大体 250 名くらいの申請があると思われま

今後、カードを発行することで、これらの生徒さんが、夏休みに図書館を利用してくれるのではないかと考えており、大変期待をしております。

今後、鶴沢小につきましては、新入学生のみ継続して登録申請をお願いしていけば、全卒業生が利用カードを持つこととなります。

このような流れにつなげていきたいと思い、活動しております。

委員長 委員から縦割り行政についてご意見があったところですが、それでも各館ではいろいろな連携を既に手掛けられているということですね。

先生の委員の方々から、図書館と学校との連携についてお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 今年度新たに学校が替わりましたので、まだ図書館利用の状況とか生徒の読書活動については把握し切れていないところです。ただ、図書館として学校との連携についてどのくらいまで目指しているのか、少々分からないところがあります。

例えば、先ほど寄贈のお話がありましたけれども、学校には蔵書の数が平均 8 千冊ほどあります。それが、小中学校合わせると市内で 170 校ほど、単純計算で 130 万冊ほどとなります。これが千葉市の財産となっております。

実際にはバーコードなどが付いていない寄贈資料などもありますので、現実の保有数とはギャップがあるかもしれません。これらの資料が、今後図書館や市外の学校等との連携でどう活用していけるのか、バーコードが貼られている資料について、システムと連携してどう運用していけるのかというところを考えていく必要があるのではないかと考えております。

それから、子どもたちの受入に関しては、図書館でも「きて、みて、発見！身近で頼れるみんなの図書館」というフレーズを出されており、各館でさまざまな工夫をされて対応されています。

学校としてもまずは身近な公民館図書室、それから地区館へと足を延ばしての見学等により、子どもたちに図書館を知ってもらうよう・図書館に足を運んでもらえるよう、考えております。

小学校 2 年の単元で「図書館に行こう」という題材があるのですが、この段階で地区館に行ったことのない子どもたちが多数います。その教材の中では、図書館の人はどのようなことをしているのか、どのようなものがあるのか、みんなどのような本を借りたり読んだりしているのか、本を読みたいときどうすれば良いのか、ということが書かれていて、それに沿って授業を進めていきます。

そうしますと、図書館が閉まっている特別な日に行くのはいかがかと思えます。生涯学習の観点でも、将来、子ども達が図書館を使うようになるという目的があると思うのです。

開館日の受入について、地区館として人数的な課題もあると思うのですが、そのところも考えた体制づくりをしていただきたいと思います。

それと、私の学校から地区館に行くには電車に乗らないと行けません。公民館図書室は、歩いて行ける範囲にあるのですが。電車で行くとなると、どうしても学年一斉とかになってしまい、気軽に行くことが難しくなります。

地区館も大変かとは思いますが、学校とも相談しながら受け入れ体制を整えていただけると良いかと思います。

何度も申しますが、図書館は学校や司書教諭、学校図書館指導員の方などと、もう少し話し合っただく機会を持つべきかと思います。

学校でも学校だよりに図書館のお知らせを入れるなど、利用を促すような協力はできると思います。夏休みに向け、そのようなつながりがあると良いかと思います。

委員 私は、数年ぶりに中学校に戻りました。昨年までは事務局にありましたものですから、今の中学校の実情をしっかりと把握できているわけはありません。ただ小学生と比べると、中学生の図書館の利用状況は少ないかと思います。

それは、中学生が忙しさによるものだと思います。例えば、放課後になると本校で大体9割の生徒が部活動に入っています。部活動が終わるのが、6時半ごろ、それから家に帰るのではなく、7割の生徒が塾に通っている状況です。土日も部活動があったりしますので、なかなか図書館を利用する機会がない状況です。

そのような中で、学校が図書館を使うようになるための方策としまして、本校も朝読書というのを行ってありますが、かなりの割合の中学校で行っているようです。その活動における本の貸出などについて、図書館と連携してできないかと思います。

また、先ほどもお話がありましたが、生徒に余裕ができるのが長期休暇、夏休みや冬休み、春休み等の期間における図書館利用の推進に協力できないかと思います。図書館だよりに学校で配るというのもあるかと思いますが、積極的に学校でもPRすることも可能かと思います。

それと、14ページ(2)“エ”の項目、団体貸出の項目についても、もっと連携が取れるのではないかと思います。中学校の教員は教材研究に追われ、なかなか団体貸出を利用するほど余裕がない状態です。少し運用を工夫して、例えばコメントのとおり配送体制を改善していただければ、もっと活用することができるのではないかと思います。

現在、本校では生徒に図書館だよりは配っていないと思います。それを学校で配って、先生方から生徒に対して利用してはどうかと一言かければ、もともと生徒は本が好きですから、図書館の利用もどんどん増えていくのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。委員から学校図書室の資料のシステム、蔵書管理についての課題についてお話がありましたが、図書館としての課題にもなるかと思います。公共図書館の中で学校図書室の資料を管理する事例

もありますので、これからの課題にもなり得るかと思えます。それから中学校について、なかなか現場は厳しい状況ですので、朝読や団体貸出の件で連携していく切り口が必要ではないかということです。

評価の中にどこまで文言として入れていけるか分かりませんが、この後少し考えさせていただきたいと思えます。

連携の件についてはよろしいでしょうか。他にありますか。

委員 私も今のお話に関係して発言させていただきたいのですが、小学生は絶対に図書館に連れて行かなくてはならないと思っております。これをやらないと、図書館・紙の本は終焉を迎えると思えます。

現状を見ますと、図書館の見学とか、お話し会、調べ学習、職場体験とかいろいろなメニューがあります。概算ですけれども、中央図書館で年間約3千人の小学生が来ております。それから、お話し会ではみやこ図書館が約450人、調べ学習でも中央図書館の利用が多くなっていますが、年間300人足らずとなっています。

是非とも、学校の授業の一部を図書館で行ってもらいたい、教育センターなどと密接に連絡を取って実施してもらいたいと思えます。

先ほどもありましたが、小学校2年に単元があるわけです。4年あたりでもあったと思えます。低学年では見学程度になってしまい、良く分からない印象しか残らないかもしれません。高学年ならば、自分でも来られようになるので、できれば高学年の方が望ましいのですが、学校から生徒を地区図書館に連れて行き、その授業をするのです。

これは地区館だけでなく、中央図書館、また分館等の協力が必要かもしれません。千葉市で約120の小学校がありますから、各区20校程度。それら生徒を連れて行くとなると、そのための体制を図書館としてもきちんと取らなくてははいけません。場合によっては、木曜日に本の整理日がありますが、その午後の半日はその対応に向けるとか、他の日でも午前中は学校の受け入れたために臨時休館し優先対応するとか、そのくらいの対応を取る必要があります。学校としても、生徒をバスや電車で図書館に連れて行くというのは大変なことから、図書館でも相応の対応をする必要があります。

1年に1回でもいいですから、そういう経験をさせないと、一生図書館と縁がない子どもがたくさん出てきてしまいます。

現にそうなっているかもしれません。本来、一番本と縁があるはずの大学生が、4人に1人が一週間に1冊も本を読まないという状況になっております。逆に、1日のうち4時間程度はネットやゲームに費やしているそうです。活字からどんどん遠ざかっています。

ですから、小学生の時に一遍でも図書館に連れて行くことは非常に大事です。

また、先ほどみやこ図書館から話のありました利用カードですが、自分のカードを持つということは、子どもたちにとってすごくうれしいことだと

思います。私個人の経験でも、自分で本を借りることができるのがうれしくて、図書館に通った記憶があります。カードというのは、自分の財産として感じる事ができるのです。

多分、その子どもたちは、友達と一緒にいく、親と一緒にいくことも出てきて、利用者の拡がりが出てきます。まずは授業の際の強制でもいいですから、子どもたちにそういった経験をさせ、図書館は良いところだという経験をさせないといけないと思います。

単元を図書館で行うとなると、恐らく2時間くらいはかかると思います。どんなに頑張っても、1日に2校程度しか受け入れられないかもしれません。図書館としては教育センター等と事前調整し、年間スケジュールを組んで計画的に対応する必要があります。カリキュラムも整備する必要がありますから、担当者は非常に大変だと思います。もしかしたら、現在休館している月曜日とかに、学校のために開放することも必要になるかもしれません。

しかし、その位のことをすることが必要です。そこまで図書館として覚悟を持って踏み込まないと、子ども達全てを図書館に連れて来られないと思います。

準備だけでも1年かかるか、2年かかるか分かりませんが、千葉市としてこれだけは取り組んでいただきたい。是非ともこれらの取り組みにより、図書館と学校との関わりを作ってほしいと思います。

中央図書館ではかなり受け入れ対応をされていますので、地区館・分館も大変かと思われませんが、是非とも頑張ってくださいと思います。

委員 今のお話ですが、中央館は限られた学校しか受け入れておりません。やはり遠方の学校はそもそも行くことができないと思います。

ですので、花見川図書館やみやこ図書館のように、やはり地域の図書館が対応して下さるといのは、非常に力強いことかと思えます。

配布された読書ノートの表題にある、“目指せ！日本一の読書の街!!”というのが千葉市の目標のようですから、千葉市として一丸となって対応していただくことが必要になってくるかと思えます。

最後の意見ですけれども、地域の子どもの読書量、本を読む冊数が減ってきている現状があります。もちろん、子どもが減っているから全体的な冊数が減ってきているというのがありますが、図書館の方でもなぜ読書の数が減ってきているのか、分析することが必要だと思えます。

原因について、私としては学校との連携不足と、地域で一番身近な図書館施設が不十分であることかと思えます。

先ほどの委員のお話でも、学校から一番近い図書館施設は公民館図書室だということです。歩いて行ける施設はそこだけだということです。やはり、日常的に通えるところの施設として地区館や分館、公民館図書室があるわけです。お話し会や本の紹介がある・楽しい体験ができるということは、これらの身近な施設で対応していただく必要があると思えます。

委員長のお話のとおり、それが出来れば千葉市の大きな特色になります。公民館図書室などを、子どもたちや高齢者に対して身近な読書の場として認識される、楽しい場所として捉えてもらえるのではないかと思います。

このまま公民館図書室が、図書館から分離した施設として扱われていくことの問題について、何とか図書館として考えていただき、よりよい市民への読書環境の提供という点で、この問題を捉えていただきたいと思います。

委員長 私も、一番市民の身近にある図書館ネットワークを大事にしていくというのは必要だと思いますし、その点からも公民館図書室を充実させていくことは、千葉市の大きな財産になるのではないかと思います。

あと私の方からですが、先ほど私から総合評価説明(p.25)の読書環境整備計画の策定について、“画期的な”というところの表現についてはそのとおりだと思っていますが、その前の“今までの図書館では考えられないくらい”のところについては 2 重の表現になってしまっておりますので、削除したいと思っております。

時間が押しておりますので、まとめていきたいと思っております。

他に評価についてこれだけは、という方はいらっしゃいますか。

委員 評価で困ったことなのですが、外部評価に当たり、内部の取組結果を参考にさせていただいた際、その取組をされたのがどこの館なのか、何回くらいされたのかというのが全く報告から読み取れませんでした。

取組項目の中に「(全館)」 「(中央館)」などの記載があるものの、これだけで評価するには不十分で、評価の際に大変苦勞しました。また回数についても、1回でも「やりました」で片付けてしまうのは問題だと思います。

具体的に、というとはっきりとは申せませんが、これについてはこの館で行いました・何回やりましたというところを、結果の中にしっかりと表していただけると良いかと思います。

委員長 確かに、実施回数については必要な評価材料だと思います。

事務局 次回は、もう少し分かりやすく、具体的に見直したいと思っております。

委員長 他にありますか。

委員 よろしいでしょうか。10 ページの市民講座についてです。

現在の市民講座は劣化している、マンネリ化していると思っております。図書館独自で郷土史講座等も行っているとは思いますが、受講者も今のメニューに飽きてしまっております。

郷土史・古文書の講座、図書館の利用案内などだけでなく、例えば図書館は作家の活動とも連動してまいりますので、図書館で作家を呼んで来てはいかがでしょうか。年間スケジュールを立てて、計画的にお願いすればできるはずだと思います。

この間いただいた図書館だより(第 49 号)に、千葉市のゆかりの作家に関する記事がありましたけれども、確かにたくさんの方がいらっしゃいます。一番良い例が椎名誠さんです。この近辺でも中田耕治さんが居ますし、村山

由佳さんも千葉県在住だったかと思います。

他の図書館や出版社の協力を得ることができれば、市民講座の中に人が集まるものができるのではないかと思います。

毎月とかでなくて構いませんので、今の市民講座に替わるような新しいものを作っていないと、ただやっているだけという名折れの講座になってしまうのではないかと思います。

委員長 分かりました。今のご意見等についても評価の文言に加えられるかどうか、考えてみたいと思います。

他はよろしいでしょうか。そうしましたら、色々な貴重な意見をいただきましたので、今日出た意見を精査させていただき、修正案を作りたいと思います。その作業は私の方に一任させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

委員 <異議なし>

委員長 修正案に関しましては。出来上がり次第皆様に照会しますので、確認していただいた上で決定したいと思います。よろしいでしょうか。

それでは異議がないようですので、議事(2)の評価については以上とさせていただきます。

次第の「3 その他」に入る前に、本日発言のない委員さんもいらっしゃいます。任期中最後の協議会となりますので、評価の関係でなくて結構ですので、一通り皆様から、図書館に関するご意見などをいただきたいと思います。

委員 改めてお話しする形で申し訳ありません。評価コメントにつきまして、高齢者に関する記載は多くありますが、障害者に関する記載が非常に少ないように感じます。

私も、目を悪くしてから視聴覚ライブラリーをかなり利用するようになったのですが、これが大層資料が古く、今は使いづらいカセットテープがほとんどです。それらを使うしかない利用者のためにも、もっと整備されても良いのではないかと思います。

健全者でない人のための資料の整備などについて。もう少し触れてほしいと思いました。

委員 評価の内容につきましては、よろしいかと思います。

評価に見えない部分で是非お願いをしたいのですが、先ほど学校との連携のお話しの際に。地区館長からのお話を伺いました。しかし、大体が図書館近辺の学校のことばかりなのが気になりました。

私の地域は稲毛区ですが、山王地区で地区図書館とはかなりの距離があり、図書館は全く身近な施設ではありません。学区によって図書館とのつながりに差が出てきてしまっているようですが、その差がなるべくないようにしていただきたいと思います。

これは図書館だけでなく、学校に対してもぜひお願いしたいことです。読書活動の推進については学校も非常に重要な役割を持っておりまして、

学校から引き続き情報を発信していただくことが必要になってくるかと思
います。現場でも、図書館利用について先生方からのお話があって良いかと思
います。今まで学校から、こういった紹介はなかったかと思しますので、
学校の中でも、情報提供の差がないようにしていただきたいと思います。

あと、一市民としての意見ですが、折角千葉市には6区あり、各区に図
書館があるのですから、知的好奇心をそそるような特色が各図書館にあると、
非常に魅力的になって良いのではないかと思います。

これは、あらゆる年代に対して発信していけるような特徴があれば、利
用者のいろいろな図書館を回ってみようといったきっかけになると思いま
す。

最後に、評価にもたくさん載っていましたが、図書館のPRをもっとし
ていただきたいと思っています。こちらから動かなくても、図書館の情報が
届くようなPRを、是非充実させてほしいと思えます。

委員 評価の中で、子育て支援について感じたことがあります。私の子どもが
1,000世帯ほどの子育て世代が集まっているマンションに住んでいるので
すが、そこには移動図書館のような、本を持ってきてもらえるサービスは
来ておりません。

特に私も関わっているわけではありませんが、やはり住民の方から積極
的に動かないと、そういったサービスの提供は期待できないのかな、という
感じがしております。

図書館としても、こういった地域に積極的に働きかけ、本の紹介や貸出
サービス等を実施してもらえると良いのではないかと思います。

副委員長 小中学校との連携のところを、非常に興味深く聞かせていただきまし
た。我々の大学と公共図書館との連携について、なかなかすぐには浮かびませ
んが、資料費が減っている現状は大学も同じです。大学では一般的な小説
等は買わない方針となっており、それらを見たいという学生からの問い合
わせに対しては、千葉市の図書館を案内させていただいております。

逆に専門書につきましては非常に充実しておりますので、直接的な連携
ではなくても、蔵書構成の違いの中で、緩やかながらも協力関係を作ってい
けるのではないかと思います。

とはいいいましても、大学図書館も地域への開放を行っているものの、公
共図書館のような自由な利用はできず、一定の制約が生じてしまいます。そ
ういった実情を踏まえた上で、協力関係を築きあげていければ良いかと思
います。

委員長 ありがとうございます。

委員長 それでは、次第の「3 その他」について、事務局からお願いします。
事務局 正式には「まほうの読書ノート」という名称となりますが、評価の中でも
何度か取り上げていただきました、ファミリー読書ノートの配布について

ご報告させていただきます。

《配布資料「小学校1年生から3年生に「まほうの読書ノート」を配布します ～目指せ!日本一の読書の街!!～」に基づく説明》

委員長 ありがとうございます。

今のご報告について、何かご質問等ありますでしょうか。

委員 無理だとは思いますが、配布される7月16日以降は、ほとんど夏休みに入ってしまったっております。

19日で学校が終わってしまうので、もう少し早くいただいて、夏休みにたくさんの本を読んでもらう、子どもたちに早く渡せるようにできれば良かったと思います。

事務局 学校に納品されるのは、11日頃になるかと思いますが、16日に贈呈式を行いますので、16日以降、夏休みまでの期間に学校からお配りしていただきたいと思います。

委員 分かりました。

委員 是非とも、このノートの魔法が効くようお願いしたいと思います。

この読書ノートをきっかけに、学校の司書教諭の方、指導員の方、図書館職員と一緒に話し合いができる機会が持てるよう、協議会でも提案されてきたかと思いますが、これをどのように有効なものとしていくのか、しっかりと話し合いを持っていただきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。この読書ノートの作成につきましては、学校指導員の意見を取り入れながら、この事業の継続・拡大に向けて改善をしていきたいと思っております。

委員長 是非とも有効なものにしていきたい、そのための評価についても実施していただきたいと思います。他にありますか。

委員 ニュースリリース(マスコミに向けた情報発信)はされておりますか。

事務局 大変申し訳ありません。本日、市長の定例記者会見がございまして、ここで市長から発表しております。本日の協議会で管理課長が遅れて来ましたのは、その関係からです。

委員長 よろしいでしょうか。

それではこれで、本日の予定は全て終了いたしました。限られた時間の中で貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

また、本日の協議会は、この期の任期中の委員による最後の協議会となります。今回の改選を機に退任される方につきましては、いろいろとありがとうございました。これをもちまして、終了とさせていただきます。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。

以上をもちまして、平成26年度第1回図書館協議会を閉会します。

なお、本日の議事録につきましては、事務局で議事録案を作成し、委員長の承認をいただいた上で確定とさせていただきます。

確定後速やかに委員の皆様にご報告いたしますので、よろしくお願ひします。

なお、中央図書館長におきましては、7月1日付け人事発令により異動の内示がありましたので、一言ご挨拶させていただきます。

《中央図書館長あいさつ》

委員長 非常にお世話になりました。開館日の増加や、デジタルアーカイブの実施など、図書館行政に積極的に関わっていただき、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

事務局 それでは、以上で終了とさせていただきます。

本日は長時間にわたり、慎重なるご審議をいただき、誠にありがとうございました。

<閉会>

問い合わせ先 千葉市教育委員会事務局
生涯学習部中央図書館管理課
TEL 043(287)4081
FAX 043(287)4051

(案)

平成25年度 千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン2010」の目標と方針に沿い、平成25年度の図書館評価を示します。

千葉市図書館の目標

- 目標1 地域を支え、暮らしや仕事に役立つ図書館
- 目標2 生活に潤いを与え、心の豊かさをはぐくむ図書館
- 目標3 文化や知識を伝え、次世代を育てる図書館

評価

- A : 計画通りに実施でき、一定の成果があった。
- B : 課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
- C : 不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

【方針1】図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能を拡充します

(1)資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 資料の収集・提供を迅速に行い、図書館の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週実施している各地区図書館職員との合同選定会議や、館内選定会などで資料の選定を行い、利用者の要望などを迅速に反映させ、資料の収集に努めた。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し、中・高生の利用促進を図った。 ●リクエストを受けた未所蔵の資料について、購入や相互貸借などにより、速やかに用意するよう努めた。 	B	<p>結果として貸出冊数の増加や来館者の増加につながっていない。その原因を分析し、利用の促進を図る必要がある。</p> <p>迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書を選定と、児童書を含めた迅速な資料の収集・提供に努めて、減少している貸出数に歯止めをかけていただきたい。</p> <p>中・高校生向けの本を重点的に収集されたことは評価できるが、利用がどのぐらい伸びているか分かる資料が無く、YA世代の利用促進に繋がったのかは疑問が残る。</p>
	イ 資料費を有効に活用し、図書資料の充実を図り、利用者に提供します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。 ●中央館及び地区館間等で資料の一時移管による有効活用を図った。 ●CD等を含めた寄贈資料を積極的に受け入れ、古くなった資料の入替を行った。 ●資料を企画展示に併せて購入し、展示・紹介することによる利用促進を図った。 	B	<p>資料費の伸び悩みはあるものの、様々な工夫で市民にとって適切な資料を収集し、提供していることを良しとしたい。図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。資料を企画展示と結び付けて購入、紹介したことも、工夫が感じられ、高く評価したい。</p> <p>しかしながら資料費が増加せず、受入図書資料数は減少しており、またその40%を寄贈に頼っている現状には疑問が残る。適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、資料費の継続的な確保に努めていただきたい。</p>
	ウ 市民の財産である資料を適正に管理、保存します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●中央館、公民館図書室で蔵書点検を実施した。 ●除籍資料選定委員会での適切な除籍(*1)や、同じタイトルの資料のうち1冊は保存に努めるなど、資料の適正な管理と保存を行った。 ●汚破損が著しくも、利用価値のある資料は、自動出納書庫へ移管することにより、資料の保全及び利用しやすい書架づくりに務めた。 ●延滞している資料について、繰り返し電話等で督促を行い返却を促すことにより、引き続き延滞件数が減少した。 	A	<p>市民の貴重な財産である図書館資料の保全に努め、適切な維持管理が行われていることは評価する。引き続き延滞資料の減少に努めてもらいたい。</p> <p>蔵書点検が隔年実施となった。今後の経過の見守りをお願いしたい。</p> <p>利用者のマナー向上については、引き続き展示や掲示などによる対応を望む。</p>

<p>エ 館内表示の改善や利用マナー向上の呼びかけなどにより、利用しやすい図書館環境づくりに努めます。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●書架サインや案内表示を、わかりやすく、使いやすくなるよう一新 ●利用案内・利用カードの改訂及び仕様(サイズ・材質)の見直し ●館内案内図の見直し ●居心地の良い環境整備のため、季節ごとに登録カウンターや障害者サービスの館内掲示を変更 ●施設内への貼り紙掲示(「雨天時のタイル滑りの注意」、「利用者以外の駐車厳禁」等) ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出し ●ベストセラー書架の面展示の継続実施 ●本を探しやすいよう、書架の本を適正な量に削減 ●利用マナー向上を促すサインの掲示(駐車場使用に関する譲り合い、飲食・喫煙・携帯通話の禁止など) ●配布用の図書館カレンダーに利用マナーを掲載 ●汚破損資料の展示など、利用マナー向上キャンペーンの実施 ●館内見回りの強化と利用者への声掛けの実施 ●資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。 	<p>A</p>	<p>利用しやすい環境の整備や利用マナー向上への取り組みなど、随時適切な対応が行われている。これによって利用の促進が図られることを望みたい。館内表示についてはかなり工夫が見受けられ、わかりやすくなっている。また、利用カードの仕様の見直しも使いやすくなると思う。</p> <p>特に、利用マナーについては基本的に利用者側の問題であるが、議会でも取り上げられ、その対策を考えねばならない。図書館として様々な対策がなされ、少しずつ向上していることから、引き続き啓発をお願いしたい。また、館内の見回りが必要かもしれないが、監視されているようにならないよう注意が必要である。</p>
<p>オ 施設を的確に安全管理するとともに、防災体制を整えます。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●エレベータ、非常放送設備等の館内設備について、定期的な点検を実施した。 ●非常口の案内表示・消火器の設置・書架の転倒防止措置の再点検を実施した。 ●防災訓練を実施し、避難・誘導等について確認した。 ●緊急時の即時対応を図るため、カウンター内に「防災用具」を保管した。 ●救命救急のため、心肺蘇生法とAEDの使い方について実習した。 ●地域の自治会の消防訓練にも参加し、連携を深めた。 	<p>A</p>	<p>施設の安全管理や防災への備えは、市民の生命を守る基本的な行為であり、必要な対応は行われていると思う。特に心肺蘇生法とAEDの使い方についての実習、地域の自治会の消防訓練への参加等、防災に関する取り組みの広がりを評価する。地域の中の施設として、今後も引き続き安全対策に努めてもらいたい。</p> <p>なお、図書館側の取り組みの強化とともに、利用者も参加する防災訓練等の実施についても検討していただきたい。</p>
<p>カ 移動図書館車による図書館サービスを提供します。(中央館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市内27か所のステーションを月2回巡回し、貸出、返却、予約受付等を実施した。 *ステーション巡回数:608回(前年比 2回減) 貸出冊数:61,448冊(前年比 6,319冊減) 	<p>B</p>	<p>固定館まで行けない市民にとって移動図書館車の巡回は必要なサービスである。</p> <p>利用冊数が減少しているのが懸念されるため、利用冊数の減少の原因を分析し、ステーション設置場所の見直しなど、今後も利用の活性化に努めていただきたい。</p>
<p>キ 図書館業務に関する専門研修を実施し、職員の業務水準を向上させます。 * 図書館職員初任者研修(中央館) * 図書館職員全体研修会(中央館) * レファレンス・スキルアップ研修(中央館) * 新任児童職員研修会(全館) * 障害者サービス職員研修会(中央館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員(非常勤職員(*2)も含む)のスキルアップを図るため、障害者サービス、レファレンスサービス(*3)及びおはなし会(*4)等の専門研修を実施した。 ●より多くの職員に研修への参加を促す必要がある。 	<p>B</p>	<p>職員のスキルアップは、サービスの質を担保するためには不可欠なことである。非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。</p> <p>レファレンスサービスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施していただきたい。</p>
<p>ク 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上につなげます。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員(非常勤職員も含む)を対象とする、接遇研修を実施した。 ●館内会議等を通じて、接遇能力の向上やスキルアップにつながる情報の共有を図った。 ●窓口の応対に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。 	<p>B</p>	<p>接客マナーの徹底は図書館サービスの基本であり、引き続き実施に努め、サービスの向上につなげてもらいたい。</p>

<p>ケ 公民館図書室に対する選書、レファレンス、研修等の支援を行います。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公民館図書室の初任者向けの研修会を開催した。 ●公民館図書室に対する、選書、レファレンス、寄贈等の資料の移管、相互貸借による資料提供のための支援を行った。 ●月1回の連絡会等において連絡を密にとり、各種相談対応や情報提供などの支援を行った。 ●より多くの職員の研修会への参加を促す必要がある。 	<p>C</p> <p>市民の一番身近にあり、市図書館の無い地域の市民にとって無くてはならない施設となっている公民館図書室の存在意義は大きい。そのため、利用者が公民館図書室において市図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に対する図書館業務に係る研修等の充実と資料費等の増額が必要である。アンケート調査ではプライバシーについての苦情があがっているため、図書館業務の基本姿勢についての研修強化をお願いしたい。</p> <p>なお、高齢社会の到来によって、あるいは子どもたちの育成に身近な図書館はより重要になる。図書館行政を充実させる最も重要な図書館施設として公民館図書室を位置付け、図書館が責任をもって充実させることは、今後の千葉市の特色にもなる。市民の身近にある小さな図書館を大切にす図書館行政を、千葉市の特色にしてもらいたい。</p>
-----------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備

<p>取組項目</p>	<p>ア 正確な情報提供のための有料データベース等の活用や、電子図書等の収集と提供のあり方について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有料データベースについては、必要な経費が確保できなかったため、引き続き検討する。 ●国立国会図書館が配信を開始した「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に対応するため、予算措置を行った。〔26年度導入予定〕 ●引き続き状況を見ながら検討していく必要がある。 	<p>B</p> <p>電子情報に対する取り組みの遅れは以前から指摘している。有効な有料データベースもあり、現代の図書館サービスには不可欠であることを財政当局にも理解してもらい、早急な対応が必要である。</p> <p>国立国会図書館が配信を開始した「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に対応するため、迅速に予算措置を行ったことは大いに評価する。</p> <p>電子資料の必要性や費用対効果については、状況を見ながら検討していただきたい。</p>
	<p>イ 館内公衆無線LAN環境(*5)の整備等について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●館内公衆無線LAN環境の整備について、予算措置を行った。〔26年度導入予定〕 ●25年度に策定した「千葉市読書環境整備計画」に、無線LAN(Wi-Fi)の導入に向けた方向性を示した。引き続き地区館等への設置について、推進を図っていく。 	<p>A</p> <p>館内公衆無線LAN導入の予算措置については、一歩前進であり期待したい。</p> <p>今後、全館への対応を望みたい。</p>
	<p>ウ 視聴覚資料の収集、提供、保存のあり方や、新しい情報媒体への対応について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●DVD・CDを厳選して収集し、視聴覚資料を充実させた。 ●VHSの需要が少なくなったことを考慮し、開架のVHSをすべて自動書庫・カウンターバックへと移動した。 ●新しい情報媒体については、普及率や市場動向など、引き続き状況を見ながら検討する。 	<p>B</p> <p>視聴覚資料サービスは、媒体の変化が激しく先の見通しが立てにくい。図書館資料としての価値判断をして、収集・提供・保存を行う必要がある。VHSの保存場所を移動し、より利用の多い資料を提供するよう工夫されたことは評価する。</p> <p>なお、利用者アンケートにも多数意見が寄せられているように、DVD・CDは古いものが多い。さらなる視聴覚資料の充実を望む。</p>

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
1-1	市民一人当たり貸出数及び総貸出数	対前年度比増	一人当たり 5.0冊	未達成 (前年比0.2冊減)	一人当たり 5.2冊	一人当たり 5.4冊	1年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 25年度 総貸出数 483万冊 24年度 総貸出数 503万冊 23年度 総貸出数 523万冊

1-2	WEB予約件数	対前年度比増	91.4万件	未達成 (前年比0.6万件減)	92.0万件	92.3万件	図書館ホームページからの予約状況
1-3	年間受入図書資料数	現状維持	57,783冊	未達成 (前年比1,802冊減)	59,585冊	68,745冊 (うち「住民生活に光を注ぐ交付金」による購入数: 20,166冊)	千葉県図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、製作) 25年度 うち購入35,643冊 寄贈21,932冊 その他208冊 24年度 うち購入36,624冊 寄贈22,793冊 その他168冊 23年度 うち購入48,527冊 寄贈20,116冊 その他102冊
1-4	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	121回 延べ546人	達成 (前年比6回減、 述べ18人増)	127回 延べ528人	135回 延べ557人	千葉県図書館において開催及び千葉県図書館職員(非常勤嘱託職員・非常勤職員含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数

内部評価

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用者の要望などを反映させた資料の充実を行ったほか、資料の適正な管理と保存を行った。 ●市民一人当たり貸出数及び総貸出数、WEB予約件数、年間受入図書資料数について、目標を達成できなかった。 ●資料を企画展示に併せて購入し、展示・紹介することによる利用促進を図った。 ●寄贈図書を活用し、古くなった蔵書の入替を行った。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し充実を重点的に図るなど、資料費を有効に活用した。また、マナー啓発等を積極的に実施し、延滞件数の減少につなげるなど、資料の適正な管理を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民一人当たり貸出数及び総貸出数の減少傾向に歯止めがかかっていないことから、図書館未利用者への利用啓発、新しい情報媒体への対応等の環境整備について、検討を進めていく必要がある。 ●資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。 ●より多くの職員に研修への参加を促す必要がある。 ●窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。 <p>【方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料の充実を図るため、資料費予算の確保に努める。 ●予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用を努める。 ●無線LAN(Wi-Fi)の地区館等への設置について、推進を図っていく。

外部評価

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館が様々な事業を展開しているが、貸出冊数や来館者数などは減少している。インターネットの普及なども考えられるが、その原因を究明し、更なる利用の拡大に努めてもらいたい。 ●「千葉県読書環境整備計画」に基づき、中央図書館の館内公衆無線LAN環境の整備に予算がつき、一歩前進できたことは大変良かった。 ●企画展示に際して、資料の展示・紹介が地区図書館でも良くなされていた。 ●資料費が増加せず、資料購入数が減少している。年間受け入れ冊数の40%を寄贈本に頼るのは蔵書構成、資料の充実の視点からも問題である。 ●案内表示の工夫、延滞件数の減少、マナー啓発について努力がされている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料の充実を図るために、資料費の増額に更なる努力が必要である。 ●科学の本について、実物を展示し、興味を深める試みがされ、大変良かった。次に、展示する段階から、参加し、体験して図書館を身近に感じて、恒常的な利用者になってもらう工夫が必要だと思う。 ●監視を強める方法ではなく、利用者のマナー向上の対策を工夫する必要がある。 ●高齢社会の到来によって、あるいは子どもたちの育成に身近な図書館はより重要になる。図書館行政を充実させる最も重要な図書館施設として公民館図書室を位置付け、図書館が責任をもって充実させることは、今後の千葉市の特色にもなる。市民の身近にある小さな図書館を大切にしている図書館行政を、千葉市の特色にしたい。

【方針2】課題を解決するためのサービスに取り組みます

(1)レファレンスサービスの充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア レファレンスサービスの利用を促進し、市民の課題解決を支援します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページ及びFacebookにおいて、レファレンスサービスのPR等を実施した。 ●電話や図書館ホームページからのメールレファレンスに対して、資料提供等によるサービスを実施した。 ●レファレンス案内の館内掲示や利用者への声掛けによる、利用者への周知を図った。 	B	<p>レファレンス件数については減少しているが、インターネットの普及によって簡易な調査は利用者自身が行っていることも考えられる。今後は、レファレンス内容の分析を行い、質問の傾向と対応へのノウハウの蓄積を行う必要がある。</p> <p>案内掲示や利用者への声掛けにより、利用者への周知をはかったことは評価できるが、レファレンス件数は若干減少している。図書館に対する認識が「本を借りるところだけではなく、問題解決の手助けもしてもらえる」となるよう工夫が必要であり、図書館が課題解決の場でもあることを知らない人のために、さらなるPRの実施を望む。また、学校と密に連携し、子ども達に図書館でのレファレンスサービスをPRすることも、将来の利用者に対する対応として大切である。</p> <p>的確なレファレンスサービスの回答が得られない場合があるため、職員の本を知る努力と研修の必要を感じる。市民が望む課題解決に対応できるよう、的確で迅速なレファレンスサービスを望む。</p> <p>SNS活用については、公的な機関としての制約もあり、実施における効果や問題点の再評価をする必要がある。</p>
	イ 「調べ方案内(パスファインダー)(*6)」などの提供内容を充実させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を追加(35件)した。 ●教職員向け講座や出張授業で、図書館ホームページの「しらべかたのあんない(パスファインダー)」を積極的に紹介し、使い方を説明した。 	B	<p>「レファレンス協同データベース」への事例の登録が増加したことは評価できる。</p> <p>パスファインダーについては、若干件数が増加したが、更なる件数の追加を望む。また、来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体による提供等、更なる工夫が必要である。</p>
	ウ 図書館のホームページ内「レファレンス事例集」の掲載内容を充実させます。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス)」に掲載するレファレンス事例の候補について検討を行い、公開に向けた準備を進めた。[26年度公開予定] 	C	<p>よい企画であり、今後に期待したい。</p> <p>なお、千葉市に関連する独自の事例や、レファレンスに親しみのもてる事例の掲載なども検討し、公開していただきたい。</p>
	エ 図書館資料の検索講座等を実施し、市民の情報収集力・活用力の育成を支援します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●新規登録や更新時に、個人レッスン形式で図書館資料の検索・予約法を指導した。 ●利用者用検索機の使用説明を随時行った。 ●利用者用検索機に、検索機から資料情報票を印刷する方法の説明を貼り出すことで、資料情報票持参によるカウンター予約が増えた。 ●引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。 	B	<p>図書館の姿勢として市民の情報収集力・活用力を支援することは不可欠であり、新規登録や更新時に検索・予約法を知らせたり、利用者用検索機の使用説明を随時行う等、個別への取り組みは評価できる。</p> <p>現状は図書館の検索機利用の初歩の案内である。より深く、情報や資料の活用に対する支援は講座をするなり、より積極的な試みが必要である。</p>

<p>オ 定期的な研修を実施し、担当職員のレファレンス技術を向上させます。(中央館)</p>	<p>A</p>	<p>●地区図書館職員・嘱託職員(*7)を対象とした「レファレンススキルアップ研修」を実施(4回)した。</p>	<p>B</p> <p>定期的な研修の実施は評価するが、研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。 的確なレファレンスサービスの回答が得られないことがあり、職員により差がある。分野により専門的に答える体制ができていないので難しいことは理解できるが、改善は必要である。研修の回数ではなく中味が大切だと考える。 この原因は専門的職員が少なすぎることに起因するとも考えられ、司書の充実、育成が必要である。</p>
------------------------------------------------	----------	----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2)だれもが利用しやすい図書館サービスの展開

<p>取組項目</p>	<p>ア 地域の実情や世代別のニーズ等を考慮した図書館サービスを拡充するとともに、図書館未利用者に対するPRを強化することなどにより、図書館利用者を増やします。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に応えた。《【方針1】(1)イ再掲》 ●子育て世代を支援するため、「子育て応援コーナー」を新設した。《【方針2】(2)ウ参照》 ●書架の移動など館内レイアウトの見直しや、「岩波ジュニア新書」を対象世代である中・高校生が目にしやすいYA(*8)コーナーに移すなど、資料配置の見直しを行った。 ●メダカ、カブトムシ、稲の成長などの実物を展示し、併せて関連図書の展示を行った。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し、中・高生者の利用促進を図った。《【方針1】(1)ア再掲》 ●市政だよりや図書館だより、図書館ホームページやFacebookページ、千葉市ホームページ等の活用による、図書館事業に関する情報を発信した。併せて、ポスター掲示、チラシ配布(カウンターでの手渡し)等による周知も積極的に実施した。 ●図書館未利用者へのPRのため、公民館・区役所などを通じて各事業のお知らせを配布した。 ●「みやこ図書館だより」を発行し、地域の学校、自治会を通じて回覧を行い、図書館の利用促進を図った。 ●来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。 	<p>A</p> <p>全体として、実施された施策に関しては、評価したい。 新規登録者数が増加したことはよかったが、来館者は減少傾向にあることから、根本的な原因が何であるのか分析し、分析結果に基づいて、更なるPR方法の工夫をしていただきたい。 「子育て応援コーナー」の新設や、YAコーナーの資料配置の見直し、実物も併せた展示など、新たな取り組みがなされたことは大いに評価する。 地域の学校や自治会を通じて図書館の広報を回覧した地区図書館の取り組みは、図書館の利用促進につながると考えられる。 様々な取り組みを見れば、よく頑張っている。地区図書館において多少の差があるものの、その奮闘振りがうかがえる。ある館長さんが「図書館は面白いところだ」と思ってもらえる企画を考え「日常生活の中に図書館があってほしい」と話され、そのために努力されていることが伝わった。市民に図書館への認識が少しずつ広がっていると感じた。</p>
<p>イ 経営・就職関連資料の提供や、ホームページからの関連情報の発信等の、ビジネス支援サービスを強化します。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス支援コーナーにおいて、企業等の社史コーナーを新設したほか、CSR(*9)報告書等の積極的な収集を行い、経営・就職関連資料の充実を図った。 ●ビジネス支援コーナー内に、ハローワーク等の就職支援機関の紹介コーナーを設置した。 ●展示図書コーナーでは、ビジネス書の展示を年6回実施した。 ●千葉市の元気企業と連携し、当該企業の製品等の展示を含めた紹介を行ったほか、経営者によるビジネス支援講座を開催した。 	<p>A</p> <p>企業等の社史コーナーや、ハローワーク等の就職支援機関の紹介コーナーを設置したことは、サービスの拡大にもつながる。資料の展示に留まらず、製品の展示や支援講座を開催したことは評価できる。 中央館のビジネス支援コーナーの設置場所は目につきやすいので、関心を引きやすい反面、プライバシーへの配慮が欠けている面もある。また、ビジネス支援に強い職員の継続的な育成をお願いしたい。</p>	
<p>ウ 子育て支援コーナーを設置し、子育て世代への情報提供を行います。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども(主に入園・入学前の)を育てる親や家庭が、子育てに関する情報を1か所で得られるよう、児童フロアに「子育て応援コーナー」を、花見川図書館に「子育て支援コーナー」を新設した。 	<p>A</p> <p>コーナーの新設は、子育てに関する情報が一望でき、評価できる。 図書館未利用者へもPRできるよう、4か月健診時等にコーナーを紹介したり、利用カードを申し込めるようにするなど、更に工夫をしていただきたい。他の地区図書館にも設置されることを望みたい。</p>	

<p>エ 高齢者や、図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを実施します。 * 郵送貸出(中央館) * 宅配サービス(*10)(地区館) * 対面音訳(中央・みやこ・花見川・稲毛・緑) * 録音資料、点訳絵本の作成(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者向けに大活字本の充実を図ったほか、宅配サービスを実施した。 ●配本時に新着図書等の案内を同送し、サービスの向上を図った。 ●闘病記コーナーを設置した。 ●障害者向け点訳絵本を作成し充実を図ると共に、体験学習等において、点訳絵本の作成を実施した。 	B	<p>図書館が行う基本的なサービスであり、その充実に努めている点は評価する。 懇談会の開催などにより、利用者の要望を把握し、サービスの充実に努めてもらいたい。また、闘病記コーナーの資料等は、最新の情報が得られるものを置いてほしい。</p>
<p>オ 視覚障害者情報ネットワークに加盟し、録音資料を充実させます。(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●視覚障害者情報ネットワーク(サピエ(*11)図書館)に加盟することにより、新たに54タイトルの録音資料の充実が図れた。 	A	<p>視覚障害者情報ネットワークへの加盟が実施され、録音資料の充実が図られたことは評価できる。</p>
<p>カ より良い障害者サービスの実施のために、職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場を設けます。(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者サービス担当職員のスキルアップのための研修会及び音訳(*12)協力者向けの研修会を実施した。 ●小・中学生向けの点字体験を、夏休み期間や子ども読書まつりにおいて実施した。 	A	<p>職員・音訳協力者向けの研修会の実施は評価でき、継続的に実施されたい。また小・中学生向けの点字体験も良い取り組みであり、評価する。</p>
<p>キ 図書館に来館することが困難な高齢者に対するサービスとして、高齢者施設への図書の貸出の事業化を推進します。(中央館)</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者施設への団体貸出に向けた準備を行ったが、貸出に適した資料が少なく、また、受入を希望する施設側の課題もあり、実施には至らなかった。 ●高齢者施設に対する、不用雑誌の無料配付(2回)を実施した。 	C	<p>受入側とのミスマッチの原因を分析し、適切な情報提供を模索する必要がある。寄贈本の有効活用など、貸出団体の管理負担の削減などの工夫が必要である。 このサービスのための予算確保も必要である。</p>
<p>ク 外国語資料の収集・提供等、多文化サービス(*13)を拡充するとともに、サービスのPR等により利用を促進します。(中央館)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ●国際交流課等の協力で、「外国語おはなし会」を実施した。 ●外国語絵本の充実を図るとともに、展示を工夫し利用促進を図った。 ●更なるサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。 	B	<p>国際交流課等との協力、企画展示やおはなし会の開催については評価するが、更なるPRや充実を望む。</p>
<p>ケ 本の返却を終日可能にするため、ブックポストを設置します。(美浜)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●25年度末に夜間・早朝に建物の外側から利用できる返却ポストを設置した。〔運用は26年度から〕 	A	<p>利用者ニーズを反映したサービスの拡大は評価できる。</p>
<p>コ 図書館・公民館図書室以外での図書館資料の受け渡し場所の設置について、引き続き検討します。(中央館)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ●26年3月に策定した「読書環境整備計画」の「サービス拠点の整備」の項目の中で、以下の方向性を示した。今後も検討を進めていく。 ・駅等への返却ポスト等の設置 ・図書館以外の読書施設との連携 	B	<p>利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。</p>
<p>サ 地域の実情に即し、開館日等の見直しについて、引き続き検討します。(全館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●25年度から特別整理期間(蔵書点検)を2日短縮するとともに隔年実施とし、25年度は地区館・分館の実施を見送ることにより、開館日の拡大を図った。 *24年度地区館・分館における実施期間:7日〔休館日を除く〕 ●中央館の特別整理期間を、24年度の7日〔休館日を除く〕から5日に短縮した。 ●終日休館していた1月4日を、全館で午後(1時)から臨時開館した。 ●26年度から、地区館を祝日開館、中央館及び地区館の振替休日を開館(翌日を休館)とするため、環境整備を行った。 *26年度 祝日:14日 振替休日:2日 ●26年3月に策定した「読書環境整備計画」の「既存施設の機能更新等」の項目の中で、開館日・開館時間の拡大の方向性を示した。 	A	<p>蔵書点検を隔年実施にする等、様々な工夫をして開館日が拡大されたことは、評価できる。 特に地区図書館の祝日開館が実現したことはサービスの拡大になり大変良かった。図書館の努力に感謝したい。</p>

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
2-1	レファレンス受付数	対前年度比増	86,822件	未達成 (前年比703件減)	87,525件	87,009件	市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数
2-2	新規登録者数	対前年度比増	22,300人	達成 (前年比1,652人増)	20,648人	19,078人	新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む)
2-3	来館者数	対前年度比増	268.6万人	未達成 (前年比7.8万人減)	276.4万人	283.6万人	館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数
2-4	年間貸出利用者率	対前年度比増	市民の 14%	未達成 (前年比1%減)	市民の 15%	市民の 14%	1年間に、図書館を利用した市民の割合(世代別・性別利用者統計も出し、利用者層を分析する)
2-5	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	104件 10,407点	達成 (前年比4件、 1,702点増)	100件 8,705点	127件 9,199点	対面音訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本・郵送貸出を含む)

内部評価

【評価】

- 25年度から特別整理期間(蔵書点検)を隔年実施とし、25年度は地区館・分館の実施を見送るとともに、中央館の特別整理期間を2日短縮し、開館日を増やした。
- 1月4日を、全館で午後(1時)から臨時開館した。
- 26年度から、地区館を祝日開館、中央館及び地区館の振替休日を開館とするため、環境整備を行った。
- 親や家庭が子育てに関する情報を1か所で得られるよう、「子育て応援コーナー」・「子育て支援コーナー」を新設した。
- 職員向けに定期的な研修を実施し、研修内容をレファレンスサービスの充実や、館内表示の改善につなげることができた。

【課題】

- 引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。
- 来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。
- 外国語資料の提供等、多文化サービスについては、利用が進んでいないことから、更なる資料の充実やサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。

【方針】

- ホームページやFacebook等によるPRをさらに充実させ、図書館未利用者へのPRの強化を図る。
- 策定した「読書環境整備計画」に基づき、サービス拠点の整備や開館日・開館時間の拡大について、今後も検討を進めていく。

外部評価

【評価】

- レファレンス件数は若干減少している。図書館に対する認識が「本を借りるところだけではなく、問題解決の手助けもしてもらえ」となるよう工夫が必要であり、図書館が課題解決の場でもあることを知らない人のために、更なるPRの実施を望む。
- 「子育て応援コーナー」の新設や、YAコーナーの資料配置の見直し、実物も併せた展示など、新たな取り組みがなされたことは大いに評価する。
- 地域の学校や自治会を通じて図書館の広報を回覧した地区図書館の取り組みは、図書館の利用促進につながると考えられる。
- 蔵書点検の工夫、1月4日の午後の開館、地区図書館の祝日開館など開館日を増やすために努力されたことは高く評価する。
- 地区図書館で地域の人材を発掘した企画が行われたり、地域に図書館の情報を提供したり、積極的な取り組みがされていることは高く評価したい。中央のみではなく地域の図書館が元気なことは大変良い。

【課題】

- 来館者が減少傾向にあることについて、原因を検討することが必要である。
- 今後ますます必要となる市民の情報活用能力を支援するため、もう少し積極的な方策が考えられる必要がある。
- 職員のレファレンス能力を高めることが必要で、分野ごとに専門の人が、継続的に育成されることが必要である。

【方針3】 図書館から積極的に情報を発信します

(1)ホームページ等からの情報発信		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 利用者のニーズに適応した情報提供を行い、図書館の利用を促進するため、図書館ホームページを運営するとともに、コンテンツの拡充などにより積極的な情報発信を図ります。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページに、24・25年度に実施したデジタルアーカイブのコンテンツの一部(写真資料)である「なつかしのフォトギャラリー」を新たに掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図った。 ●図書館ホームページに新しい機能を追加した マイライブラリー:貸出状況や予約状況、図書館等の休館日などがひと目でわかるサービス マイブックリスト:蔵書検索システムで検索した資料をリストに登録し整理できる機能 	A	<p>広報媒体としてホームページの存在は大きく、その充実は不可欠な業務となっている。今回、新たなコンテンツや機能が追加され、使いやすさが追求されており評価する。特に地域資料のデジタル化は大変意義深く、貴重な資料作成となった。</p> <p>今後、学校や地域の自治会などにPRし、有効に活かせることを望む。</p>
	イ 地域・行政資料(*14)や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集し、体系的に整理、保存して提供します。また、これらの情報をホームページ等から発信します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市の地域・行政資料や地域情報等の千葉市関連資料の積極的な収集・保存を行った。 ●電子化された資料は紙媒体化に努め、市民に提供した。 ●収集した行政資料については「千葉市行政資料目録」を作成し、ホームページで情報を提供した。 ●地域・行政資料コーナーにおいて展示を行い、地域・行政資料や地域情報等の市民提供に努めたほか、展示情報についてホームページで周知した。 	A	<p>地域・行政資料コーナーにおいて展示が行われ、市民へのPRを試みたことは評価できる。行政資料や地域資料の収集・整理・保存、そして提供は図書館の根本的な業務である。</p> <p>収集冊数が減少しているのので、より多くの人にPRし、積極的な対応をしていただきたい。</p>
	ウ 郷土資料をデジタル化し、活用します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●24・25年度に実施したデジタルアーカイブのコンテンツを活用し、DVD(広報映画等の映像資料)の貸出を開始するとともに、「なつかしのフォトギャラリー」(写真資料)の図書館HPでの公開を開始した。 	A	<p>貴重な郷土資料がデジタル化され、千葉市の過去の様子が映像や写真資料で市民に提供されたことは、大いに評価する。</p>
	エ ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、引き続き検討します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●電子図書については、国立国会図書館が配信を開始した「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に対応するため、予算措置を行った。《【方針1】(2)ア再掲》 ●26年3月に策定した「読書環境整備計画」の「ICTの利活用」の項目の中で、下記の方向性を示した。今後も検討を進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・無線LAN(Wi-Fi)の導入《【方針1】(2)イ再掲》 ・郷土資料のデジタル化(一部実施) ・電子書籍への対応 ・タブレット活用の検討 	B	<p>国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」への対応や、中央館の館内公衆無線LAN環境の整備について予算措置が行われたことは評価する。</p> <p>ICTの活用は不可欠であり、中央館以外の館内公衆無線LAN環境の整備をはじめ、他のサービスについても早急な実施を望みたい。</p>
	オ 平成24年7月より新たに開始したソーシャル・ネットワーク・サービス(*15)「フェイスブック」による情報提供について、引き続き運営するとともに、情報発信内容の充実に努めます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●Facebookページを運営し、頻繁に情報を掲載するとともに、利用者からコメントをいただいた際には、すみやかに返信のコメントを掲載するなど、双方向性メディアの特徴を活かした運用を図った。 <p>*記事アクセス件数 24年度:24,539 25年度:33,204</p>	B	<p>Facebookの活用は、利用者との新しいコミュニケーション手段として、その導入を評価したい。</p> <p>返信等の労力負担が懸念されるため、費用対効果についても検証しながら運用にあたってもらいたい。</p>

(2) 出会いのある図書館利用の促進

<p>取組項目</p>	<p>ア 各種講座については、市民の関心の深いテーマを選定するとともに、関係機関との連携などにより、関連する企画展示を同時期に実施するなど、図書館の利用促進につながる内容とするため、更なる工夫を図ります。 * 図書館市民講座(全館) * 郷土史講座、文学講座(地区館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会やわらべうたの会等を実施した。 ●地域の子育て世代のコミュニケーションを図る場の提供として、定例おはなし会に合わせ、集会室を「親子読書ルーム」として開放した。 ●読書活動の普及・啓発のため、図書館市民講座を開催した。 (「美力アップセミナー」、「失敗しないリフォーム」、「正岡子規と千葉県」、「やさしい生命保険のはなし」、「気象による地震の備えと対応を考えよう」、「考古学から見た若葉区の歴史」、「冬の感染症対策」、「収納の工夫術」等) ●市民講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出を行った。 ●講座の魅力により一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。 	<p>B</p> <p>定例おはなし会やわらべうたの会の実施、市民講座の実施による利用の啓発は評価する。また、市民講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出に繋がったことや、定例おはなし会に合わせ、集会室を「親子読書ルーム」として開放したことは、積極的な取り組みである。 図書館で行う講座の内容は、本と結びつき、読書活動の推進や図書館利用を推進するための催しとなることが望ましい。市民のニーズを把握し、より魅力ある内容の検討が必要である。また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢も求められる。</p>
	<p>イ 図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらい、資料への関心と理解を促すため、企画展示を実施します。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館所定のコーナーを使用し、企画展示を実施した。 (「過去10年のベストセラー」、芥川賞・直木賞・本屋大賞などの過去の受賞作品の紹介、小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」等) 	<p>A</p> <p>企画展示については、各館とも内容が充実し、来館者の関心を引くものとなっており評価する。 優れた企画展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。 また、館により取り組みの姿勢にばらつきがあるので、各館とも足並みをそろえた取り組みを望みたい。</p>
	<p>ウ 図書館の利用を促進するため、出前講座をはじめとした地域での広報活動を積極的に展開します。 * 市政出前講座(*16)の受付(中央館) * 著作権セミナーの開催(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉市経済企画課と共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した(12月開催 会場:千葉市生涯学習センター)。 ●出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。 	<p>C</p> <p>出前講座が、どの程度市民に受け入れられているのかわからない。 講座を受けたいと思うような、複数の興味深いタイトルが用意される必要がある。</p>
	<p>エ 各種メディアを活用し、効果的な広報活動を実施します。 * 「図書館だより」の発行(中央館) * 「市政だより」へのお話し会イベント等の掲載(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「図書館だより」にレファレンス事例を毎号掲載したほか、ホームページやFacebookページによる広報を実施した。 ●図書館未利用者へのPRのため、市政だよりにイベント等の掲載を行い、より幅広い広報活動を実施した。 ●「みやこ図書館だより」を発行し、地域の学校、自治会を通じて回覧を行い、図書館の利用促進を図った。《【方針2】(2)ア再掲》 ●地域広報誌に事業の案内を掲載した。 ●地区内小学校への利用啓発を行った。 	<p>A</p> <p>地区館独自の図書館だよりを発行し、地域の学校、自治会を通じて回覧を行ったことは、地域に密着した伝わりやすい広報として評価できる。 今後、広報やチラシの配布先・配布方法を更に工夫し、広報活動の拡充を期待したい。 市政だよりにはおはなし会のお知らせ以外に図書館の他の役割をPRする内容を掲載してほしい。一般の新聞にも掲載されている実績はあるが、報道関係に常に情報を提供し、図書館が話題になるように努める必要がある。</p>

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
3-1	地域・行政資料の収集冊数	現状維持	3,762冊	未達成 (前年比265冊減)	4,027冊	4,950冊	千葉市、千葉県に関する資料の年間収集冊数(紙媒体)
3-2	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	20回 703人	未達成 (前年比9回、 1,148人減)	29回 1,851人	22回 1,676人	一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数

内部評価

- 【評価】**
- 地域情報アーカイブ「なつかしのフォトギャラリー」を作成し、映像資料(DVD)の貸出及び写真資料の図書館ホームページでの公開を開始し、新たな情報発信等を図った。
 - Facebookの運営のほか、図書館広報誌を発行し、地域の学校、自治会を通じて回覧を行うなど、新たな層への情報発信を進め、図書館の利用促進を図った。
 - 各種図書館市民講座等を開催し、併せて講座に関連するテーマの企画展示などを行うとともに、関連資料の貸出を行った。
- 【課題】**
- 来館者数・貸出者数の減少傾向が続いていることから、普段、図書館を利用していない人たちに図書館の有効性や魅力をアピールし、行事への参加も含めた図書館利用を引き続き促していく必要がある。
 - 図書館ホームページ掲載情報の更なる拡充、更新を図る必要がある。
 - 各種講座の魅力をより一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。
 - 出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。
- 【方針】**
- 市民講座や出前講座など、各種講座を引き続き積極的に開催し、普段、図書館を利用していない人たちへの来館を促すとともに、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者の増加につなげる。
 - インターネットを使えない人もいるため、ホームページだけでなく、紙媒体等による利用PR等についても引き続き行う。
 - 行政資料については、図書館ホームページコンテンツの充実など、ICTの活用にも努める。

外部評価

- 【評価】**
- 全体として図書館が情報発信のために様々な努力をされていることは評価したい。
 - 地域資料のデジタル化が進み、映像資料の貸出や写真資料のホームページでの公開は画期的なことで、高く評価したい。また、貸出に関するPRや一般新聞にも掲載されるなど、広報活動も行き届いた。
 - 地域の学校、自治会など地域との繋がりに目を向け、情報発信がされ始めたことは、図書館の新たな利用者に働きかけるため大切な試みである。一部の図書館に留まらず、地区図書館全体の取り組みに発展してほしい。
 - 参加者が多い市民講座もあり、どの講座でも、関連資料を展示・紹介することがよくされていた。
- 【課題】**
- 中央図書館からはホームページやFacebookなど全体的な情報発信の充実が求められる。地区図書館ではすでに試みられているところもあるが、地域の実情にあった情報発信の手段が考えられる必要がある。
 - 出前講座については、魅力ある内容の工夫が必要である。
 - デジタル化された地域資料を、有効に活かす方法を工夫する必要がある。

【方針4】 子どもの読書活動を推進します

(1)児童・青少年向けサービスの深化と拡充		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 子どもが知的好奇心を満たすことのできる本と出会えるよう、資料の紹介や展示、相談等を行います。(全館) *ブックリストの作成・配布(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童フロアで、企画展示・児童書研究展示・科学の本展示・YA展示のテーマ展示を行うとともに、レファレンスサービスの充実を図った。 ●ブックリスト「よんでみよう」を図書館見学や、学校に向いてのおはなし会、ブックトーク(*17)実施時にも配布し、お薦めの本を紹介した。 ●ブックリスト「よんでみよう」の本を常設展示し、貸出を行った。 ●夏休みに向けた図書館担当職員のお薦め本のリストを作成・展示した。 ●「わたしのおすすめ本 帯、書いちゃいました」を読書週間に合わせて実施、推薦文を帯に書いてもらい本につけて展示した。 ●小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」を実施した。《【方針3】(2)イ再掲》 ●フロアワークを通して積極的に本の紹介や本の探し方案内等を行った。 	B	<p>企画展示や相談に対する積極的な対応は評価できる。特に夏休みに向けたお薦め本のリストを作ったり、推薦文を帯に書いてもらい本につけて展示する「私のおすすめ本 帯、書いちゃいました」など担当職員の努力が感じられる。</p> <p>なお、ブックリストは、新しい本も取り入れ、内容を更新する必要がある。また季節や行事など企画に合わせたお薦め本のリストがあると良い。</p> <p>児童書の貸出冊数は減少していることから、サービスに対する実績や効果について検証し、対応する必要がある。</p>
	イ YAコーナーを更に充実させ、中・高校生の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●YAコーナーの資料の充実を図った。 ●中・高校生の利用促進を図るため、年間4回入れ替えをしてYAコーナーのテーマ展示を実施しているが、テーマ選定も、「部活動」「旅」「古典」「教科書に載った名作」と幅広く選定し、関心を高められるようにした。 	A	<p>YAコーナーの展示のテーマ選定の工夫は評価する。中・高校生が魅力を感じるような資料の充実、情報の発信が始まっていることも評価したい。</p> <p>今後は、地域の学校へのPRや連携も必要である。ただ、YAコーナーは館によって取り組みに差があり、設置場所を工夫した方が良い館もある。コーナーを作っただけではなく、中・高校生が夏休みなどを利用して、活躍できる場を設けるなど、今後の各館の積極的な取り組みに期待する。</p>
	ウ 児童コーナーでもテーマを決めた企画展示を行い、絵本・お話の本だけでなく、科学などの読み物についても積極的に紹介し、子どもと本との出会いの場を演出します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書コーナーでの企画展示を実施した。 ●「科学の本」のコーナーは、ほぼ毎月テーマを変えて展示を行い本を紹介した。 	B	<p>「科学の本」のコーナーでは実物を展示するなどして、興味を喚起する試みがあったのは大変良かった。</p> <p>科学の分野は単に本を展示するだけではなく、体験することを踏まえた企画が必要である。今後、子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。地域の学校への働きかけも必要である。</p>
	エ 子どもの読書の関心を高めるため、おはなし会等を年齢別・対象別に実施します。 * 定例おはなし会(全館) * わらべうたと絵本の会(全館) * 子ども(高校生)が語るおはなし会(全館) * 親子おはなし会(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各図書館で、定例おはなし会を毎週開催し、わらべうたと絵本の会を開催(月1回)した。 ●「高校生が語るおはなし会」や「外国語おはなし会」の拡充に努めた 	A	<p>図書館でのおはなし会は定着してきている。おはなし会などは大切な基本のサービスであるため、よく行われていることは評価したい。</p>

<p>オ 工作や科学あそび等を通じ、絵本や文学以外の資料の紹介も行います。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域文庫(*18)等研修会で「科学の本って面白い！」と題し、科学の本や科学あそびを紹介した。 ●子ども読書まつりで、千葉市科学館の協力を得て、工作や科学遊び等を実施した。 ●「環境教育講座-段ボール工作・恐竜作り-」などの工作教室、「オリジナル豆本づくり教室」や「科学教室」などを通じ、絵本や文学以外の資料を紹介した。 ●工作教室に合わせ、関連する資料の紹介・貸出を実施した。 	<p>A</p>	<p>環境教育講座など、新たな取り組みは評価できる。子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。 文学だけではなく、科学の本に関する資料の紹介が積極的に行われたことは、子ども達の広い読書活動につながりとても良かった。</p>
<p>カ 子ども読書まつりを開催し、関係機関や学校、市民団体などとの連携により、魅力あるイベントを企画・実施します。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●関係諸機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。様々なイベントで本や読書の魅力を発信した。[(中央館)10月19日開催、実施イベント数:24、延べ4,574人参加 ~別途、各地区館・分館で実施] 	<p>A</p>	<p>子ども読書まつりは、市民の関心も高く、内容も充実しており評価する。 学校や他の機関、市民団体などと連携して、より多くの市民が参加するよう努力された。 参加人数減少の要因を分析し、地域のイベントと日程が重ならないようにするなど、工夫していただきたい。</p>
<p>キ 子どもたちが学校休業中などに、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施します。 * 子ども一日図書館員(地区館) * こどもかるたあそび(中央・みやこ・花見川) * 科学あそび・映画会・図書館クイズなど(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(子ども1日図書館員、子どもワークショップ、親子図書館たんけんツアー、高校生が語るおはなし会、夏・冬の親子おはなし会、子どもかるた会、図書館クイズ、上映会、工作教室等) 	<p>A</p>	<p>子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実したイベント実施を期待する。夏休みを利用して、中・高校生が参加できる企画を行い、図書館の日常的な利用につながる試みが必要である。</p>
<p>ク 子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や親子参加事業を開催します。 * 子ども読書講座(中央館) * 読み聞かせ講座・入門編(中央館)、わらべうたと絵本講座(地区館) * 「子ども読書の日」記念事業(全館) * 親子図書館探検ツアー(中央館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市民対象に「読み聞かせ入門講座」を実施し、絵本の選び方や読み聞かせの仕方等について実演を交えての講義を行った。(6/6・13[2回]、延べ103人参加) ●大人のための「子ども読書講座」では、絵本作家の鈴木のりたけ氏を講師に、「絵本ができるまで」の講演を実施した。(3/6[1回] 参加47人) ●その他、子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や、親子参加事業を開催した。 [一般向け講座]地域おはなしボランティア(*19)養成講座[親子参加事業]子ども読書まつり、わらべうたと絵本の会、子ども読書の日記念親子おはなし会、夏・冬の親子おはなし会、親子図書館たんけんツアー、みやこ寄席 	<p>A</p>	<p>親子で参加できるイベントや一般向け講座は需要も高く、積極的な実施について評価する。継続的な実施を期待する。 特に市民対象の「読み聞かせ入門講座」の実施は、家族とともに読書活動を推進するために良い企画である。</p>
<p>ケ 子ども向けの図書館資料検索講座等、子どもの図書館利用に関する啓発事業の実施について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校へ出向いて資料検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を実施した。 ●図書館見学で来館した際に、学年に応じて、検索端末の使い方や情報資料票の見方、配架の仕方等の説明を行った。 	<p>B</p>	<p>図書館員が小学校等へ積極的に足を運ぶことは、たいへん重要であり、その中で行われる講座や利用指導の効果は高い。より積極的な実施を望む。 一部の学校だけではなく、すべての子ども達が利用講座を受けられるよう、より広域での実施が望まれる。図書館見学に来た子ども達に資料の検索について説明することは良い取り組みである。 図書館は問題解決の手助けもできることを、事例をあげながら知らせてほしい。</p>
<p>コ 図書館のホームページ内「こどものページ」の掲載内容を充実させます。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童青少年サービス部会で、2つのワーキンググループを作り、「季節の読み聞かせ絵本のリスト」と「中・高校生向け読み物リスト」の作成作業を実施した。[26年度中に「こどものページ」に掲載予定] 	<p>B</p>	<p>「こどものページ」の充実に向けたリスト作成作業の実施は評価できる。 リストはホームページだけでなく、紙媒体で広く活用できるものにしてほしい。</p>

<p>サ 内部研修や派遣研修等を行い、担当職員の知識・技能を向上させるとともに、講師としても育成します。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童担当の職員・非常勤嘱託職員に対する、読み聞かせやサービス提供についての研修を実施し、全員が1回以上参加した。 ●素話や読み聞かせの館内研修を実施した。 ●養護学校や幼稚園協会の新任者研修会の講師をした。 ●中央館・地区館で協力して、学校や関係機関等に講師として派遣できる人材育成のための取組を継続した。 ●学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。 	<p>B</p> <p>児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、人材育成の取り組みについては評価する。</p> <p>以前の児童サービスに精通した職員は管理的な職務にあり、次の人を育てる必要がある。志のある職員を広く庁内から募集し、育成することも考えられる。</p> <p>また、講師を務めることのできる人材育成については、外部派遣もさることながら、図書館内部での講師役を増員することが急務である。</p>
--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力

<p>取組項目</p>	<p>ア 千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)の推進及び進行管理を行います。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同計画に位置付けられた施策事業について、子ども読書まつりなど各種行事の充実を図った。 ●関係部局に対し、事業計画等の調査を実施し、進行管理を行った。 	<p>B</p> <p>子どもの読書推進は保育園・幼稚園・学校・地域の文庫や子どもと本に関わる団体などと連携して進めないと効果は上がらない。図書館がそれらをつなぐ役割を担ってほしい。</p> <p>同時に現在の計画は来年度で終わるので、5年間の成果をまとめる必要がある。</p>
<p>イ 子ども読書活動推進会議を開催・運営します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●26年2月に庁内の推進事業担当職員による「千葉市子ども読書活動推進担当者会議」を実施し、推進計画の進捗状況報告及び意見交換を行った。 	<p>B</p> <p>図書館として積極的な働きかけを望みたい。</p> <p>特に学校との連携を深くしなければ、推進が効果的に行えないと思う。</p>	
<p>ウ 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から学校に向いて利用案内やおはなし会等も行います。 * 小中学校等の視察・見学、調べ学習受入(全館) * 職場体験受入(中学生)(全館) * ブックトーク(学校訪問おはなし会)(地区館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館見学や職場体験を積極的に受け入れた。 ●高校生インターンシップを受け入れた。 ●近隣の小学校や特別支援学校に職員や地域おはなしボランティアを派遣し、おはなし会やブックトークを実施した。 ●小学校へ向いて資料検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を実施した。《【方針4】(1)ケ再掲》 ●図書館見学で来館した際に、学年に応じて、検索端末の使い方や情報資料票の見方、配架の仕方等の説明を行った。《【方針4】(1)ケ再掲》 	<p>A</p> <p>子どもたちに図書館を知ってもらうことの意義は大きく、図書館見学等への積極的な対応を評価する。</p> <p>地区図書館での対応も含めた、図書館から離れた学校への支援など、多くの児童・生徒がサービスを受けられるよう、更なる充実を期待する。</p> <p>学校で学校図書館に一番深く関わっているのは司書教諭と図書館指導員である。児童担当者と彼らの懇談会や互いの研修などで子どもの読書について問題を共有し、共に千葉市の読書推進に当たってほしい。</p>	
<p>エ 市内小中学校に対し、図書館資料の団体貸出を行います。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団体貸出についての説明資料を、よりわかりやすく印象的に改訂し、利用促進を促した。 ●夏季休業中に団体貸出資料見学会を実施し、教職員に団体貸出についての周知を図った。 ●弁天小学校の研究報告会で行ったポスターセッションで、団体貸出について広く参加者に紹介した。 	<p>B</p> <p>学校への団体貸出についての周知の方法を改善し、工夫されたことは評価できる。</p> <p>配本の便については課題が多く、配送等の改善を図り、移動図書館ステーションでの受け渡しができるようにするなど、更なる充実を期待したい。</p>	
<p>オ 教育センター等と連携し、教職員の社会体験研修受け入れ、図書館利用案内、学校図書館指導員研修への協力などを行います。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教職員向けの講座や校内研修会の講師を務め、図書館利用や読書指導、おはなし会やブックトークについての講義や講演を実施した。 ●教育センターの「教職員社会体験研修」を受入れた。 	<p>B</p> <p>教育センターとの連携は、図書主任等の教職員に対しては、図書館に対する理解を深め、生徒への指導による利用促進の啓発がなされていると考えられるが、最も重要なことは、児童・生徒と学校図書館で直接触れ合う学校図書館指導員への働きかけである。</p> <p>司書教諭や学校図書館指導員との関係強化を進めていく必要がある。</p>	

カ 子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を拡充します。(全館)	A	●子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を行った。 ●地域文庫等研修会で「科学の本って面白い！」と題し、科学の本や科学あそびを紹介した。≪【方針4】(1)才再掲≫	A	地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価できる。文庫に対する配本は、近くの移動図書館のステーションまで運んでもらうことができ改善された。 家庭・地域の団体への配送など、更なる充実をお願いしたい。
キ 「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座」を実施し、ボランティアを育成するとともに、資質向上のための研修等を実施します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第7期」を実施し、新たに15人のボランティアを育成し、登録者は124人となった。 ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。(14回、延べ161人参加) ●子ども読書まつりで、ボランティアの交流会を実施し、知識・経験の共有化を図るとともに、意見交換を行った。	A	ボランティアの新たな育成及び既に登録しているボランティアに対しての研修や交流会が持たれたことは評価する。 地域の読書活動を推進する人材として、養成を続けてほしい。
ク 図書館で育成した地域おはなしボランティアの活動の場を拡充するとともに、地域団体等の依頼を受けて派遣します。(全館)	B	●図書館で育成した地域おはなしボランティアを、地域団体等の依頼を受けて派遣した。	B	育成されたボランティアが、健診時以外にも更に活動できるよう、保育所・幼稚園・学校等へ地域おはなしボランティアについて周知し、活動の場を増やしていただきたい。
ケ 家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を発行します。(中央館)	A	●4か月児向けの事例集を各区保健福祉センターに配布(9,100部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(10,170部)した。	A	事例集には図書館が薦める本が掲載されるなど、内容が充実したことは評価できる。
コ 4か月児健康診査における読み聞かせの実演や研修に、職員及び地域おはなしボランティアを派遣するとともに、配布図書選書の検討に職員が加わることなどにより、ブックスタート事業に協力します。(全館)	A	●引き続き「ブックスタート」事業に地域おはなしボランティアを派遣した。また、各区保健福祉センター健康課の要請に応じて、絵本ボランティア養成講座の講師を務めるなど、ブックスタート事業に協力した。	A	ブックスタート事業に地域おはなしボランティアを派遣していることは評価する。 なお、配布図書については予算との兼ね合いがあるためか、望ましい選書になっているか疑問である。 4か月児健康診査で、健康課とタイアップして利用カードをつくることを考えてはどうか。幼時の段階から図書館との結びつきをPRすることが必要だと考える。
サ 保育所・子どもルームなど子育て支援施設と連携・協力し、子どもの読書環境を豊かにしていきます。(全館)	B	●保育所・子どもルームなどの子育て支援施設に地域おはなしボランティアを派遣したり、団体貸出を行ったりした。 ●地域おはなしボランティアの活動の場として、広く連携を図っていく必要がある。	B	継続的な取り組みについて評価する。 子育て支援施設への周知を図り、新たな活動の場を開拓するなど、更なる活動機会の拡大が望まれる。 また、子どもルームの図書資料は不十分などところが多い。更なる充実を望みたい。

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
4-1	児童書の貸出冊数	対前年度比増	117万冊	未達成 (前年比6万冊減)	123万冊	126万冊	1年間に個人貸し出した児童書(絵本～中学生向き図書、雑誌、紙芝居)の冊数
4-2	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	1,066回 21,558人	未達成 (前年比42回増、 497人減)	1,024回 22,055人	898回 17,901人	図書館で行うおはなし会、絵本とわらべうたの会等の開催回数及び延べ参加者数
4-3	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	213回 740人	未達成 (前年比5回減、 157人増)	218回 583人	220回 673人	地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数
4-4	学校等関連施設と連携事業を行った回数	対前年度比増	438回	達成 (前年比32回増)	406回	419回	図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数

4-5	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	23,996冊	達成 (前年比607冊増)	23,389冊	23,094冊	団体貸出により千葉市の子どもたちが利用した図書の冊数
-----	-----------------	--------	---------	------------------	---------	---------	----------------------------

内部評価

【評価】

- 子ども読書活動の推進については、「子ども読書まつり」をはじめ「千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)」に基づく各種事業を展開するなど、概ね計画通り実施することができた。
- 「千葉市図書館地域おはなしボランティア養成講座」を実施し、新たなボランティアの育成を行った。
- 学校の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れ、一定の成果を上げることができた。
- 団体貸出は昨年度を上回る貸出数となった。

【課題】

- 児童書の貸出冊数の減少傾向が引き続きみられることから、団体貸出における貸出・返却ポイントの拡大(分館までなど)や、図書館未利用学校への更なるPRが必要である。
- 学校以外の子どもルームや保育所等、子育て支援施設との連携に努める必要がある。
- 学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。
- 地域おはなしボランティアの活動の場を、更に広げていく必要がある。

【方針】

- 引き続き、団体貸出用資料やYA資料の充実を図る。
- 図書館以外の関係機関や団体との連携を強化し、更なる利用促進策を図っていく。

外部評価

【評価】

- 子どもの読書活動推進に対する取り組みは、全体として良く努力されている。
- 季節やYA向けのリストがチームで検討されていることは、職員の研修と育成もかねて行うことができ、大変良い試みであると評価したい。
- 文学の分野以外の科学の本に目を向けた、様々な取り組みがあったことは良かった。

【課題】

- 児童サービスに関しては、子どもを取り巻く社会の状況が変化していることもあり、社会全体で子ども達への知のアクセスを保障できるように考えていく必要がある。図書館がその中心となり、学校、関連機関、子どもに関わる人たちをつなぐ役割を担ってほしい。特に、子どもみんなが通う学校との連携は不可欠であり、学校図書館の充実が早急な課題である。図書館が学校指導課など関係各署とも連携し、学校図書館指導員の充実を図るなど、具体的な対策をとっていただきたい。子どもが本に関心を持つことは、市の図書館利用にもつながっていくと考えられる。
- 子どもの読書推進は図書館と学校が両輪となって推進しなければ十分な成果につながらない。個々の連携はあるものの、指導課と図書館、児童担当と司書教諭・学校図書館指導員との懇談や研修による密なる連携が必要で、推進のためのそれぞれの役割と課題を共有する必要がある。
- 児童担当の専門的職員の充足、育成が課題である。継続して勤務ができ、専門的力が積み重ねられる人事が必要である。
- 新しい本を視野に入れて、既存のブックリストの見直しを随時行う必要がある。また、図書館の行事や企画に併せてブックリストを作り、本の紹介を続けてもらいたい。
- 資料の活用の仕方や、情報検索の方法などを支援するサービスを増やす必要がある。

【方針5】 他の図書館や関係機関と連携・協力します

(1)図書館間協力の一層の推進		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館間の相互貸借等により、千葉市図書館に所蔵していない資料を市民に提供するとともに、他の図書館等を通じて千葉市図書館の資料を有効活用します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市が所蔵していない資料についても、相互貸借で対応することにより、利用者に提供した。 ●未所蔵図書を求める利用者に対し、図書館間協力制度の紹介を行った。 ●大学図書館との更なる連携体制の整備を図る必要がある。 	B	公共図書館間の相互協力制度は確立しており、当然の事業となっているが、継続的な実施について評価する。 なお大学図書館は、市民に開放されているところも多く、その点を踏まえた相互協力体制の整備が必要である。
	イ 国立国会図書館の協同データベースに、引き続き千葉市の事例を掲載し、登録事例を増やしていきます。(中央館)	A	●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に、レファレンス事例を追加した。《【方針2】(1)イ再掲》	A	国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」は、参加図書館が自館の事例を多く登録することによって、有効に機能するシステムである。千葉市の登録事例が増えたことは評価でき、更なる登録を望みたい。
	ウ レファレンスサービスに関する相互協力を行います。(中央館)	A	●千葉市所蔵の資料だけでは回答が難しいレファレンスについて、千葉県内外の図書館や類縁機関に協力を求めた。	A	各種機関の特徴や所蔵情報を把握し、相互に活用し合うことが必要であり、今後も広範な関連機関との連携を図るよう望む。 なお、レファレンス・サービスへの対応は、中央図書館だけのサービスではなく、すべての館で積極的に展開してもらいたい。
	エ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会(*20)加盟館の連携による資料の相互利用や、企画展示などの事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●加盟館紹介展を実施した。併せて期間中に講演会を開催した。 *加盟館紹介展：10/26-11/5 (場所：千葉市生涯学習センター) *講演会：11/5 (会場：千葉市生涯学習センター) テーマ「東日本大震災 図書館活動から見えてくるもの」 ●資料の相互利用を高めるため、引き続き検討を行う。 	A	館種の違う図書館がネットワークを組み、協力しあって事業を展開していることは、千葉市の特徴であり、それを事務局としてけん引している市図書館の存在は大きい。 継続的な取り組みを評価する。
	オ 他の図書館との協力による共同研修や共同事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉市経済企画課と共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した。《【方針3】(2)ウ再掲》 ●更なる事業の拡充を図る必要がある。 	B	事業の実施について評価するが、更なる充実が望まれる。
	カ 「九都県市首脳会議 知識・情報資源としての図書館利活用研究会」に参画し、引き続き構成都県市の図書館との広域的連携を進めます。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な活動はなかった。 ●今後の連携体制について、検討を進める必要がある。 	C	当該年度の実施はなかったが、図書館が広域的な連携を進め、研究や情報交換をすることは、図書館の活性化につながる。 今後、連携を進めることを期待する。

(2) 地域の関係機関、各種団体等との連携

取組項目	ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども読書まつり」では、共催の生涯学習センター始め、国際交流課及び国際交流協会、千葉市科学館、市内小・中・特別支援学校、近隣高等学校等との連携・協力を図って実施した。 ●引き続き、毎月1回「わらべうたと絵本の会」を生涯学習センターとの共催で実施した。 ●千葉市美術館、千葉市科学館、埋蔵文化財センター、加曽利貝塚、郷土館等と連携・協力して企画展示を実施した。 ●大学と連携・協力し、外国語のおはなし会を実施した。 ●動物公園、科学館、県警、町内自治会、NPO、高齢者社会福祉施設、高校、おはなしボランティアグループ等と連携・協力した事業を実施した。 	A	<p>多彩な事業により図書館利用の活性化が図られており、様々な機関と連携して幅の広い企画ができるように工夫されたことは評価できる。</p> <p>埋蔵文化財センターとは展示に留まらず、学芸員による講座などを取り入れ、子どもと共に楽しむことができる企画なども欲しい。</p>
	イ 高等学校や大学、教育センター等教育機関との連携を図り、高校生、大学生、教員の図書館利用促進と、相互の資料活用について検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●学校図書館研究協議会における教職員向けの説明会や夏休み中の団体貸出資料見学会で、団体貸出や図書館利用の促進を図った。 ●中学校教育課程研究協議会(8/6開催)全大会での発表の「千葉市図書館と学校との連携協力について」の資料作成と発表準備に協力し、教職員の図書館利用促進を図った。 ●近隣の高校生の図書館見学及び利用指導を、要望に応じて実施した。 	A	<p>様々な機会を使って学校の教職員や生徒等に図書館利用を促したことは評価する。</p> <p>子ども達の図書館利用は先生方の図書館理解が大きな鍵になるので、小・中学校の校長先生や先生方に対して、図書館の利用の仕方を広める機会を、指導課と連携して計画してほしい。</p>
	ウ 庁内の職員に対して、業務遂行に必要な資料・情報を提供することなどにより、行政サービスの向上を支援します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●庁内職員の求めに応じて調査や資料提供を行った。 ●利用件数が少ないため、PRを行う必要がある。 	C	<p>地道な事業展開によって、庁内における図書館理解者は増加するものである。より積極的な展開を望みたい。専任職員の配置、効果的なPR等についても工夫していただきたい。</p> <p>地味なサービスかもしれないが、実績を積み重ねて信頼を得ていく努力が必要である。</p>
	エ 千葉市内で、市民に資料貸出や閲覧を行っている施設との連携や協力について、引き続き検討します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●26年3月に策定した「読書環境整備計画」の「サービス拠点の整備」の項目の中で、コミュニティセンター図書室等及び学校図書館などその他の読書施設等との連携について方向性を示した。今後も検討を進めていく。 	B	<p>それぞれの施設の特徴を見極めながら、具体的な連携や協力について、引き続き検討することを望む。</p>
	オ 高齢者福祉施設と連携し、泉分館で大人向けおはなし会を実施します。(若葉)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●泉分館において、継続的に実施した。 ●更なる連携施設の拡充を図る必要がある。 	B	<p>高齢化が進むため、高齢者福祉施設等との連携は今後の課題でもある。更なる拡大を望みたい。</p>

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
5-1	図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受6,327冊 貸出8,363冊	一部達成(前年比借受:122冊減、貸出:1,598冊増)	借受6,449冊 貸出6,765冊	借受7,378冊 貸出5,697冊	他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数
5-2	連携事業等実施数	対前年度比増	333件	未達成(前年比10件減)	343件	317件	学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数

内部評価

【評価】

- 国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」へのレファレンス事例提供を増やすなど、図書館間協力の一層の推進を図った。
- 市内の各種機関・団体等と連携し、企画展示など各種事業の実施に際して相互に事業協力を行った。
- 地域の関係機関、各種団体等との連携については、千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館、学校、関係機関との連携事業も概ね計画通り実施することができた。

【課題】

- 庁内職員に対する支援は、利用件数が少なく、有効な施策にまで至っていない。
- 大学図書館との更なる連携体制の整備を図る必要がある。
- 他の図書館間協力については、更なる事業の拡充を図る必要がある。
- 千葉市図書館情報ネットワーク協議会との研修や、企画展示等での協力を行ったが、資料の相互協力の物流の確保など課題がある。
- 他機関との連携については、高齢者福祉施設など更なる連携施設の拡充を図る必要がある。

【方針】

- 庁内職員への図書館サービスについては、職員ニーズの把握に努め、更なるPRや支援サービスの充実策について検討する。
- 高齢者福祉施設等、更なる地域の関係機関、各種団体等との連携を進展させる。

外部評価

【評価】

- 市内の各種機関との連携協力は多くなり、図書館の行事が豊かになったことは実感できる。

【課題】

- 公民館図書室について、管轄が違うので図書館サービスの中で言及しないのであるならば、他の読書施設との連携で、第一に取り上げるべきである。そして公民館図書室を管轄する部署と運営の仕方、職員の研修なども含め綿密な連携を願いたい。公民館図書室は市民にとって大切な読書施設であり、管轄が違うが千葉市の読書環境を全体的に見ることは図書館の任務であると考え。超高齢化社会を目前にし、公民館図書室がどうあることが市民にとって良いのか図書館の立場で考えることが課題である。
- 連携協力のあり方はそれぞれのところで違ったものになるだろうが、公民館図書室や学校とは今以上に深い連携が必要である。縦割り行政の弊害を取り除いて横の連携が必要である。

【方針6】 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

(1)図書館活動への参加機会の提供		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 「図書館サポーター(仮称)」制度など、図書館サービスにおける市民ボランティアの活動領域の拡大について、引き続き検討します。(中央館)	C	●「図書館サポーター(仮称)」制度については検討が進まなかったが、「図書館見学ツアー」については市民団体に参加してもらい実施した(12月[1回])。今後、ボランティアによる運営を進めていく。	C	ボランティアと市民団体やサポーターの捉え方が共通理解されていない。市民との協働とは何かを十分に検討し、図書館とボランティアのより良い関係を模索していただきたい。 「図書館サポーター(仮称)」制度についても、改めて意義・内容の検討が必要である。
	イ 地域おはなしボランティアを育成し、地域での活動を支援します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第7期」を実施した。≪【方針4】(2)キ再掲≫ ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。≪【方針4】(2)キ再掲≫	A	ボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。更なる充実を期待したい。
	ウ 大学生の司書課程実習やインターンシップ実習を受け入れます。(全館)	A	●要望のあった大学等から、司書課程実習(中央:1人)、インターンシップ実習(中央:2人 稲毛:2人 若葉[高校生]:2回延べ8人 美浜:1人)の受入を行った。	A	司書の養成のために実習やインターンシップの果たす役割は大きく、積極的な受け入れを評価する。 継続的な対応を望む。
	エ 中高生や大学生の学生ボランティアの受け入れについて、引き続き検討します。(全館)	B	●市内の高校からの協力を受け、「高校生が語るおはなし会」を実施した。 ●大学と連携・協力し、外国語のおはなし会を実施した。 ≪【方針5】(2)ア再掲≫	B	学生の受け入れは大切な事業であり、評価する。 中・高校生・大学生のボランティアにはどのような内容があるのか検討し、更なる対象範囲や、実施件数の拡大が望まれる。
	オ 図書館が地域の交流の場となるように、市民の企画・参加による事業を実施します。(全館)	A	●関係諸機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。≪【方針4】(1)カ再掲≫ 「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表にも出席してもらい、より緊密な連携を図った。 ●市民に図書館ギャラリーを生涯学習の成果を発表する場等として提供した。(「風太一家のきもち展」「動物園の住人たち写真展」)	B	「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表が出席できるようになったことは評価する。市民に生涯学習の成果を発表する場の提供をしたことも評価できる。 みやこ図書館の図書館ギャラリーは市民参加の良い例であり、交流の場としての図書館のあり方が市民に広がっている。図書館で市民の企画・参加による事業ができることをPRし、各館で実施していただきたい。 ただ、全体として図書館に参画して図書館と共に何かをするという市民の意識が醸成していない。更なる取り組みが必要である。

(2) 市民との協働による図書館づくり

取組項目	ア 公募による委員を引き続き登用し、図書館運営に多様な市民の意見を反映させます。(中央館)	A	●引き続き、2人の公募委員を含めた10人の委員による運営を行った。	A	図書館協議会は委員の意見が良く反映されている。市民の声を図書館行政に反映させるため、継続的に公募委員を登用していることは評価したい。
	イ 市政モニターや図書館ホームページからのアンケート調査等を行うことにより、図書館未利用者の意見等を把握し、図書館運営の改善に向けた基礎資料とします。(中央館)	A	●インターネットモニターアンケート調査を実施した(12月[1回] 協力者数:1,332人)。 ●図書館ホームページから送信できる、お問い合わせメールフォームに寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。	A	大変な手間をかけて市民の意見を聞いていることを高く評価したい。その内容がサービス改善に活かされていることも評価する。 アンケートの実施を目的化せず、多様な手法により市民ニーズを把握・分析するための基礎データとしての活用を望む。
	ウ 「中央図書館見学ツアー」の後に参加者から意見を聴くため、市民懇談会を実施します。(中央館)	B	●「中央図書館見学ツアー」後にツアー参加者との市民懇談会を実施し、活発な意見交換を行った。 ●開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。	B	市民の意見を聞く貴重な機会でもあり、懇談会の実施は評価する。特に見学ツアーの後の懇談は、参加者の率直な意見を聞くことができ、有意義である。 開催数や参加者数の増加に向けた取り組みをお願いしたい。
	エ 「中央図書館見学ツアー」を市民との協働により計画的に実施し、市民が図書館業務の現状や課題などに関する理解を深めるための機会を提供します。(中央館)	A	●「中央図書館見学ツアー」を実施した(12月[1回] 参加者8人)。	B	ツアーの実施について評価する。 開催数の増加を望む。
	オ 図書館利用者に対し、図書館利用アンケート調査を実施し、その結果を図書館サービスの向上に役立てるとともに、図書館サービスの評価に活用します。(全館)	B	●図書館サービス満足度は91%と、昨年を若干上回った。意見としては、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望むものが多く見られた。 ●特に催し物(おはなし会・講座など)については、認知度は高いが参加者が少ないため、募集方法や広報の仕方を工夫する必要がある。	B	アンケートの実施と集計に多大な労力を要すると思うが、市民の意見を聞くことは大切である。今回はアンケートの結果を活かして、祝日開館などが実施された。アンケート調査を継続的に実施し、結果を検証しながら改善に向けた努力を行っていることを評価する。 利用者アンケートは公民館図書室でも実施し、利用者の意見を公平にくみ取っていただきたい。

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
6-1	千葉県図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足度 90.9%	達成 (前年比1.3%増)	満足度 89.6%	満足度 91.0%	千葉県図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合(小数点2位以下は四捨五入) 25年度 満足 44.3% やや満足 46.6% 24年度 満足 35.9% やや満足 53.6% 23年度 満足 37.9% やや満足 53.1%

内部評価

【評価】

- 利用アンケート調査において、図書館サービス満足度は91%と昨年を若干上回った。
また、寄せられた意見のうち多くを占めている、地区館の開館日の拡大について、26年度からの実施に向けた環境整備を行った。
- 大学生の司書課程実習や、高校生を含めたインターンシップ実習を、広く各館において受け入れた。
- 近隣の小学校や特別支援学校で、おはなし会やブックトークを実施するなど、ボランティアの図書館活動への参加機会の提供を行った。
- 子ども読書まつりを企画する、「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表にも出席してもらい、より緊密な連携が図れるようにした。

【課題】

- 子ども読書まつりの他に、更なる市民の企画・参加による事業の拡充を図る必要がある。
- 市民懇談会の開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。

【方針】

- 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
- 地域おはなしボランティアの養成講座を引き続き実施し、継続的に地域おはなしボランティアの登録者を確保していく。
- 図書館見学ツアー及び市民懇談会の開催数・参加者数の増など、市民参加及び協働事業の拡充に向け検討する。

外部評価

【評価】

- ボランティア育成や、学生等の実習受入を積極的に実施していることは評価できる。
- 市民団体との協働や図書館が市民の交流の場となるような試みが実行され、図書館が市民に開かれてきていることは評価できる。
- 様々な方法で市民の意見を聞くことが行われ、図書館に対する信頼が高まっている。
- アンケートの結果を図書館のサービス拡大に活かしたことは、高く評価したい。

【課題】

- 市民との協働について、図書館と市民が話し合い、共通理解をすることが必要である。図書館と市民のより良い関係が模索され、一定の指針作りが必要である。
- 図書館が市民の交流の場になるような企画が市民と共に実行できると良い。少しずつ実践例を積み重ねられることを望みたい。
- 市民の潜在的な能力をキャッチした企画が一部行われているが、図書館は地域にもっと目を向け、共に働ける人材の発掘をすると良い。多彩な能力を持った市民は多い。

【サービス推進のための経営資源について】

図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の3つの経営資源の充実に努めます		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館の安全性・快適性を確保するため、施設の点検や老朽化部分の改修を行います。(全館) * 空調設備の全面改修工事(みやこ) * 昇降機の部品交換修繕(みやこ) * 非常用井戸のポンプ修繕(みやこ)	B	●施設の点検及び修繕を実施した(小破修繕)。 *みやこ図書館:当初計画に基づき、改修工事等を実施した。 ●厳しい財政状況であるが、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け計画的に実施する。	B	継続的な対応について評価する。 施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。
	イ 読書環境整備計画の策定 良好な読書環境を整備するため、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備にかかる計画を策定します。(中央館)	A	●26年3月に策定した「千葉市読書環境整備計画」において、サービス拠点の整備・ICTの利活用・既存図書館の機能更新等に関する方向性を示した。	A	「千葉市読書環境整備計画」を策定したことを高く評価し、策定された計画に基づいた読書環境整備の着実な実施を望む。
	ウ 図書資料費の有効活用により、図書資料を整備するとともに、引き続き図書資料費の確保に努めます。(全館)	A	●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に対応した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。《【方針1】(1)イ再掲》	B	資料費の増額が無く、蔵書の40%を寄贈に頼る現状は改善する必要がある。 更なる資料費の確保に努力してほしい。
	エ 図書資料の整備に充てるための寄附金受入や募金箱の設置を引き続き実施するとともに、広告料の収入増を図り、資料費の確保に努めます。(全館)	A	●図書資料の整備に充てるため、寄附金の受入や募金箱を設置するとともに、雑誌リサイクルにおいて会場内に募金箱を設置するなど、資料費の確保に努めた。 *寄附金収入:492,647円(前年比 122,812円減) ●広告料収入を確保するため、民間事業者による、大学等のパンフレットラックを設置した。 *広告料収入:580,000円(前年比 415,000円増)	A	募金や寄附が図書資料の充実の一端を担っている現状は認めるが、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。 図書館のために寄附をしたい市民は潜在的に多いと思う。寄附が資料の充実に結びつくようなPRを積極的に行い、図書館基金のような制度を作ることも検討されたい。
	オ 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上につなげます。(全館) 《【方針1】(1)ク再掲》	B	●外部講師による接遇の全体研修、全庁的な取り組みである「接遇向上宣言」による取り組み、所属単位での研修・啓発等を実施することにより、サービス向上に努めた。 ●窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。《【方針1】(1)ク再掲》	B	利用者とのよりよいコミュニケーション、接遇などは、サービスの基本である。継続的な対応について評価する。
	カ 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。(中央館)	B	●司書資格を有する職員の配置を要望するとともに、有資格の嘱託職員について内部研修や派遣研修によりスキルアップを図った。 ●より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。	C	嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。 図書館の仕事は本を知り、資料や情報の活用方法に精通した専門的職員でないと、市民が求める要求に対応できない。それぞれの分野に強い専門的職員が少なすぎる。少ない人数でよくサービスを維持していると思う。意欲のある専門的職員の育成は急務である。 また、職員が司書資格取得をとりやすい体制を作るなどして、司書資格を有する職員の割合を増やす努力が必要である。世代交代の時期を向かえ、新しい人材の育成も急務となっている。

	評価指標	達成目標	平成25年度実績	達成状況	平成24年度実績	平成23年度実績	備考
7-1	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.5%	達成 (前年比0.5%増)	54.0%	52.9%	千葉市図書館の職員(正規職員及び嘱託職員)のうち、司書資格を有する職員の割合(翌年度4月1日現在) 25年度 正規職員 29.7% 嘱託職員 95.8% 24年度 正規職員 29.7% 嘱託職員 95.7% 23年度 正規職員 27.7% 嘱託職員 97.1%

内部評価

【評価】

- 施設の修繕は、予定通り実施できた。
- 「千葉市読書環境整備計画」を26年3月に策定し、サービス拠点の整備・ICTの利活用・既存図書館の機能更新等に関する方向性を示した。
- 図書資料の整備に充てるため、寄附金の受入や募金箱の設置、民間事業者による大学等のパンフレットラックを設置した。

【課題】

- 施設については、今後も修繕を要する地区館等もあり、計画的に整備を進める必要がある。
- 高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。
- 窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。
- より多くの職員が専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。

【方針】

- 安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け、計画的に実施する。
- 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。

外部評価

【評価】

- 「千葉市読書環境整備計画」を策定し、今後の図書館整備の方向性を示したことは高く評価したい。よくできた計画書であった。
- 計画に沿って内容が着実に実行されつつあることは誠に嬉しい。
- 多くの市民の善意として募金や寄附が集まっていることは高く評価したい。ただし、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。

【課題】

- 課題は資料費の増額と図書館で仕事することに意欲のある人の確保に尽きる。特に図書館の仕事は本を知り、資料や情報の活用方法に精通した専門的職員でないと、市民が求める要求に対応できない。それぞれの分野に強い専門的職員が少なすぎる。意欲のある専門的職員の育成は急務である。千葉市図書館は、世代交代の時期を向かえており、新しい人材の育成が必要になっている。

【総合評価】

内部評価

【評価】

- 総合的には、一定の業務水準を確保することができたものとする。
- 特別整理期間(蔵書点検)を隔年実施とするとともに整理期間を短縮、また、1月4日午後(1時)からの臨時開館により、開館日数を増やした。
 - また、26年度からの地区館の祝日開館等に向け、環境整備を行った。
 - 親や家庭が子育てに関する情報を1か所で得られるよう、「子育て応援コーナー」・「子育て支援コーナー」を新設した。
 - 地域情報アーカイブ「なつかしのフォトギャラリー」を作成し、公開等を開始した。
 - Facebookの運営のほか、図書館広報誌を発行し、地域の学校、自治会を通じて回覧を行うなど、新たな層への情報発信を進めた。
 - 学校の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れ、一定の成果を上げることができた。
 - 市内の各種機関・団体等と連携し、企画展示など各種事業の実施に際して相互に事業協力を行った。
 - 利用アンケート調査において、図書館サービス満足度は91%と昨年を若干上回った。
 - 大学生の司書課程実習や、高校生を含めたインターンシップ実習を、広く各館において受け入れた。
 - 「千葉県読書環境整備計画」を26年3月に策定し、サービス拠点の整備・ICTの利活用・既存図書館の機能更新等に関する方向性を示した。
 - 図書資料の整備に充てるための寄附金の受入や募金箱の設置、広告料収入確保のための民間事業者による大学等のパンフレットラックを設置した。

【課題】

- 市民一人当たり貸出数及び総貸出数の減少傾向に歯止めがかかっていないことから、図書館未利用者への利用啓発、新しい情報媒体への対応等の環境整備について、検討を進めていく必要がある。
- 各種講座の魅力をより一層高め、更なるPRに努めることで参加者の増加につなげるとともに、図書館未利用者への利用啓発につなげていく必要がある。
- 児童書の貸出冊数の減少傾向が引き続きみられることから、団体貸出における貸出・返却ポイントの拡大(分館までなど)や、図書館未利用学校への更なるPRが必要である。
- 他機関との連携については、高齢者福祉施設など更なる連携施設の拡充を図る必要がある。
- 子ども読書まつりの他に、更なる市民の企画・参加による事業の拡充を図る必要がある。
- 高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。

【方針】

- 以上のことから、引き続き、限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくため、次のように施策展開を図る。
- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保のほか、予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用に努める。
 - ホームページやFacebook等によるPRをさらに充実させ、図書館未利用者へのPRの強化を図る。
 - 各種講座を引き続き積極的に開催し、普段、図書館を利用していない人たちへの来館を促すと同時に、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者の増加につなげる。
 - 図書館以外の地域の関係機関、各種団体、ボランティア等との連携を進展させる。
 - 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
 - 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。
 - 施設整備について、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。

外部評価

【評価】

- 千葉県読書環境整備計画が策定され、祝日開館やICTの利活用等、実際にサービス向上が図られている。また、前年度の評価における課題がいくつも改善されていたり、新たなサービスの試みがなされる等、図書館の工夫と努力がよくわかり、図書館の前向きな姿勢が以前にも増して感じられる。
- 限られた予算と人の中で、サービスはお金をかけず、知恵を出してよく努力されたと評価したい。とりわけ「千葉県読書環境整備計画」が策定され、今後のサービスの方向性が示され、それに沿って実行されつつあることは、今までの図書館では考えられないくらい画期的である。
- 地区図書館が地域に密着して、地域の人材を活かした企画に取り組んだり、地域に積極的に情報発信をしていることは高く評価できる。図書館が待つ姿勢ではなく、出て行く姿勢が良い。

【課題】

- 長年の課題(ICT環境の整備、地区館の祝日開館、分館の開館など)は「千葉県読書環境整備計画」で、解決の方向が示された。今後、年度毎に実施される内容が明示されることが必要である。
- 細かい個々の課題はあるが、残るのは資料費の確保、専門職員の確保、公民館図書室のあり方の問題である。
- 寄贈や寄附に頼らない資料費の継続的な確保に努力していただきたい。
- 専門的職員の確保は現在のサービスを維持発展させるために急務である。専門職員の退職が続く時期を間近に控え、専門的職員の育成は重要課題と考えられる。
- 市民の課題解決に対応したレファレンスサービスの充実が必要である。
- 図書館未利用者への積極的なPRの実施が必要である。
- 学校図書館や市内の各種団体との連携強化が必要である。
- 現在の図書館利用者の約20%は公民館図書室の利用者であるが、公民館図書室は、本も古く、サービスが低下している。しかし平成25年10月に実施された「公民館に関するアンケート調査」において「図書室の利用が60.8%で最も多い」との結果が示すように、公民館図書室は読書施設として大変必要とされている。高齢社会を迎えるとき、身近な図書館として公民館図書室の充実はより大きな課題となる。千葉県全体の読書環境を考える責任は図書館にあり、公民館図書室を管轄する所管と十分な話し合いをして、公民館図書室のサービスがより良くなる方策を検討してほしい。なお、公民館の運営について検討が行われているため、公民館図書室を統括する所管の再検討が必要である。

【用語解説】

- *1 **除籍**: 図書館に受入登録されている資料の記録を抹消すること。
- *2 **非常勤職員**: 一般職の常時勤務を要しない職員。図書館では、週3日勤務。雇用期間は原則1年だが、図書整理業務は経験が必要であり、継続雇用手続きをとっている。
- *3 **レファレンスサービス**: 利用者からの質問に対し、図書館で得られる情報を基に答えるサービス。回答そのものを与えるものと、回答を得るために必要な資料や情報源を提供する場合がある。
- *4 **おはなし会**: 読み聞かせ、素話、わらべうた等の会の総称。
- *5 **公衆無線LAN環境**: 無線LANによってノートパソコンなどから、インターネットへの接続サービスを利用出来る場所を設定する。利用に際しては、利用者自身の接続業者との契約が必要となる。
- *6 **調べ案内(パスファインダー)**: 特定のテーマに関する資料や情報の調べ方を一覧できるようにまとめたもの。網羅的な文献リストや全般的な検索方法の紹介とは異なる。
- *7 **(非常勤)嘱託職員**: 特別職の地方公務員。教育委員会が委嘱し、委嘱期間は1年(再委嘱可)。図書整理業務については、司書有資格者を、中央図書館は週4日勤務、地区図書館・分館は週3日勤務で委嘱している。
- *8 **YA(ヤングアダルト)**: 図書館界や出版界で、主に10代の読者や利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として意識して呼称するときに使う用語。千葉市図書館のサービス対象としては、中・高校生を想定している。
- *9 **CSR(企業の社会的責任)**: 企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆる利害関係者(社会全体)からの要求に対して適切な意思決定をすることを指す。企業の経済活動には利害関係者に対して説明責任があり、説明できなければ社会的容認が得られず、信頼のない企業は持続できないとされる。
- *10 **宅配サービス**: 身体障害等で、図書館への来館が困難な市民に対して、地区図書館から職員が、月2回、図書館資料を届けるサービス。
- *11 **サピエ**: 視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データで提供するネットワーク。日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会により運営されている。
- *12 **(対面)音訳**: 視覚などに障害を持ち、活字資料を読むことが困難な利用者に対し、1対1で、資料を読むサービス。「対面朗読」とも言うが、文章だけでなく、図・表・写真も音声化することが求められるため、「音訳」という言葉を使っている。
- *13 **多文化サービス**: 地域に暮らすマイノリティ(民族的・言語的・文化的少数者)に対し、母語を中心とした資料・情報を提供することで、知る権利・学ぶ権利を保障する図書館サービス。多言語サービスとも言う。
- *14 **地域・行政資料**: 特定の地域で刊行、出版され、また、その地域に関して記述されている資料、図書、逐次刊行物、小冊子等の文献資料などその地域の事情を知り、研究の手がかりとなる資料。
- *15 **ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)**: 人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制インターネットサービスのこと。
- *16 **出前講座**: 市の施策や制度・事業について市の職員が説明に出向き、質疑応答や意見交換を通して、市政への理解を深め、参加と協働のまちづくりを推進するもの。(地域振興課所管事業)25年度は150テーマを掲げており、図書館は「図書館を上手に使いこなそう」と「知って得する図書館利用法」の2テーマで申し込みを受けている。
- *17 **ブックトーク**: グループを対象として数冊の本を紹介する仕事またはその集会。
- *18 **地域(家庭)文庫**: 自宅を開放したり団地やマンションの集会所等を借りて、子どもたちに本を貸し出したり読み聞かせをしたりする団体及び個人。
- *19 **地域おはなしボランティア**: 千葉市における子どもたちの読書活動の推進を目的に実施する「おはなし会」等の趣旨に賛同し、自らの自由意思により、その知識及び技能を無償で提供する者。登録には千葉市生涯学習センター及び千葉市図書館主催のボランティア養成研修を修了することが条件となる。
- *20 **千葉市図書館情報ネットワーク協議会**: 千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。平成25年度の加盟館は26館。千葉市中央図書館が事務局となっている。

平成24年度 千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン2010」の目標と方針に沿い、平成24年度の図書館評価を示します。

千葉市図書館の目標

- 目標1 地域を支え、暮らしや仕事に役立つ図書館
- 目標2 生活に潤いを与え、心の豊かさをはぐくむ図書館
- 目標3 文化や知識を伝え、次世代を育てる図書館

評価

- A : 計画通りに実施でき、一定の成果があった。
- B : 課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
- C : 不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

【方針1】図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能を拡充します

(1)資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 資料の収集・提供を迅速に行い、図書館の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週実施している各地区図書館職員との合同選定会議や、館内選定会などで資料の選定を行い、利用者の要望などを迅速に反映させ、資料の収集に努めた。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し、中・高校生の利用促進を図った。 ●リクエストを受けた未所蔵の資料について、購入や相互貸借などにより、速やかに用意するよう努めた。 	A	<p>YA世代に向けた資料の収集・提供については、書棚の位置や本の並べ方に工夫が見られることなどを評価したい。</p> <p>迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書を選定と、児童書を含めた迅速な資料の収集・提供に努めていただきたい。</p>
	イ 資料費を有効に活用し、図書資料の充実を図り、利用者に提供します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。 ●地区館・分館間で資料の一時移管による有効活用を図った。 ●寄贈図書の活用により、古くなった蔵書の入替えを行った。 	A	<p>図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。</p> <p>寄贈図書に多くを頼っているが、適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、資料費の継続的な確保に努めていただきたい。</p>
	ウ 市民の財産である資料を適正に管理、保存します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各図書館で定期的に蔵書点検を実施した。 ●除籍資料選定委員会での適切な除籍(*1)や同じタイトルの資料は必ず1冊は保存するなど、資料の適正な管理と保存を行った。 ●利用者のマナー向上に向け、パンフレットの配布、館内掲示、汚破損資料の展示等を行うとともに、延滞している資料について、繰り返し電話等で督促を行い返却を促した結果、延滞件数は減少した。 	A	<p>延滞件数の減少については評価する。</p> <p>蔵書点検等を着実に実施し、利用者のマナー向上については、引き続き展示や掲示などによる対応を望む。</p>
	エ 新刊図書をはじめ、平成23年度に「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して整備した学校向け団体貸出図書、大活字本などの子どもや高齢者・障害者向けの資料、及び専門書やシリーズ本などの継続収集を含め、計画的な資料収集により、利用者の要望に応えます。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して購入した年版本やシリーズ本は更新するなど、利用者に新しい本を提供した。 ●同交付金を活用した団体貸出用資料の充実を図るとともに、学校からの要望を受け、学校用セット貸出資料を拡充し、利用促進を図った。 	A	<p>団体貸出用の学校用セットの充実は評価する。</p> <p>年版本は、今後も継続して更新していただきたい。</p>

<p>オ 館内表示の改善や利用マナー向上の呼びかけなどにより、利用しやすい図書館環境づくりに努めます。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設内への貼り紙掲示(「雨天時のタイル滑りの注意」、「利用者以外の駐車厳禁」等) ●書架サインや案内表示を、わかりやすく、使いやすくなるよう一新 ●館内案内図の見直し ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出し ●児童室の照明の増設 ●ベストセラー書架の面展示の実施 ●図書館ギャラリーをリニューアルし、様々な展示を新たに実施。 ●雑誌の配列の見直し ●居心地の良い環境整備のため、季節ごとに館内掲示を変更 ●本を探しやすいよう、書架の本を適正な量に削減 ●研究個室等の館内に、利用マナー向上を促すサインの掲示 ●配布用の図書館カレンダーに利用マナーを掲載 ●利用マナー向上キャンペーンの実施 ●資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。 	<p>A</p> <p>館内表示についてはかなり工夫が見受けられ、わかりやすくなったが、まだ館によって対応の違いがある。各館の実情に合わせた環境整備を図書館職員が主体的に推進することは重要なことである。不断の努力による改善を期待する。 利用マナーについては基本的に利用者側の問題であると考え、図書館として様々な対策がなされ、少しずつ向上していることから、引き続き啓発をお願いしたい。</p>
<p>カ 施設を的確に安全管理するとともに、防災体制を整えます。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●非常口の案内表示・消火器の設置・書架の転倒防止措置の再点検を実施した。 ●防災訓練を実施し、避難・誘導等について確認した。 ●緊急時の即時対応を図るため、カウンター内に「防災用具」を保管した。 ●危機管理マニュアルを作成し、全職員に周知した。 	<p>A</p> <p>利用者の安全を最優先に考えた取り組みを評価する。図書館側の取り組みの強化とともに、利用者も参加する防災訓練等の実施についても検討していただきたい。</p>
<p>キ 移動図書館車による、図書館サービスを提供します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内27か所のステーションを月2回巡回し、貸出、返却、予約受付等を実施した。 *ステーション巡回数:610回(前年比△2回) 貸出冊数:67,767冊(前年比△5,228冊) 	<p>B</p> <p>利用冊数が減少しているのが懸念されるが、固定館の利用が困難な市民にとっては、有効なサービスであり、毎回の移動図書館車の運行を評価する。 ステーション設置場所の見直しなど、今後も利用の活性化に努めていただきたい。</p>
<p>ク 図書館業務に関する専門研修を実施し、職員の業務水準を向上させます。 * 図書館職員初任者研修 (中央館) * 図書館職員全体研修会 (中央館) * レファレンス・スキルアップ研修 (中央館) * 新任児童職員研修会 (全館) * 障害者サービス職員研修会 (中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員のスキルアップを図るため、障害者サービス、レファレンスサービス(*2)及びおはなし会(*3)等の専門研修(非常勤職員(*4)も含む。)を実施した。 ●非常勤職員を含め、より多くの職員に研修への参加を促す必要がある。 	<p>B</p> <p>職員のスキルアップは、サービスの質を担保するためには不可欠なことである。非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。 レファレンスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施していただきたい。</p>
<p>ケ 接遇研修等を実施することにより、職員の業務水準を向上させます。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●非常勤職員も含めた、職員全体を対象とする接遇研修を実施した。 ●館内会議等を通じて、接遇能力の向上やスキルアップにつながる情報の共有を図った。 ●窓口の応対に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。 	<p>B</p> <p>窓口対応が業務の中心となる図書館サービスでは、接遇の技術は基本的な能力であり、職員全員に対して不断の研修の実施を望む。特に、業務への慣れによって接遇がなござりになることがあるので、注意が必要である。 図書館に対するクレームも増えてきており、クレーム処理に対する専門研修も必要である。</p>

<p>コ 公民館図書室に対する選書、レファレンス、研修等の支援を行います。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公民館図書室の初任者向けの研修会を開催した。 ●公民館図書室に対する、選書、レファレンス、相互貸借による資料提供のための支援を行った。 ●月1回の連絡会等において連絡を密にとり、各種相談対応や情報提供などの支援を行った。 ●非常勤職員を含め、より多くの職員の参加を促す必要がある。 	<p>C</p> <p>図書館のない地域にとって、公民館は無くてはならない施設となっている。利用者が公民館図書室において図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に対する図書館業務に係る研修等の充実を望む。</p> <p>公民館図書室への支援は図書館が担っていることから、将来的に図書館が管理する組織と位置づけるなど、責任ある対応が必要である。</p>
-----------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備

<p>取組項目</p>	<p>ア 正確な情報提供のための有料データベース等の活用や、電子図書等の収集と提供のあり方について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有料データベースについては、必要な経費が確保できなかったため、引き続き検討する。 ●電子図書については、図書館が購入可能な出版点数がまだ少なく、出版が一部の出版社に片寄っていること、国立国会図書館が所蔵資料のデジタル化を進めていることなどから、引き続き状況を見ながら検討する。 	<p>C</p> <p>有料データベースは、今やレファレンスサービス等に不可欠な情報源となっている。また国立国会図書館が電子化した資料を図書館を経由して公開することを予定されており、それを踏まえ、適切な対応が必要である。</p> <p>電子資料の必要性や費用対効果について、前向きに検討を進め、優先的に予算を確保していただきたい。</p>
	<p>イ 館内公衆無線LAN(*5)環境の整備等について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)骨子への「無線LAN(Wi-Fi)の導入」を位置付けた。 ●携帯電話会社が提供している無料Wi-Fi基地局を設置することにより前倒しでの整備ができないか検討している。 	<p>C</p> <p>無線LAN環境の整備は不可欠な時代となっているため、環境整備に向けた早急な対応を望む。</p>
	<p>ウ 視聴覚資料の収集、提供、保存のあり方や、新しい情報媒体への対応について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●DVD・CDを中心とした視聴覚資料の購入を進め、資料を充実させた。 ●新しい情報媒体については、世帯への普及率や市場動向など、引き続き状況を見ながら検討する。 	<p>B</p> <p>視聴覚資料の充実については評価する。</p> <p>視聴覚資料サービスは、メディアの変化が激しく、CATV視聴やオンデマンド配信等の普及状況を考慮し、図書館におけるサービスのあり方について、抜本的な見直しを検討する必要もある。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
1-1	市民一人当たり貸出数及び総貸出数	対前年度比増	一人当たり 5.2冊	未達成 (前年比0.2冊減)	一人当たり 5.4冊	一人当たり 5.4冊	1年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 24年度 総貸出数 503万冊 23年度 総貸出数 523万冊 22年度 総貸出数 525万冊
1-2	WEB予約件数	対前年度比増	92.0万件	未達成 (前年比0.3万件減)	92.3万件	85.0万件	図書館ホームページからの予約状況
1-3	年間受入図書資料数	現状維持	59,585冊	未達成 (前年比9,160冊減)	68,745冊 (うち「住民生活に光を注ぐ交付金」による購入数: 20,166冊)	46,741冊	千葉市図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、製作) 24年度 うち購入36,624冊 寄贈22,793冊(うち郷土資料3,502冊) 23年度 うち購入48,527冊 寄贈20,116冊(うち郷土資料4,235冊) 22年度 うち購入26,204冊 寄贈20,366冊(うち郷土資料4,117冊)
1-4	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	127回 延べ528人	未達成 (前年比8回、延べ29人減)	135回 延べ557人	120回 延べ600人	千葉市図書館において開催及び千葉市図書館職員(非常勤嘱託職員(*7)・非常勤職員含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数

内部評価

【評価】

- 利用者の要望などを反映させた資料の充実を行ったほか、資料の適正な管理と保存を行った。
- 市民一人当たり貸出数及び総貸出数、WEB予約件数、年間受入図書資料数について、目標を達成できなかった。
- 寄贈図書を活用し、古くなった蔵書の入替えを行った。
- 団体貸出用資料の充実を重点的に図るなど、資料費を有効に活用した。また、マナー啓発等を積極的に実施し、延滞件数の減少につなげるなど、資料の適正な管理を行った。

【課題】

- 図書館利用の増に向けて、図書館未利用者への利用啓発、有料データベース等の活用、館内公衆無線LAN環境の整備などの課題がある。
- 新刊資料を、引き続き充実する必要がある。
- 資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。
- 非常勤職員を含め、より多くの職員に研修への参加を促す必要がある。
- 窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。

【方針】

- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保に努める。
- 予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用を努める。
- ICT化への対応について、読書環境整備計画(仮称)を策定する中で、引き続き検討する。

外部評価

【評価】

- ・ 図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。特にYA世代に向けた資料の収集・提供については、書棚の位置や本の並べ方に工夫が見られることなどを評価したい。
- ・ 館内表示についてはかなり工夫が見受けられ、わかりやすくなった。
- ・ 利用マナー向上の取り組みや利用者の安全を最優先に考えた取り組みを評価する。

【課題】

- ・ 貸出冊数減少の分析が必要である。
- ・ 迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書の選定と、児童書を含めた迅速な資料の収集・提供に努めていただきたい。
- ・ 寄贈図書に多くを頼っているが、適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、資料費の継続的な確保に努めていただきたい。
- ・ 館内展示は、館によって対応の違いがある。各館が歩調を合わせ、サービス向上のための環境整備を進めてもらいたい。
- ・ 利用者も参加する防災訓練等の実施についても検討していただきたい。
- ・ 職員のスキルアップは、サービスの質を担保するためには不可欠なことである。非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。レファレンスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施していただきたい。
- ・ 図書館に対するクレームも増えてきており、クレーム処理に対する専門研修も必要である。
- ・ 図書館のない地域にとって、公民館は無くてはならない施設となっている。利用者が公民館図書室において図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に対する図書館業務に係る研修等の充実を望む。また、公民館図書室への支援は図書館が担っていることから、将来的に図書館が管理する組織と位置づけるなど、責任ある対応が必要である。
- ・ 無線LAN環境の整備や有料データベースの活用は不可欠な時代となっているため、環境整備に向けた早急な対応を望む。また、国立国会図書館が電子化した資料を図書館を経由して公開することが予定されている。これを踏まえ、適切な対応を望む。また、電子資料の必要性や費用対効果について、前向きに検討を進め、優先的に予算を確保していただきたい。
- ・ 視聴覚資料サービスは、メディアの変化が激しく、CATV視聴やオンデマンド配信等の普及状況を考慮し、図書館におけるサービスのあり方について、抜本的な見直しを検討する必要がある。

【方針2】課題を解決するためのサービスに取り組みます

(1)レファレンスサービスの充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア レファレンスサービスの利用を促進し、市民の課題解決を支援します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページ及びFacebookにおいて、レファレンスサービスのPR等を実施した。 ●図書館ホームページからのメールレファレンスに対して、資料提供等によるサービスを実施した。 ●レファレンス案内の館内掲示による、利用者への周知を図った。 	A	<p>SNSなど様々な手法による広報に努めたことにより、利用件数が増加していることや、案内表示の改善などの取り組みについては評価できる。なお、SNS活用については、公的な機関としての制約もあり、実施における効果や問題点の再評価をする必要がある。</p> <p>また、市民が望む課題解決に対応できているかどうか、検証が必要と思われる。PRIについては、図書館が課題解決の場でもあることを知らない人のために継続的な実施を望む。</p>
	イ 「調べ案内(パスファインダー)(*6)」などの提供内容を充実させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を追加(13件)した。 ●図書館ホームページの「しらべかたのあんない(パスファインダー)」に事例を追加(2件)した。 ●教職員向け講座や出張授業で、提供内容を積極的に紹介し、使い方を説明した。 	B	<p>「レファレンス協同データベース」への登録は評価するものの、当該データベースの特徴を活かし、より多くの事例の登録を望む。</p> <p>また、パスファインダーについても、より多くの件数を追加するとともに、子ども向けや地域情報など、市民が求めている情報を的確につかみ、それに対するパスファインダーの充実を望む。</p> <p>来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体によるパスファインダーの提供等、更なる工夫が必要である。</p>
	ウ 図書館のホームページ「調べもの相談」に、新たに「レファレンス事例集」を掲載します。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページの「調べ物相談」に掲載するレファレンス事例の候補(案)を作成した。〔平成25年度中に掲載予定〕 	C	<p>千葉市に関連する独自の事例や、レファレンスに親しみのもてる事例の掲載なども検討し、公開していただきたい。</p>
	エ 図書館資料の検索講座等を実施し、市民の情報収集力・活用力の育成を支援します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●展示に合わせたパスファインダーを作成し、利用方法を提供するなど、市民の情報収集力・活用力の育成を支援した。 ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出した。《【方針1】(1)才再掲》 ●個人レッスン形式にて「館内OPAC」に「レッスンコース案内」を掲示し、「検索ミニレッスン」を開催した。 ●引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。 	C	<p>育成支援の取り組みは評価できるものの、利用者によるその取り組みが周知されていないため、周知方法に工夫が必要である。</p> <p>検索機のそばに人を配置するなど、日々の業務の中でのフォローも必要である。</p>
	オ 定期的な研修を実施し、担当職員のレファレンス技術を向上させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館職員・嘱託職員を対象とした「レファレンススキルアップ研修」を実施(5回)した。 	B	<p>定期的な研修の実施は評価する。</p> <p>研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。</p>

(2)だれもが利用しやすい図書館サービスの展開

取組項目	ア 地域の実情や世代別のニーズ等を考慮した図書館サービスを拡充するとともに、図書館未利用者に対するPRを強化することなどにより、図書館利用者を増やします。(中央館)	B ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者からの要望に対応した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●利用促進を図るため、中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●市政だよりや図書館だより、図書館ホームページやFacebookページ等の活用による、図書館事業に関する情報を発信した。 ●図書館未利用者へのPRのため、公民館・区役所などを通じた各事業のお知らせを配布した。 ●新規利用者の発掘のため、YA(*8)コーナーのリニューアルやコンピューター関連本コーナーの新設、就労支援コーナーの継続等を実施した。 ●来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。	B YAサービスの実施など、新たな取り組みがなされ、PRの強化により新規登録者数が増加したことは評価する。 図書館利用者が減少傾向にあることから、根本的な原因が何であるのか分析し、分析結果に基づいて、PR方法を工夫する必要がある。
	イ 中央図書館に、新たにビジネス支援コーナーを設置します。(中央館)	A ●ビジネス支援コーナーを設置した。 〔内訳：①参考図書コーナー(統計書・白書・ビジネス関連パンフレット等を配架)、②展示図書コーナー(ビジネス書の展示を年4回実施)〕	A コーナーの設置そのものが、利用者に対するビジネス支援サービスのアピールにもつながり、評価できる。 ただし、サービスはコーナー設置のみでできるものではない。そこで実施されるサービスの内容に左右されるため、引き続き職員の積極的な関与を期待したい。
	ウ 経営・就職関連資料の提供や、関連情報の発信等の、ビジネス支援サービスを強化します。(中央館)	A ●新たに設置したビジネス支援コーナーにおいて、経営・就職関連資料の提供や情報発信等のビジネス支援サービスを開始した。 ●千葉市の元気企業を紹介するとともに、その経営者によるビジネス支援講座を開催した。	B コーナーの資料の充実や講座の開催など、取り組みが進んでいることについては評価できるが、具体的な成果が確認できない。 図書の展示などは、そのままビジネス支援につながらない可能性もあるため、検証をお願いしたい。
	エ 高齢者や、図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを拡充します。 * 郵送貸出 (中央館) * 宅配サービス (地区館) * 対面音訳(*9) (中央・みやこ・花見川・稲毛・緑) * 録音資料、点訳絵本の作成 (中央館)	B ●高齢者向けに大活字本の充実を図ったほか、宅配サービスを実施した。 ●障害者向け点訳絵本を作成し充実を図ると共に、体験学習等において、点訳絵本の作成を実施した。 ●サピエ(*10)図書館の活用等による、録音図書の充実を図る必要がある。	B 図書館が行う基本的なサービスであり、その充実に努めている点は評価する。 懇談会の開催などにより、利用者の要望を把握し、サービスの充実に努めてもらいたい。 なお、サピエの活用は早急な実施を望む。
	オ よりよい障害者サービスの実施のために、職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場を設けます。(中央館)	A ●障害者サービス担当職員のスキルアップのための研修会及び音訳協力者向けの研修会を実施した。 ●小・中学生向けの点字体験を、夏休み期間や子ども読書まつりにおいて実施した。	A 職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場が充実しており、評価する。
	カ 図書館に来館することが困難な高齢者に対するサービスとして、高齢者施設への図書の貸出の事業化に向けた準備を進めます。(中央館)	C ●高齢者施設への団体貸出に向けた準備を行ったが、貸出に適した資料が少なく、また、受入を希望する施設側の課題もあり、実施には至らなかった。 ●高齢者施設に対する、不用雑誌の無料配付(2回)を実施した。	C 受入側とのミスマッチの原因を分析し、適切な情報提供を模索する必要がある。寄贈本の有効活用など、貸出団体の管理負担の削減などの工夫が必要である。 このサービスのための予算確保も必要である。
	キ 外国語資料の収集・提供等、多文化サービス(*11)を拡充するとともに、サービスのPR等により利用を促進します。(中央館)	B ●外国語資料の充実を図ると共に、外国語資料の企画展示を実施(3回)した。 ●外国語によるおはなし会を実施した。 ●更なるサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。	B 企画展示やおはなし会の開催については評価するが、更なる充実を望む。

ク 図書館・公民館図書室以外での図書館資料の受け渡し場所の設置について、引き続き検討します。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)を策定する中で検討した。 ・駅等への返却ポスト等の設置 ・図書館以外の読書施設との連携 	C	利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。
ケ 地域の実情に即し、開館日等の見直しについて、引き続き検討します。(全館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●開館日等の拡大に向けた、必要な予算や人員の確保などの課題を踏まえた検討を行った。 ●新たな経費がかからない取組として、職員は出勤しているが休館としている、年末年始及び特別整理期間の短縮が前倒しで実施できないか検討した。(25年度実施予定) 	C	利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。 地域の状況に応じた、柔軟な運営も必要である。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
2-1	レファレンス受付数	対前年度比増	87,525件	達成 (前年比516件増)	87,009件	89,243件	市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数
2-2	新規登録者数	対前年度比増	20,648人	達成 (前年比1,570人増)	19,078人	21,046人	新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む)
2-3	来館者数	対前年度比増	276.4万人	未達成 (前年比7.2万人減)	283.6万人	294.7万人	館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数
2-4	年間貸出利用者率	対前年度比増	市民の15%	達成 (前年比1%増)	市民の14%	市民の15%	1年間に、図書館を利用した市民の割合(世代別・性別利用者統計も出し、利用者層を分析する)
2-5	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数100件 貸出冊数8,705点	未達成 (前年比27件、494点減)	127件 9,199点	102件 9,221点	対面音訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本(*12)・郵送貸出を含む)

内部評価

【評価】

- 図書館ホームページの「調べ物相談」等において、掲載項目の拡充を図るなど、レファレンスの活用について広報に努め、受付数の増につなげた。
- 中央図書館に新たに「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス支援サービスを開始するするなど、だれもが利用しやすい図書館サービスの展開を進めた。
- 職員向けに定期的な研修を実施し、研修内容をレファレンスサービスの充実や、館内表示の改善につなげることができた。

【課題】

- レファレンスサービスについての認知度はアンケート調査では決して低くないが、利用する人はまだ限られていることから、利用しやすい環境づくりが必要である。
- 引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。
- 来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。
- 外国語資料の提供等、多文化サービスについては、利用が進んでいないことから、更なる資料の充実やサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。

【方針】

- ホームページやFacebook等によるPRをさらに充実させ、図書館未利用者へのPRの強化を図る。
- 大活字本の更なる充実や、サピエ図書館の活用等による録音図書の充実を図り、高齢者や図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを充実させる。
- レファレンスカウンターの作り方などを工夫し、気軽に利用ができる環境づくりに努める。

外部評価

【評価】

- ・レファレンスサービスに対してのSNSの活用やホームページでの「調べ物案内」の公開、あるいは案内表示の改善など様々な手法で広報に努めたことによって利用件数が増加していることを評価する。また定期的なレファレンス研修の実施も評価したい。
- ・YAサービスの実施など、新たな取り組みがなされ、PRの強化により新規登録者数が増加したことは評価する。
- ・ビジネス支援コーナーの設置そのものが、利用者に対するビジネス支援サービスのアピールにもつながり、評価できる。
- ・職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場が充実しており評価できる。
- ・多文化サービスにおける企画展示やおはなし会の開催についても評価したい。

【課題】

- ・レファレンスサービスによって市民が望む課題解決に対応できているかどうかの検証が必要である。レファレンスサービスを知らない利用者も多い。継続的なPRの実施を望む。
- ・ホームページに千葉市に関連する独自の事例や、レファレンスに親しみのもてる事例の掲載なども検討し、公開していただきたい。
- ・「レファレンス協同データベース」への登録は評価するものの、当該データベースの特徴を活かし、より多くの事例の登録を望む。また、パスファインダーについても、より多くの件数を追加するとともに、子ども向けや地域情報など、市民が求めている情報を的確につかみ、それに対するパスファインダーの充実を望む。来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体によるパスファインダーの提供等、更なる工夫が必要である。
- ・レファレンス研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。
- ・市民の情報活用育成支援の取り組みは評価できるものの、利用者とその取り組みが周知されていないため、周知方法に工夫が必要である。検索機のそばに人を配置するなど、日々の業務の中でのフォローも必要である。
- ・ビジネス支援サービスは、コーナー設置のみでできるものではない。、そこで実施されるサービスの内容に左右されるため、引き続き職員の積極的な関与を期待したい。
- ・図書館資料の新たな受け渡し場所や開館日の見直しについては、利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。

【方針3】 図書館から積極的に情報を発信します

(1)ホームページ等からの情報発信		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 利用者のニーズに適応した情報提供を行い、図書館の利用を促進するため、図書館ホームページを運営するとともに、コンテンツの拡充などにより積極的な情報発信を図ります。(全館)	A	●図書館ホームページへ、「ビジネス情報」を新たに掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図った。	B	図書館ホームページのコンテンツの充実や、デザイン・構成の見直しについては評価する。 ホームページは、図書館業務において不可欠なサービスとなっており、見て楽しく、図書館に足を運びたいようなホームページとなるよう、より一層の充実が望まれる。
	イ 平成24年3月のホームページのリニューアルに合わせて、新たなコンテンツとして立ち上げた「図書館NOW!」では、時節の話題や中央図書館で実施している企画展示などを取り上げ、さらに掘り下げた情報提供を行っていますが、今後は地区図書館の企画展示を取り上げるなど、さらに内容を充実させます。(中央館)	B	●「図書館NOW!」では、時節の話題(アカデミー賞、iPS細胞)や興味関心の高い事柄(東京駅リニューアル、楽しく生きるヒント)などを中心に情報提供した。 ●掲載情報の更なる拡充、更新を図る必要がある。	B	「図書館NOW!」という新たな掲載情報の試みについては評価できる。 利用者の反応が弱く感じられることから、市民の希望やアイデアを取り入れた企画を行うなど、より多くの人に図書館に関心を持ってもらう工夫が望まれる。
	ウ 千葉市の地域・行政資料(*13)や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集し、体系的に整理、保存して提供します。また、これらの情報をホームページ等から発信します。(全館)	A	●千葉市の地域・行政資料や地域情報等の千葉市関連資料の積極的な収集・保存を行った。 ●電子化された資料は紙媒体化に努め、市民に提供した。 ●収集した行政資料については「千葉市行政資料目録」を作成し、ホームページで情報を提供した。 ●職員の効率的なレファレンス対応を図るため、「千葉市史」の検索データベースを作成した。	A	行政資料や地域資料の収集・整理・保存、そして提供は図書館の根本的な業務であり、積極的な対応を評価する。郷土資料のデジタル化の試みについても、評価したい。 「千葉市史」の検索データベースは、公開に向けた検討を期待する。
	エ ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、検討します。(中央館)	C	●読書環境整備計画(仮称)骨子への位置付けを行った。 ・無線LAN(Wi-Fi)の導入<<【方針1】(2)イ再掲>> ・郷土資料のデジタル化(一部実施) ・電子書籍への対応 ・タブレット活用の検討	C	ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望みたい。
	オ ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)(*14)による情報提供を行います。(中央館)	A	●FacebookページをH24年7月に開設、迅速かつ頻繁に情報を掲載した。	A	Facebookの活用については評価する。 実施後の効果や問題点についての検証が必要である。

(2) 出会いのある図書館利用の促進

取組項目	ア 各種講座については、市民の関心の深いテーマを選定するとともに、関係機関との連携などにより関連する企画展示を同時期に実施するなど、図書館の利用促進につながる内容とするため、さらなる工夫を図ります。 * 図書館市民講座(全館) * 郷土史講座、文学講座(地区館)	B	●地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会やわらべうたの会等を実施した。 ●読書活動の普及・啓発のため、図書館市民講座を開催した。 (「身近な気象と減災」、市民防災講座「直下型地震に備えて」、市民防犯講座「地域の安心・安全～防犯力を高めよう～」、郷土文学講座「浅田次郎と千葉県」、「やさしい生命保険のしくみ」、美術講座「文人画再発見!」等) ●講座の魅力をより一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。	B	定例おはなし会やわらべうたの会の実施、市民講座の実施による利用の啓発は、評価する。 図書館における市民講座は、会場に関連書籍を展示するなど図書館資料を活用し、読書活動の推進や図書館の利用を推進するための催しとなることが望ましい。 参加率の低い講座もあり、市民ニーズの把握も必要とされる。 また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢が必要である。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>イ 図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらい、資料への関心と理解を促すため、企画展示を実施します。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館所定のコーナーを使用し、企画展示を実施した。(「過去10年のベストセラー」、芥川賞・直木賞・本屋大賞などの過去の受賞作品の紹介、小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」等) 	<p>A</p> <p>企画展示については、各館とも内容が充実し、来館者の関心を引くものとなり評価する。優れた企画展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。</p>
<p>ウ 図書館の利用を促進するため、出前講座をはじめとした地域での広報活動を積極的に展開します。 * 市政出前講座(*15)の受付 (中央館) * 著作権セミナーの開催 (中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「図書館を上手に使いこなそう」をテーマとした、市政出前講座を実施した。 ●文化庁及び千葉県との共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した。(H25年1月 会場:千葉市生涯学習センター) ●出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。 	<p>B</p> <p>実施については評価するものの、出前講座等の開催件数(1回)がまだ少ない。 また、図書館活用の広報が自己満足に終わらないよう、幅広い広報活動の工夫と展開を望みたい。</p>
<p>エ 各種メディアを活用し、効果的な広報活動を実施します。 * 「図書館だより」の発行 (中央館) * 「市政だより」へのおはなし会イベント等の掲載 (全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●秋の読書週間にあわせて「市政だより」10月15日号の1面全面を使用し、図書館の利用促進に関する啓発を行った。 ●「図書館だより」にレファレンス事例を毎号掲載したほか、ホームページやFacebookによる広報を実施した。 ●図書館未利用者へのPRのため、公民館・区役所などを通じた各事業のお知らせを配布した。《【方針2】(1)ア再掲》 ●地域広報誌に事業の案内を掲載した。 ●地区内小学校への利用啓発を行った。 	<p>A</p> <p>「市政だより」1面で、秋の読書習慣にあわせた図書館利用に関する広報を行うなど、積極的な対応を評価する。 「教育だより」など各種メディアの活用や、おはなし会以外の図書館利用案内の掲載、チラシの配布先・配布方法の工夫など、更なる拡充を期待したい。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
3-1	地域・行政資料の収集冊数	現状維持	4,027冊	未達成 (前年比923冊減)	4,950冊	4,485冊	千葉市、千葉県に関する資料の年間収集冊数(紙媒体)
3-2	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	29回 1,851人	達成 (前年比7回、175人増)	22回 1,676人	25回 1,358人	一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数

内部評価

- 【評価】
- 図書館ホームページへ、新たに「ビジネス情報」を掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図り、積極的な情報発信に努めた。
 - Facebookページを開設し、迅速かつ頻繁に記事を投稿するなど、新たな層への情報発信を進めた。
 - 郷土資料のデジタル化に着手するなど、郷土資料のICT化を推進した。
- 【課題】
- 来館者数・貸出者数の減少傾向が続いていることから、普段、図書館を利用していない人たちに図書館の有効性や魅力をアピールし、行事への参加も含めた図書館利用を引き続き促していく必要がある。
 - 図書館ホームページ掲載情報の更なる拡充、更新を図る必要がある。
 - 各種講座の魅力をより一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。
 - 出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。
- 【方針】
- 市民講座や出前講座など、各種講座を引き続き積極的に開催し、普段、図書館を利用していない人たちへの来館を促すとともに、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者の増加につなげる必要がある。
 - インターネットを使えない人もいるため、ホームページだけでなく、紙媒体等による利用PR等についても引き続き行う。
 - 行政資料については、図書館ホームページコンテンツの充実など、ICTの活用に努める。

外部評価

- 【評価】
- ・ 図書館ホームページのコンテンツの充実や、デザイン・構成の見直し、特に「図書館NOW!」という新たな掲載情報の試みについては評価する。
 - ・ 行政資料や地域資料の収集・整理・保存、そして提供は図書館の根本的な業務であり、積極的な対応を評価する。地域資料のデジタル化の試みについても評価したい。
 - ・ 定例おはなし会やわらべうたの会の実施、市民講座の実施による利用の啓発は、評価する。
 - ・ 企画展示については、各館とも内容が充実し、来館者の関心を引くものとなっており評価する。
 - ・ 「市政だより」1面で、秋の読書習慣にあわせた図書館利用に関する広報を行うなど、積極的な対応を評価する。
- 【課題】
- ・ ホームページは、図書館業務において不可欠なサービスとなっており、見て楽しく、図書館に足を運びたいくなるようなホームページとなるよう、より一層の充実が望まれる。
 - ・ ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望みたい。
 - ・ 各種講座の開催では、参加率の低い講座もあり、市民ニーズの把握も必要とされる。また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢が必要である。
 - ・ 企画展示の中には、優れた展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。
 - ・ 「教育だより」など各種メディアの活用や、おはなし会以外の図書館利用案内の掲載、チラシの配布先・配布方法の工夫など、更なる拡充を期待したい。

【方針4】 子どもの読書活動を推進します

(1) 児童・青少年向けサービスの深化と拡充		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 子どもが知的好奇心を満たすことのできる本と出会えるよう、資料の紹介や展示、相談等を行います。 * ブックリストの作成・配布（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書の企画展示を行うとともに、レファレンスサービスの充実を図った。 ●ブックリスト「よんでみよう」を図書館見学、中学校でのブックトーク(*16)実施時に配布し、本を紹介した。 ●夏休みに向けた図書館担当職員のお薦め本のリストを作成・展示した。 ●小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」を実施した。《【方針3】(2)イ再掲》 	B	企画展示や相談に対する積極的な対応は評価できる。ただし、児童書の貸出冊数は減少していることから、サービスに対する実績や効果について検証し、対応する必要がある。ブックリストは、新しい本も取り入れ、内容を更新する必要がある。
	イ YAコーナーをさらに充実させ、中・高校生の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●YAコーナーのリニューアルによる充実を図った。 ●中・高校生の利用促進を図るため、YAコーナーにおけるテーマ展示を実施した。 ●中・高校生に好きな作家・作品のアンケートを取り、選書に反映させた。 	A	YAコーナーの設置など、中・高校生向けサービスの実施については評価する。今後の利用促進に向け、アンケートによる選書などを引き続き実施し、中・高校生が魅力を感じるような資料の充実、情報の発信を期待する。また館によってサービスのばらつきがあるため、各館が積極的な取り組みを行うことを期待する。
	ウ 児童コーナーでもテーマを決めた企画展示を行い、絵本・お話の本だけでなく、科学などの読み物についても積極的に紹介し、子どもと本との出会いの場を演出します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書コーナーでの企画展示を実施した。 ●「科学の本」のコーナーを新設し、定期的にテーマを変えて展示した。 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。
	エ 子どもの読書の関心を高めるため、おはなし会等を年齢別・対象別に実施します。 * 定例おはなし会（全館） * わらべうたと絵本の会（全館） * 子ども(高校生)が語るおはなし会（全館） * 親子おはなし会（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各図書館で、定例おはなし会を毎週開催し、わらべうたと絵本の会を開催(月1回)した。 ●子ども読書まつりで、絵本や物語以外の資料を紹介した。 ●「高校生が語るおはなし会」や「外国語おはなし会」の拡充に努めたほか、平日の定例おはなし会に参加できない小学生に向けた「小学生土曜日おはなし会」を実施した。 	A	通常のおはなし会だけでなく、対象別や曜日別のおはなし会など、積極的な開催について評価する。
	オ 工作や科学あそび等を通じ、絵本や文学以外の資料の紹介も行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども読書まつりで、千葉市子ども科学館の協力を得て、工作や科学遊び等を実施した。 ●「オリジナル豆本づくり教室」や「科学教室」などを通じ、絵本や文学以外の資料を紹介した。 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。
	カ 平成24年度は子ども読書まつりを「政令指定都市20周年記念事業」として位置付け、関係機関や学校、市民団体などとの連携により、魅力あるイベントを企画・実施します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「政令指定都市移行20周年記念事業」として、関係機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。〔10月20日開催、実施イベント数:25、延べ参加者数:6,374人〕 ●近隣の大学と連携し、「外国語おはなし会」(英語・中国語の絵本の読み聞かせ)を実施した。 	A	市民の関心も高く、内容も充実しており評価する。更なる充実を期待する。
	キ 子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施します。 * 子ども一日図書館員（地区館） * こどもかるたあそび（中央・みやこ・花見川） * 科学あそび・映画会・図書館クイズなど（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(親子図書館たんけんツアー、高校生が語るおはなし会、夏・冬の親子おはなし会等) 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。

<p>ク 子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や、親子参加事業を開催します。 * 子ども読書講座（中央館） * 読み聞かせ講座・入門編（中央館）、わらべうたと絵本講座（地区館） * 「子ども読書の日」記念事業（全館） * 親子図書館探検ツアー（中央館）</p>	A	<p>●子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や、親子参加事業を開催した。 (子ども読書講座、読み聞かせ講座、地域おはなしボランティア(*17)養成講座第6期、わらべうたと絵本の会、「子ども読書の日」記念親子おはなし会、親子図書館たんけんツアー等)</p>	A	<p>親子で参加できるイベントや一般向け講座は需要も高く、積極的な実施について評価する。 継続的な実施を期待する。</p>
<p>ケ 子ども向けの図書館資料検索講座等、図書館利用に関する啓発事業の実施について検討します。(中央館)</p>	A	<p>●小学校へ出向いて検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を開始した。 ●近隣小学校と連携した、図書館利用講座を実施した。 (図書館に来館してもらい、学年に合わせた図書館利用、調べ学習の進め方や検索端末の利用方法等を案内)</p>	B	<p>図書館員が小学校等へ積極的に足を運ぶことは、たいへん重要であり、その中で行われる講座や利用指導の効果は高い。より積極的な実施を望む。 一部の近隣の学校だけではなく、すべての子ども達が利用講座を受けられるよう、より広域での実施が望まれる。</p>
<p>コ 内部研修や派遣研修等を行い、担当職員の知識・技能を向上させるとともに、講師としても育成します。(全館)</p>	B	<p>●児童担当の職員・非常勤嘱託職員に対する、読み聞かせやサービス提供についての研修を実施した。 ●中央館・地区館で協力して、学校や関係機関等に講師として派遣できる人材育成のための取組を開始した。 ●学校へ出向いて教職員へのブックトーク講座を実施した。 ●おはなしや読み聞かせ、パネルシアターの館内研修を実施した。 ●学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。</p>	B	<p>児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、人材育成の取り組みについては評価する。 講師を務めることのできる人材が新たに育っていないことから、育成は急務であると考えます。</p>

(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力

取組項目	<p>ア 千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)の推進及び進行管理を行います。(全館)</p>	<p>B</p> <p>●同計画に位置付けられた施策事業について、子ども読書まつりなど各種行事の充実を図った。 ●関係部局に対し、事業計画等の調査を実施し、進行管理を行った。 ●啓発・広報活動について、一層の充実を図る必要がある。</p>	B	<p>子どもの読書推進は保育園・幼稚園・学校・地域の文庫や子どもと本に関わる団体などと連携して進めないと効果は上がらない。図書館がそれらをつなぐ役割を担って欲しい。</p>
<p>イ 子ども読書活動推進会議を開催・運営します。(中央館)</p>	<p>C</p> <p>●前項の関係部局に対する事業計画等の調査を実施することで代え、会議は開催しなかった。</p>	C	<p>図書館として積極的な働きかけを望みたい。</p>	
<p>ウ 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から学校に出向いて利用案内やおはなし会等も行います。 * 小中学校等の視察・見学、調べ学習受入（全館） * 職場体験受入(中学生)（全館） * ブックトーク(学校訪問おはなし会)（地区館）</p>	<p>A</p> <p>●図書館見学や職場体験を積極的に受け入れた。 ●近隣の小学校や特別支援学校に地域おはなしボランティアを派遣し、おはなし会やブックトークを実施した。 ●小学校へ出向いて検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を開始した。《【方針4】(1)ケ再掲》</p>	A	<p>子どもたちに図書館を知ってもらうことの意義は大きく、積極的な対応を評価する。 年齢に応じた見学内容の工夫や、分館での対応も含めた、図書館から離れた学校への支援など、多くの児童・生徒がサービスを受けられるよう更なる充実を期待する。</p>	
<p>エ 市内小中学校に対し、図書館資料の団体貸出を行います。(中央館)</p>	<p>A</p> <p>●利用促進を促すため、団体貸出についての周知徹底を図った。</p>	A	<p>小中学校への支援は、学校教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。 配送などの改善を図り、学校の近くまで図書を届けることができる団体貸出制度の実現など、更なる充実を期待する。</p>	
<p>オ 教育センター等と連携し、教職員の社会体験研修受け入れ、図書館利用案内、学校図書館指導員研修への協力などを行います。(全館)</p>	<p>A</p> <p>●教育センターの「教職員社会体験研修」を受入れた。 ●教職員向けの講座や校内研修講師を務め、図書館利用や読書指導、おはなし会やブックトークについての講義や講演を実施した。</p>	A	<p>教職員に図書館の実態を知ってもらうことは、図書館に対する理解や、生徒への指導による利用促進にもつながる。積極的な対応を評価したい。</p>	

カ 子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の出貸と、活動への支援を拡充します。(全館)	A	●子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の出貸と、活動への支援を行った。 ●子どもたちの科学の本への関心を高めることができるよう、「子供の科学」元編集長を講師に招いて、地域文庫等研修会を開催した。	A	地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。 更なる充実を期待する。
キ 「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座」を実施し、ボランティアを育成・補充するとともに、資質向上のための研修等を実施します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第6期」を実施し、新たに21人のボランティアを育成した。 ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。(12回、延べ90人参加)	A	ボランティアの新たな育成について評価する。 今後も継続し、実施願いたい。
ク 図書館で育成した地域おはなしボランティアを、地域団体等の依頼を受けて派遣します。(全館)	B	●図書館で育成した地域おはなしボランティアを、地域団体等の依頼を受けて派遣した。	A	地域の様々な団体の要望に応え、より積極的な展開を期待する。
ケ 家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を発行します。(中央館)	A	●4か月児向けの事例集を各区保健福祉センターに配布(9,100部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(10,170部)した。	A	事例集の内容が改善されたことについては評価する。 図書館の利用案内に関する項目など、保護者に対する利用啓発を行うなど、内容を検証し、継続的な実施を期待する。
コ 4か月児健康診査における読み聞かせの実演や研修に、職員及び地域おはなしボランティアを派遣することや、配布図書選書の検討に職員が加わることなどにより、ブックスタート事業に協力します。(全館)	A	●引き続き「ブックスタート」事業に地域おはなしボランティアを派遣した。また、各区健康課の要請に応じて、絵本ボランティア養成講座の講師を務めるなど、ブックスタート事業に協力した。	A	継続的な取り組みについて評価する。
サ 保育所・子どもルームなど子育て支援施設と連携・協力し、子どもの読書環境を豊かにしていきます。(全館)	B	●保育所・子どもルームなどの子育て支援施設に地域おはなしボランティアを派遣したり、団体貸出を行った。 ●地域おはなしボランティアの活動の場として、広く周知を図っていく必要がある。	B	継続的な取り組みについて評価する。 子育て支援施設の開拓など、更なる活動機会の拡大が望まれる。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
4-1	児童書の出貸冊数	対前年度比増	123万冊	未達成 (前年比3万冊減)	126万冊	130万冊	1年間に個人貸し出した児童書(絵本～中学生向き図書、雑誌、紙芝居)の冊数
4-2	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	1,024回 22,055人	達成 (前年比126回、 4,154人増)	898回 17,901人	970回 20,683人	図書館で行うおはなし会、絵本とわらべうたの会等の開催回数及び延べ参加者数
4-3	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	218回 583人	未達成 (前年比2回、90 人減)	220回 673人	181回 717人	地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数
4-4	学校等関連施設と連携事業を行った回数	対前年度比増	406回	未達成 (前年比13回減)	419回	374回	図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数
4-5	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	23,389冊	達成 (前年比295冊 増)	23,094冊	20,723冊	団体貸出により千葉市の子どもたちが利用した図書の冊数

内部評価

【評価】

- 子ども読書活動の推進については、「子ども読書まつり」をはじめ「千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)」に基づく各種事業を展開するなど、概ね計画通り実施することができた。
- ブックスタート事業に事例集の作成・配布や、「地域おはなしボランティア」を派遣するなど、学校・家庭・関係機関等との連携、協力を努めた。
- 学校の図書館見学や職場体験を積極的に受入れ、一定の成果を上げることができた。
- 団体貸出は昨年度を上回る貸出数となった。

【課題】

- 児童書の貸出冊数が減少していることから、団体貸出における貸出・返却ポイントの拡大(分館までなど)や、図書館未利用学校への更なるPRが必要である。
- 学校以外の子どもルームや保育所等、子育て支援施設との連携に努める必要がある。
- 学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。
- 地域おはなしボランティアの活動の場を、更に広げていく必要がある。

【方針】

- 引き続き、団体貸出用資料やYA資料の充実を図る。
- 図書館以外の関係機関や団体との連携を強化し、更なる利用促進策を図っていく。

外部評価

【評価】

- ・児童サービスへの積極的な対応は全体として評価したい。
- ・YAコーナーの設置など、中・高校生向けサービスの実施についても評価する。
- ・「子ども読書まつり」は、市民の関心も高く、内容も充実しており評価できる。
- ・児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、人材育成の取り組みについては評価する。
- ・小中学校や地域団体への支援は、学校教育や社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり評価する。
- ・教職員に図書館の実態を知ってもらうことは、図書館に対する理解や、生徒への指導による利用促進にもつながる。積極的な対応を評価したい。
- ・地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。
- ・「ファミリーブックタイム事例集」の内容が改善されたことについては評価する。

【課題】

- ・児童書の貸出冊数は減少していることから、サービスに対する実績や効果について検証し、対応する必要がある。
- ・ブックリスト「よんでみよう」は、新しい本も取り入れ、内容を更新する必要がある。
- ・YAサービスでは、今後の利用促進に向け、アンケートによる選書などを引き続き実施し、中・高校生が魅力を感じるような資料の充実、情報の発信を期待する。まだ館によってサービスのばらつきがあるため、各館が積極的な取り組みを行うことを望みたい。
- ・講師を務めることのできる人材が新たに育っていないことから、育成は急務であると考える。
- ・子どもの読書推進は保育園・幼稚園・学校・地域の文庫や子どもと本に関わる団体などと連携して進めないと効果は上がらない。図書館がそれらをつなぐ役割を担って欲しい。
- ・図書館員が小学校等へ積極的に足を運ぶことは、たいへん重要であり、その中で行われる講座や利用指導の効果は高い。より積極的な実施を望む。
- ・年齢に応じた見学内容の工夫や、分館での対応も含めた、図書館から離れた学校への支援など、多くの児童・生徒がサービスを受けられるよう更なる充実を期待する。
- ・一部の近隣の学校だけではなく、すべての子ども達が利用講座を受けられるよう、より広域での実施が望まれる。

【方針5】 他の図書館や関係機関と連携・協力します

(1)図書館間協力の一層の推進		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館間の相互貸借等により、千葉市図書館に所蔵していない資料を市民に提供するとともに、他の図書館等を通じて千葉市図書館の資料を有効活用します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市が所蔵していない資料についても、積極的に相互貸借で対応することにより、利用者に提供した。 ●未所蔵図書を求める利用者に対し、図書館間協力制度の紹介を行った。 ●大学図書館との物流体制の整備を図る必要がある。 	B	<p>継続的な実施について評価する。</p> <p>公共図書館間の相互協力制度は確立しており、当然の事業となっている。今後も継続されたい。なお大学図書館は、市民に開放されているところも多く、その点を踏まえた相互協力体制の整備が必要である。</p>
	イ 平成24年3月から、国立国会図書館の協同データベースに千葉市のレファレンス事例掲載を開始しましたが、今後も引き続き千葉市の事例を掲載し、登録事例を増やしていきます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に、レファレンス事例を追加した。《【方針2】(1)イ再掲》 ●図書館ホームページの「しらべかたのあんない(パスワード)」に、事例を追加した。《【方針2】(1)イ再掲》 	B	レファレンス協同データベースの特徴を把握し、登録事例を増やすとともに、利用者のニーズに沿った対応を望む。
	ウ レファレンスサービスに関する相互協力を行います。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市所蔵の資料だけでは回答が難しいレファレンスについて、千葉県内外の図書館や類縁機関に協力を求めた。 	A	各種の機関の特徴や所蔵情報を把握し、相互に活用しあうことが必要であり、今後も広範な関連機関との連携を図るよう望む。
	エ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会(*18)加盟館の連携による資料の相互利用や、企画展示などの事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●加盟館紹介展を実施した。併せて期間中に講演会を開催した。 *加盟館紹介展：10-11月(場所：千葉市生涯学習センター) *講演会：11月(会場：千葉市生涯学習センター) テーマ「電子書籍の可能性～利用と課題～」 ●資料の相互利用を高めるため、引き続き検討を行う。 	B	<p>継続的な実施について評価する。</p> <p>ネットワーク協議会の主旨を踏まえ、個々の図書館の資質向上に向けた取り組みを積極的に展開していく必要がある。</p>
	オ 他の図書館との協力による共同研修や共同事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉県との共催により「著作権セミナー」及び分科会を開催した。《【方針3】(2)ウ再掲》 ●更なる事業の拡充を図る必要がある。 	B	事業の実施について評価するが、更なる充実が望まれる。
	カ 平成24年1月に設置された「九都県市首脳会議 知識・情報資源としての図書館利活用研究会」に参画し、構成都県市の図書館との広域的連携などについて検討します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「自慢したい風景」と題し、九都県市の図書館で企画展示を同時に開催した。 *千葉市中央図書館展示：10-12月(場所：1階エントランス展示コーナー) ●今後の連携体制について、検討を進める必要がある。 	B	<p>新たな取組みについて評価する。</p> <p>更なる連携や、独自の取り組みに関するアピールなど、引き続き検討していただきたい。</p>

(2) 地域の関係機関、各種団体等との連携

取組項目	ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども読書まつり」の中で、「千葉市の姉妹都市・友好都市」の展示をおこなった際、国際交流課より資料の提供を受けた。 ●「図書館市民講座」、「ビジネス支援講座」を、生涯学習センターの「学びフェスタ」と連携して実施した。 ●「千葉市科学館」の協力を得て、子ども読書まつりにて「科学遊び」、「エイムズの部屋」を実施した。 ●公民館と共催で、おはなし会やわらべうたの事業を実施した。 ●コミュニティセンターと協賛にて、親子映画会、科学教室、親子おはなし会、市民講座を開催し、関係資料の展示・貸出を行った。 ●動物公園、科学館、埋蔵文化財センター、県警、町内自治会、NPO、高齢者社会福祉施設、私立高校、おはなしボランティアグループと連携・協力した事業を実施した。 	A	多彩な事業により、図書館利用の活性化が図られている点を評価する。また、さまざまな機関と連携して幅の広い企画が出来るように工夫されたことはよかった。
	イ 高等学校や大学、教育センター等教育機関との連携を図り、高校生、大学生、教員の図書館利用促進と、相互の資料活用について検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●教育センターにおける教職員向け講座の講師を務め、図書館利用や読書指導、おはなし会、ブックトークについての講義を行った。 ●学校図書館協議会における教職員向けの説明会や夏休み中の団体貸出資料見学会で、団体貸出や図書館利用の促進を図った。 ●高校生の図書館見学及び利用指導も要望に応じて実施した。 	A	教職員向けの講座や説明会の開催など、積極的な対応を評価する。
	ウ 庁内の職員に対して、業務遂行に必要な資料・情報を提供することなどにより、行政サービスの向上を支援します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●庁内の職員に対して、行政サービス支援のPRをした。 ●求めに応じて調査や資料提供を行った。 ●利用件数が少ないため、更なるPRを行う必要がある。 	B	継続的な実施を評価する。 地道な事業展開によって、庁内における図書館の理解者の増加につながることも、より積極的な展開を望みたい。
	エ 千葉市内で、市民に資料貸出や閲覧を行っている施設との連携や協力について検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)骨子に「図書館以外の読書施設との連携」の位置付けを行った。 	B	具体的な連携や協力について、引き続き実施に向けた検討を望む。
	オ 高齢者福祉施設と連携し、泉分館で大人向けおはなし会を実施します。(若葉)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●泉分館において、継続的に実施した。 ●更なる連携施設の拡充を図る必要がある。 	B	泉分館の取り組みを評価する。 更なる拡大を望みたい。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
5-1	図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受6,449冊 貸出6,765冊	一部達成(前年比 借受:929冊減、貸出:1,068冊増)	借受7,378冊 貸出5,697冊	借受7,621冊 貸出6,230冊	他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数
5-2	連携事業等実施数	対前年度比増	343件	達成 (前年比 26件増)	317件	277件	学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数

内部評価

【評価】

- 国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」へのレファレンス事例提供を増やすなど、図書館間協力の一層の推進を図った。
- 県内外図書館との相互協力による資料の提供の制度が図書館利用者に浸透しつつあることなど、成果が上がっている。(利用者アンケートによるサービス認知度 H23:76.9% H24:82.2%)
- 地域の関係機関、各種団体等との連携については、千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館、学校、関係機関との連携事業も概ね計画通り実施することができた。

【課題】

- 庁内職員に対する支援は、利用件数が少なく、有効な施策にまで至っていない。
- 大学図書館との物流体制の整備を図る必要がある。
- 他の図書館間協力については、更なる事業の拡充を図る必要がある。
- 千葉市図書館情報ネットワーク協議会との研修や、企画展示等での協力を行ったが、資料の相互協力の物流の確保など課題がある。
- 他機関との連携については、高齢者福祉施設など更なる連携施設の拡充を図る必要がある。

【方針】

- 庁内職員への図書館サービスについては、職員ニーズの把握に努め、更なるPRや支援サービスの充実策について検討する。
- 高齢者福祉施設等、更なる地域の関係機関、各種団体等との連携を進展させる。

外部評価

【評価】

- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」への事例登録は評価する。今後、レファレンス協同データベースの特徴を把握し、登録事例を増やすとともに、利用者のニーズに沿った対応を望む。
- ・市内の各種機関・団体との連携によって多彩な事業が展開され、図書館利用の活性化が図られている点を評価する。さまざまな機関と連携して幅の広い企画が出来るように工夫されたことはよかった。
- ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会での加盟館との連携協力、また研修会への参加を評価する。
- ・教職員向けの講座や説明会の開催など、積極的な対応を評価したい。
- ・庁内職員への情報提供が始まっており、さらなる充実に努め、庁内における図書館理解者の増加を図りたい。

【課題】

- ・図書館が第一に考える連携先は公民館図書室であり、公民館図書室との連携を強化し、公民館図書室のサービス向上に積極的に関わる必要がある。
- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」への事例登録を増やし、利用者が使えるデータベース構築に寄与してもらいたい。
- ・今後も広範な関連機関との連携・協力を図る必要がある。
- ・庁内職員に対する情報提供は地道な対応が必要であり、継続的に実施していく必要がある。

【方針6】 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

(1) 図書館活動への参加機会の提供		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 「図書館サポーター(仮称)」制度など、図書館サービスにおける市民ボランティアの活動領域の拡大について、引き続き検討します。(中央館)	C	●「図書館サポーター(仮称)」制度については検討が進まなかったが、「図書館見学ツアー」についてはボランティアに参加してもらい実施した。今後、ボランティアによる運営を進めていく。	C	市民との協働とは何かを十分に検討し、図書館とボランティアのよりよい関係を模索していただきたい。 「図書館サポーター(仮称)」制度についても、改めて意義・内容の検討が必要である。
	イ 地域おはなしボランティアを育成し、地域での活動を支援します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第6期」を実施し、新たに21人のボランティアを育成した。≪【方針4】(2)キ再掲≫ ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。≪【方針4】(2)キ再掲≫	A	ボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。 更なる充実を期待したい。
	ウ 大学生の司書課程実習やインターンシップ実習を受け入れます。(全館)	A	●平成24年度より新たに、要望のあった大学から司書課程実習、インターンシップ実習の受入を行った。(各3名)	A	司書の養成のために実習やインターンシップの果たす役割は大きく、積極的な受け入れを評価する。 継続的な対応を望む。
	エ 中・高校生や大学生の学生ボランティアの受け入れについて検討します。(全館)	B	●市内の高校からの協力を受け、「高校生が語るおはなし会」を実施した。 ●大学生の受入について検討する必要がある。	B	高校生の受入は、大切な事業であり、評価する。 更なる対象範囲や、実施件数の拡大が望まれる。
	オ 図書館が地域の交流の場となるように、市民の企画・参加による事業の実施について引き続き検討します。(中央館)	B	●「政令指定都市移行20周年記念事業」として、関係機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。≪【方針4】(1)カ再掲≫ ●更なる事業の拡充を図る必要がある。	C	企画段階において市民が参画する機会が見当たらないため、より積極的な取り組みが望まれる。 市民との協働について、指針を定める必要がある。また、市民の多彩な能力を発掘し、それを活かす場になっていない。中央図書館が担当館になっているが、地区館が担当してもよいのではないか。

(2) 市民との協働による図書館づくり

取組項目	ア 図書館運営に対する多様な市民の意見を反映するため、委員の改選にあたり、公募委員を増員させます。(中央館)	A	●従来の「家庭教育の向上に資する活動を行う者」へ、新たに「社会教育関係者」を公募委員として加え、2人に増員した。	A	市民の声を図書館行政に反映させるため、公募委員の増員については評価できる。 図書館利用者から、公募への応募が多くなることを期待したい。
	イ 市政モニターや図書館ホームページからのアンケート調査等を行うことにより、図書館未利用者の意見等を把握し、図書館運営の改善に向けた基礎資料とします。(中央館)	B	●市政モニターによるアンケートは実施したが、図書館ホームページからのアンケート調査については、システムの改修などの課題があり、今後も継続して実施に向けた検討をしていく。	B	アンケートの実施を目的化せず、多様な手法により市民ニーズを把握・分析するための基礎データとしての活用を望む。
	ウ 市民懇談会を実施します。(中央館)	B	●「中央図書館見学ツアー」後にツアー参加者との市民懇談会を実施し、活発な意見交換を行った。 ●開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。	B	市民の意見を聞く貴重な機会でもあり、懇談会の実施は評価する。 開催数や参加者数の増加に向けた取り組みをお願いしたい。

<p>エ 平成24年3月に試行実施した「中央図書館見学ツアー」を、平成24年度は計画的に実施し、市民が図書館業務の現状や課題などに関する理解を深めるための機会を提供します。(中央館)</p>	<p>A ●参加者10名による「中央図書館見学ツアー」を実施した。</p>	<p>A ツアーの実施について評価する。開催数の増加を期待したい。</p>
<p>オ 図書館利用者に対し、図書館利用アンケート調査を実施し、その結果を図書館サービスの向上に役立てるとともに、図書館サービスの評価に活用します。(全館)</p>	<p>C ●図書館サービス満足度は89%と昨年を若干下回った。意見としては、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望むものが多く見られるため、これらの課題解決に向けて検討を行う。 ●特に催し物(おはなし会・講座など)については、認知度は高いが参加者が少ないため、募集方法や広報の工夫を工夫する必要がある。</p>	<p>B アンケート調査を継続的に実施し、結果を検証しながら改善に向けた努力を行っていることは評価できる。 満足度が下がったことについては、アンケート内容の分析とその対応を検証し、図書館サービスの向上に活用していただきたい。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
6-1	千葉県図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足度 89.6%	未達成 (前年比1.4%減)	満足度 91.0%	満足度 86.1%	千葉県図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合(小数点2位以下は四捨五入) 24年度 満足 35.9% やや満足 53.6% 23年度 満足 37.9% やや満足 53.1% 22年度 満足 38.3% やや満足 47.8%

内部評価

【評価】

- 地域おはなしボランティア養成講座を実施し、新たに21人のボランティアを育成するとともに、スキルアップ研修の実施など、ボランティアの育成に努めた。
- 近隣の小学校や特別支援学校で、おはなし会やブックトークを実施するなど、ボランティアの図書館活動への参加機会の提供を行った。
- 図書館協議会委員における公募委員を2人に増員し、多様な市民の意見を図書館運営に反映するよう努めた。

【課題】

- 利用アンケート調査において、図書館サービス満足度は89%と昨年を若干下回った。また、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望む意見が多く見られるため、これらの課題解決に向け検討する必要がある。
- 学生ボランティアの受け入れについては、大学生の受入について検討する必要がある。
- 子ども読書まつりの他に、更なる市民の企画・参加による事業の拡充を図る必要がある。
- 市民懇談会の開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。

【方針】

- 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
- 地域おはなしボランティアの養成講座を引き続き実施し、継続的に地域おはなしボランティアの登録者を確保していく。
- 図書館見学ツアー及び市民懇談会の開催数・参加者数の増など、市民参加及び協働事業の拡充に向け検討する。

外部評価

【評価】

- ・地域おはなしボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。
- ・司書の養成のために実習やインターンシップの果たす役割は大きく、積極的な受け入れを評価する。また「高校生が語るおはなし会」の実施も評価できる。
- ・市民の声を図書館行政に反映させるため、公募委員の増員については評価できる。図書館利用者から、公募への応募が多くなることを期待したい。
- ・市民懇談会は、市民の意見を聞く貴重な機会でもあり、懇談会の実施は評価する。開催数や参加者数の増加に向けた取り組みをお願いしたい。
- ・アンケート調査を継続的に実施し、結果を検証しながら改善に向けた努力を行っていることは評価できる。満足度が下がったことについては、アンケート内容の分析とその対応を検証し、図書館サービスの向上に活用していただきたい。

【課題】

- ・市民との協働とは何かを十分に検討し、図書館とボランティアのよりよい関係を模索していただきたい。「図書館サポーター(仮称)」制度についても、改めて意義・内容の検討が必要である。
- ・「子ども読書まつり」は、市民の関心も高く、内容も充実しており評価するが、市民参加という点では、企画段階で市民が参画する機会が見当たらず、消極的であると感じる。市民との協働について、指針を定める必要がある。また、市民の多彩な能力を発掘し、それを活かす場になっていない。中央図書館が担当館になっているが、地区館が担当してもよいのではないか。

【サービス推進のための経営資源について】

図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の3つの経営資源の充実に努めます		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館の安全性・快適性を確保するため、施設の点検や老朽化部分の改修を行います。(全館) * 空調設備の改修に伴う実施設計(みやこ)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の点検及び修繕を実施した(小破修繕)。 *みやこ図書館:空調設備改修に伴う実施設計を行った。白旗分館の返却ポストの整備を行った。 *美浜図書館:返却ポスト設置に向けた予算措置を行った。 ●厳しい財政状況であるが、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け計画的に実施する。 	B	<p>継続的な対応について評価する。</p> <p>施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。</p>
	イ 読書環境整備計画調査の実施 良好な読書環境を整備するため、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備にかかる計画を策定します。平成24年度は、市民意識調査や有識者からの意見聴取などを実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●市のインターネットモニターアンケート調査を活用したアンケート調査を実施したほか、骨子(案)について、図書館協議会へ報告を行った。 ●有識者への意見聴取については、ICTの専門家を招いた講習会の実施等を行ったほか、図書館向けの展示会等に参加し今後の方向性を調査した。 	B	<p>計画的な実施について評価できる。</p> <p>平成25年度の策定に向け、市民の意見や要望、図書館の空白地帯の検証を行い、ハード面の長期的な整備計画も入れていただきたい。</p>
	ウ 図書資料費の有効活用により、図書資料を整備するとともに、引き続き図書資料費の確保に努めます。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書資料の整備に充てるため、寄付金の受入や募金箱の設置を開始した。 ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に対応した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。《【方針1】(1)イ再掲》 	B	<p>新たな取り組みについて評価する。</p> <p>子どもたちの育成や地域の課題解決に役立つ図書館の価値を理解してもらい、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。</p>
	エ 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上に、引き続き取り組みます。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師による接遇の全体研修、全庁的な取り組みである「接遇向上宣言」による取り組み、所属単位での研修・啓発等を実施することにより、サービス向上に努めた。 ●窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。《【方針1】(1)ケ再掲》 	B	<p>継続的な対応について評価する。</p> <p>対人サービスの基本である接遇の質を向上させ、利用者満足度を高めていただきたい。</p>
	オ 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●司書資格を有する職員の配置を要望するとともに、有資格の嘱託職員について内部研修や派遣研修により育成を図った。 ●より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。 	B	<p>嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。</p> <p>正規職員の司書比率は、微増だが増加しており評価したい。司書の確保は、図書館サービスの質に直結するため、今後も専門的能力を持った有資格者の確保に努めていただきたい。</p> <p>また、職員が司書資格取得をとりやすい体制を作るなどして、司書資格を有する職員の割合を増やす努力が必要である。世代交代の時期を向かえ、新しい人材の育成も急務となっている。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
7-1	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.0%	達成 (前年比1.1%増)	52.9%	54.6%	千葉市図書館の職員(正規職員及び嘱託職員)のうち、司書資格を有する職員の割合(翌年度4月1日現在) 24年度 正規職員 29.7% 嘱託職員 95.7% 23年度 正規職員 27.7% 嘱託職員 97.1% 22年度 正規職員 30.2% 嘱託職員 95.7%

内部評価

【評価】

- 施設の修繕は、予定通り実施できた。
- 市の実施計画の位置付けとなる「読書環境整備計画(仮称)」の骨子(案)を策定し、図書館協議会へ報告を行った。
- 図書資料の整備に充てるため、寄付金の受入や募金箱の設置を開始した。

【課題】

- 施設については、今後も修繕を要する地区館等もあり、計画的に整備を進める必要がある。
- 高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。
- 窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。
- より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。

【方針】

- 「読書環境整備計画(仮称)」を、平成25年度に策定し、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備を計画的に実施する。
- 安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け、計画的に実施する。
- 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。

外部評価

【評価】

- ・計画されていた施設の点検及び修繕は実施されており、計画的な実施について評価したい。
- ・嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。
- ・正規職員の司書比率は、微増だが増加しており評価したい。

【課題】

- ・施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。
- ・「読書環境整備計画調査」では、平成25年度の策定に向け、市民の意見や要望、図書館の空白地帯の検証を行い、ハード面の長期的な整備計画も入れていただきたい。
- ・図書資料費の確保については、子どもたちの育成や地域の課題解決に役立つ図書館の価値を理解してもらい、募金や寄附にたよることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。
- ・対人サービスの基本である接遇の質を向上させ、利用者満足度を高めていただきたい。
- ・司書の確保は、図書館サービスの質に直結するため、今後も専門的能力を持った有資格者の確保に努めていただきたい。また、職員が司書資格取得をとりやすい体制を作るなどして、司書資格を有する職員の割合を増やす努力が必要である。世代交代の時期を向かえ、新しい人材の育成も急務となっている。

【総合評価】

内部評価

【評価】

- 総合的には、一定の業務水準を確保することができたものとする。
- 年間受入図書資料数については、交付金等の削減により、前年度実績に届かなかったものの、団体貸出用資料の充実を重点的に図るなど、資料費を有効に活用するとともに、寄贈を呼びかけ、寄贈資料数を増やした。また、マナー啓発等を積極的に実施し、延滞件数の減少につなげるなど、資料の適正な管理を行うことができた。
 - 寄付金の受入や募金箱の設置を新たに開始することにより、資料の整備費用の確保に努めた。
 - 課題を解決するためのサービスについては、図書館ホームページにおいて、掲載項目の拡充を図るなど、レファレンスの活用について広報に努め、受付数の増につなげることができた。
 - 中央図書館に新たに「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス支援サービスを開始するなど、だれもが利用しやすい図書館サービスを展開することができた。
 - 利用者への情報発信については、図書館ホームページへ新たに「ビジネス情報」を掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図り、積極的な情報発信に努めた。さらに、Facebookページを開設して迅速かつ頻りに記事を投稿するなど、新たな層への情報発信を進めた。
 - 郷土資料のデジタル化に着手するなど、ICT化を推進することができた。
 - 子どもの読書活動の推進については、「子ども読書まつり」をはじめとした各種事業を実施するとともに、ブックスタート事業への協力や、学校の図書館見学や職場体験の受入れ等を行った。団体貸出は昨年度を上回る貸出数となった。
 - 地域おはなしボランティア養成講座などでボランティアを育成するなど、市民参加を進めたほか、図書館協議会委員における公募委員を2人に増員し、多様な市民の意見を図書館運営に反映するよう努めた。

【課題】

- 来館者数は減少傾向にあり、市民一人当たり貸出数及び総貸出数、WEB予約件数については、目標を達成できなかった。
- 図書館サービス満足度は89%と昨年度を若干下回っており、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望む意見が多く寄せられた。
- 図書資料の充実、図書館未利用者へのPR、有料データベース等の活用、館内公衆無線LAN環境の整備のほか、高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。
- 高齢者福祉施設など他機関との連携の強化や、市民との協働などに取り組んでいく必要がある。
- 施設については、今後も修繕を要する地区館等もあり、計画的に整備を進める必要がある。

【方針】

- 以上のことから、引き続き、限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくため、次のように施策展開を図る。
- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保のほか、予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用に努める。
 - 図書館未利用者へのPRの強化については、引き続きホームページやFacebookページ、図書館だより等により積極的にPRを行う。
 - 各種講座を開催し、普段、図書館を利用していない人たちへの来館を促すと同時に、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者増を図る。
 - 図書館以外の地域の関係機関、各種団体、ボランティア等との連携を進展させる。
 - 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
 - 「読書環境整備計画(仮称)」を平成25年度に策定し、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備を計画的に実施する。
 - 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。
 - 施設整備について、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。

外部評価

【総合評価】

- ・中央図書館だけでなく図書館全体で前向きな姿勢を感じる事が出来、サービスの向上に努めていることは評価できる。
- ・図書館協議会の公募委員を1人から2人へ増員したことについては評価できる。
- ・Facebookの活用、ビジネス支援サービスの開始、地域資料のデジタル化など新たな取り組みは評価できる。
- ・「読書環境整備計画」に着手しソフトとハード両面で今後の千葉市の図書館のあり方を方向付けることは大変重要である。現状を十分に分析して、市民の要望にこたえる計画が作成されるよう期待したい。
- ・課題もあるが、図書館職員の日々の努力に深く感謝したい。

「課題」

- ・様々な取り組みがされ、努力もされているのに一般も児童も貸出が減る傾向があることをどのように考えるのか、その原因について分析し、検討することが必要である。
- ・寄贈や寄附に頼らない図書資料や資料費の充実を望む。
- ・ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望む。
- ・市民の課題解決に対応したレファレンスサービスの展開を望む。
- ・図書館未利用者への積極的なPRの実施を望む。
- ・市民との協働事業について、より積極的な取り組みを望む。
- ・司書資格を持って活躍された方が次々と定年退職されている。それを受け継ぎ発展させる人的要件が弱いように見受けられる。人の問題が千葉市の図書館にとって最大の問題だと考える。早急な対策をしないと先に評価した項目の質が達成できない。
- ・公民館の運営が指定管理者になることが検討されている。公民館図書室は統計にも組み込まれている大切な読書施設で、利用者の20%が利用している。管轄が違うが千葉市の読書環境を全体的に見る責任は図書館にある。公民館図書室がどうあることが市民にとって良いのか図書館の立場で考える時である。

【用語解説】

- *1 **除籍**: 図書館に受入登録されている資料の記録を抹消すること。
- *2 **レファレンスサービス**: 利用者からの質問に対し、図書館で得られる情報を基に答えるサービス。回答そのものを与えるものと、回答を得るために必要な資料や情報源を提供する場合がある。
- *3 **おはなし会**: 読み聞かせ、素話、わらべうた等の会の総称。
- *4 **非常勤職員**: 一般職の常時勤務を要しない職員。図書館では、週3日勤務。雇用期間は原則1年だが、図書整理業務は経験が必要であり、継続雇用手続きをとっている。
- *5 **公衆無線LAN環境**: 無線LANによってノートパソコンなどから、インターネットへの接続サービスを利用出来る場所を設定する。利用に際しては、利用者自身の接続業者との契約が必要となる。
- *6 **調べ方案内(パスファインダー)**: 特定のテーマに関する資料や情報の調べ方を一覧できるようにまとめたもの。網羅的な文献リストや全般的な検索方法の紹介とは異なる。
- *7 **非常勤嘱託職員**: 特別職の地方公務員。教育委員会が委嘱し、委嘱期間は1年(再委嘱可)。図書整理業務については、司書有資格者を、中央図書館は週4日勤務、地区図書館・分館は週3日勤務で委嘱している。
- *8 **YA(ヤングアダルト)**: 図書館界や出版界で、主に10代の読者や利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として意識して呼称するときに使う用語。千葉市図書館のサービス対象としては、中・高校生を想定している。
- *9 **対面音訳**: 視覚などに障害を持ち、活字資料を読むことが困難な利用者に対し、1対1で、資料を読むサービス。「対面朗読」とも言うが、文章だけでなく、図・表・写真も音声化することが求められるため、「音訳」という言葉を使っている。
- *10 **サピエ**: 視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データで提供するネットワーク。日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会により運営されている。
- *11 **多文化サービス**: 地域に暮らすマイノリティ(民族的・言語的・文化的少数者)に対し、母語を中心とした資料・情報を提供することで、知る権利・学ぶ権利を保障する図書館サービス。多言語サービスとも言う。
- *12 **自宅配本**: 身体障害等で、図書館への来館が困難な市民に対して、地区図書館から職員が、月2回、図書館資料を届けるサービス。
- *13 **地域・行政資料**: 特定の地域で刊行、出版され、また、その地域に関して記述されている資料、図書、逐次刊行物、小冊子等の文献資料などその地域の事情を知り、研究の手がかりとなる資料。
- *14 **ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)**: 人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制インターネットサービスのこと。
- *15 **出前講座**: 市の施策や制度・事業について市の職員が説明に出向き、質疑応答や意見交換を通して、市政への理解を深め、参加と協働のまちづくりを推進するもの。(広聴課所管事業)24年度は144テーマを掲げており、図書館は「図書館を上手に使いこなそう」と「知って得する図書館利用法」の2テーマで申し込みを受けている。
- *16 **ブックトーク**: グループを対象として数冊の本を紹介する仕事またはその集会。
- *17 **地域おはなしボランティア**: 千葉市における子どもたちの読書活動の推進を目的に実施する「おはなし会」等の趣旨に賛同し、自らの自由意思により、その知識及び技能を無償で提供する者。登録には千葉市生涯学習センター及び千葉市図書館主催のボランティア養成研修を修了することが条件となる。
- *18 **千葉市図書館情報ネットワーク協議会**: 千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。平成24年度の加盟館は26館。千葉市中央図書館が事務局となっている。

小学校1年生から3年生に「まほうの読書ノート」を配布します！
～ 目指せ！日本一の読書の街！！～

千葉県図書館では、読んだ本の記録ができる「まほうの読書ノート」を作成し、市内の小学校・特別支援学校に通う1年生から3年生全員に配布することといたしましたので、お知らせします。

また、「まほうの読書ノート贈呈式」を行いますので、併せてお知らせします。

1 配布の目的

「まほうの読書ノート」は、子どもたちが本を読んだ時に感じたことなどを記録し、家族や友達、学校の先生など周囲の人に披露することで、読書の楽しさや素晴らしさを感じ、本を読むきっかけとなるよう作成したもので、これにより、親子のふれあいや家庭での読書の推進を図る。

2 配布対象及び配布日

- (1) 配布対象 市内の小学校1年～3年生 (117校 25,155人)
- (2) 配布日 平成26年7月16日(水)以降、各学校にて配布。

3 ノートの特徴

- (1) 「まほうの読書ノート」のコンセプト

- ア 親しみやすい動物のキャラクターを表紙に据えて、小学生の興味を引くような「堅苦しくない」「遊び心のある」ものとした。
- イ 本を通して世界を旅したり歴史を移動したりする様はまるで魔法のよう。児童を魔法の世界にいざなう魔女を登場させて、ノートのタイトルを「まほうの読書ノート」とした。

- (2) ノートの構成

- ア 表紙にキャラクターをあしらったA5版フラットファイル
- イ 書名・感想記録用紙(30ページ)
- ウ 塗り絵で読書量を数える「めざせ50冊」
- エ お友達に面白かった本を紹介する「おすすめカード」

※上記イ～エの各用紙とプロフィール帳や時間割表等のノートに追加できる様式を図書館で配布。

また、同様式は図書館ホームページからダウンロードして印刷も可能。

図書館ホームページ：<http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/chuotoshokan/kanri/magicnote.html>

- (3) ノートの作製及び配布に係る費用

約2,214千円(1冊あたり約85円)

4 贈呈式

- (1) 開催日時

平成26年7月16日(水) 11:00～11:30

- (2) 開催場所

市立弁天小学校 体育館(中央区弁天1-21-2)

- (3) 式典の主な内容

- ア 市長、教育委員長及び教育長から児童代表への「まほうの読書ノート」の贈呈
- イ 来賓挨拶
- ウ 児童及び学校長によるお礼の言葉

まほうの どくしょノート

1・2年生



千葉市中央図書館

3年生

まほうの読書ノート



千葉市中央図書館

まほうの読書ノート

どくしょ



な
名まえ

ほん
○本のタイトル

ひと
○かいた人

ひ
○よんだ日

かんそうに○をつけよう

すごく
おもしろかった ○ 5

おもしろかった ○ 4

ふつう ○ 3

あまり
おもしろくなかった ○ 2

おもしろくなかった ○ 1

から
ひとつこと

めざせ50まつ!!



な
名まえ

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35
36	37	38	39	40
41	42	43	44	45
46	47	48	49	50

ほん
よんだ本のかずだけいろをぬってみよう!

おすすめカード



ほん本のタイトル

か書いた人

ひとつこと

おすすめカード



ほん本のタイトル

か書いた人

ひとつこと

おすすめカード



ほん本のタイトル

か書いた人

ひとつこと

図書館だより

発行：千葉市図書館 <http://www.library.city.chiba.jp/>

千葉市中央図書館
 千葉市中央区弁天3-7-7 ☎043-287-3980

みやこ図書館 (043-233-8333)	白旗分館 (043-264-8566)
花見川図書館 (043-250-2851)	花見川団地分館 (043-250-5111)
稲毛図書館 (043-254-1845)	西都賀分館 (043-254-8681)
若葉図書館 (043-237-9361)	泉分館 (043-228-2982)
緑図書館 (043-293-5080)	あすみが丘分館 (043-295-0200)
美浜図書館 (043-277-3003)	土気図書室 (043-294-1666)
移動図書館 (043-287-3983)	打瀬分館 (043-272-4646)

主な内容

- 〔2・3面〕夏休みは図書館へ行こう！
- 〔4面〕TMK！図書館マナー向上

図書館ニュース

公開/千葉市デジタルアーカイブ

千葉市図書館では、資料の経年劣化を防ぎ、生きた千葉市の歴史を未来の子どもたちに永く残していくため、郷土資料のデジタル化を行いました。これにより、昭和20年代以降の広報映画など映像資料（DVD）の貸出、昭和30年代の風景など写真資料の図書館ホームページへの公開を、平成26年3月25日から開始することができました。



このデジタル化した映像・写真資料は、当時の千葉市を知る方には懐かしい思い出として、知らない方には成長してゆく千葉市の姿を見られる資料として、子どもたちには地域を知る資料として、幅広く皆さんにご活用いただけるのではないかと期待しています。ぜひ、図書館で、ご自宅で、千葉市の姿をお楽しみください。

開館日拡大！ 地区図書館も祝・振替休日開館

平成26年度から、地区図書館6館（みやこ、花見川、稲毛、若葉、緑、美浜）にて、今まで休館としていた祝・振替休日の開館を開始

しました。また、中央図書館も祝日に加え、振替休日の開館を開始しました。休日は、ぜひ図書館で「読書な一日」をお楽しみください。

応援します、あなたの子育て

～ご存知ですか！～

中央図書館の「子育て応援コーナー」

平成26年3月、中央図書館1階の児童フロアに、「子育て応援コーナー」を新設しました。開設以来、おかげさまで人気のコーナーとなっており、多くの子育て中の方やこれから子育てを始める方にご利用いただいています。

このコーナーでは、一か所で子育てに必要な情報を得られるよう、千葉市の子育て支援情報、中央図書館内の子育て応援マップなど、子育てに役立つ情報や、妊娠・出産に関する本のほか、お母さんやお父さんがホッとできるような本をそろえています。

お子さんと一緒に、ゆっくり本を選んだり、読んだりできるスペースで、ぜひ子育てに役立つ情報を見つけてください。

また、花見川図書館にも「子育て支援コーナー」を新設しましたので、こちらでもご利用ください。



館内Wi-Fi導入間近！

～図書館でデジタル資料を楽しむために～

平成26年度夏ごろを目安に、館内Wi-Fi（中央図書館のみ）の導入準備を進めています。いつでもインターネットに接続できるWi-Fi環境を整備しますので、対応するパソコンやタブレットなどの端末をご持参いただければ、千葉市デジタルアーカイブの写真も、図書館内でお楽しみいただけるようになります。

ご自宅の書籍のように、図書館で快適に過ごすためのアイテムとしてご利用ください。

ご協力ありがとうございました！

「平成25年度千葉市図書館利用アンケート」

平成26年2月8日（土）～2月14日（金）に来館された方を対象に、「千葉市図書館利用アンケート調査（※）」を実施しました。

配布数…2,082件

回収数…1,907件、回収率…91.6%

ご協力ありがとうございました！皆さんからいただいたご意見は、よりよい図書館にするための資料として活用させていただきます。

また、アンケート結果は、千葉市図書館ホームページでご覧いただけます。

※千葉市図書館利用アンケート調査

平成22年度よりスタートした「千葉市図書館サービスプラン2010」に基づき、図書館利用者の利用状況や満足度を把握し、図書館の運営状況を評価することで、より良い図書館サービスを提供するために、毎年度実施している調査です。



《千葉市図書館HP》

夏休みは図書館へ行こう！

図書館では、夏休みの期間中さまざまな行事を行います。皆さんのお越しをお待ちしています。

★は事前申込制（指定のないものは多数の場合抽選）です。詳しくは、各図書館へお問い合わせください。

《中央図書館》

中央区

夏の親子おはなし会 7/19(土)
時間 11:00~11:30 (3・4歳児)
11:30~12:00 (5歳児~小学生)
定員 各回先着30人
申込 当日直接会場へ

高校生が語るおはなし会 7/20(日)、8/3、10、17、24、31(日)
時間 11:00~11:30 (3歳児~小学生) ※保護者同伴可
定員 各回先着30人
申込 当日直接会場へ

★親子図書館たんけんツアー 7/27(日)・29(火)・30(水)
時間 10:00~12:00 (小学生親子) ※子どものみの参加可
定員 各回20人
申込 7月9日(水) 必着。往復はがき・電子申請

《みやこ図書館》

★わくわく体験教室～変身!国蝶オオムラサキ～ 7/12(土)
時間 10:00~12:00 (小学生)
定員 20人
申込 7月5日(土) 必着。往復はがき・電子申請

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/24(木)・25(金)
時間 ①9:30~12:00 ②13:30~16:00
対象 小学3年生
定員 各回6人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

★わくわく体験教室～指で描く誰でも簡単パステルアート～ 7/26(土)
時間 10:00~12:00 (小学生)
定員 20人
費用 500円(材料費)
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

★夏のこわ～いお話(みやこ寄席) 8/2(土)
時間 10:30~12:00 (子どもから大人まで)
定員 50人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

夏の親子おはなし会 8/19(火)
時間 10:00~10:30 (3歳児~5歳児)
11:00~11:30 (6歳児~小学生)
定員 各回先着40人
申込 当日直接会場へ

《白旗分館》

夏の親子おはなし会 8/20(水)
時間 15:30~16:00 (3歳児~小学生) ※保護者同伴可
定員 先着20人程度
会場 南部青少年センター3階和室
申込 当日図書館2階又は直接会場へ

《花見川図書館》

花見川区

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/30(水)・31(木)
時間 10:00~12:00 (小学3年生)
定員 各回12人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

科学あそびの部屋～何が伝わるかな?～ 8/6(水)・7(木)
時間 9:30~12:30 (4歳児以上とその保護者)
入室 ~12:00 ※出入自由。未就学児は保護者同伴
申込 当日直接会場へ

★親子図書館たんけんツアー 7/27(日)・29(火)・30(水)
時間 10:30~12:00 (4歳児~小学生とその保護者)
※未就学児は保護者同伴
定員 先着30人程度
申込 当日直接会場へ

《花見川団地分館》

夏の親子おはなし会 7/23(水)
時間 15:30~16:00 (3歳児~小学生とその保護者)
定員 先着30人程度
申込 当日直接会場へ

《若葉図書館》

若葉区

夏の親子おはなし会 7/18(金)
時間 14:30~15:00 (3・4歳児)
15:30~16:00 (5歳児~小学生)
定員 各回20人
申込 当日直接会場へ

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/23(水)
時間 ①10:00~12:00 ②14:00~16:00
対象 小学3年生
定員 各回4人
申込 7月6日(日) 必着。直接来館・電話・往復はがき・電子申請

★小学生かんたん工作 7/30(水)
時間 10:00~12:00 (小学生)
定員 10人
申込 7月6日(日) 必着。直接来館・電話・往復はがき・電子申請

《西都賀分館》

夏の親子おはなし会 7/23(水)
時間 15:00~15:30 (3歳児~小学生)
定員 先着20人程度
申込 当日直接会場へ

《泉分館》

夏の親子おはなし会 7/26(土)
時間 11:00~11:30 (3歳児~小学生)
定員 先着30人
申込 当日直接会場へ

《稲毛図書館》

稲毛区

夏の親子おはなし会 7/18(金)
時間 15:15~15:45 (3~6歳児)
16:15~16:45 (小学生)
定員 各回先着30人
申込 当日直接会場へ

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/30(水)・31(木)
時間 10:00~12:00 (小学3年生)
定員 各回10人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

夏休みおたのしみ会 8/9(土)
時間 10:00~10:45 (3~6歳児とその保護者)
11:00~11:45 (小学生とその保護者)
定員 各回15組
申込 当日直接会場へ

夏休み子どもアニメ鑑賞会 8/27(水)・28(木)
時間 10:00~11:00
対象 【8/27】3~6歳児(保護者同伴可) 【8/28】小学生
定員 先着30人
申込 当日直接会場へ

《美浜図書館》

美浜区

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/23(水)・24(木)
時間 ①9:30~12:00 ②13:30~16:00
対象 小学3年生
定員 各回4人
申込 7月10日(木) 必着。往復はがき・電子申請

★小学生のための夏休みおはなし会～絵本の読み聞かせと工作～ 7/31(木)
時間 10:15~11:45 (小学生)
定員 先着30人程度
申込 7月15日(火) まで。直接来館・電話・電子申請

《打瀬分館》

夏の親子おはなし会 7/24(木)
時間 15:30~16:00 (3・4歳児)
16:00~16:30 (5歳児~小学生)
定員 各回先着30人程度
申込 当日直接会場へ

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/30(水)・31(木)・8/1(金)
時間 9:30~12:00 (小学校3年生)
定員 各回2人
申込 7月16日(水) 必着。直接来館・往復はがき・電子申請

《緑図書館》

緑区

夏の親子おはなし会 (鎌取コミュニティセンター共催) 7/25(金)
時間 11:00~11:30 (2・3歳児とその保護者)
15:30~16:00 (4歳児~未就学児とその保護者)
16:00~16:30 (小学生とその保護者)
定員 各回先着36人
申込 当日直接会場へ

★子ども一日図書館員～やってみよう図書館の仕事～ 7/30(水)
時間 ①10:00~12:00 ②14:00~16:00
対象 小学3年生(市内在住)
定員 各回10人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

★オリジナル豆本づくり 7/31(木)
時間 10:00~12:00 (小学1~3年生)
14:00~16:00 (小学4~6年生)
定員 各回20人
申込 7月13日(日) 必着。往復はがき・電子申請

★おおむかしのアクセサリをつくろう～勾玉づくり～ 8/6(水)
時間 14:00~16:00
対象 小学1~3年生(保護者同伴)
小学4~6年生(一人でも参加可)
定員 25人
費用 200円
申込 7月20日(日) 必着。往復はがき・電子申請
※保護者も工作可。はがきで申し込む場合は、ご来館人数と工作する方の人数をご記入ください。

《あすみが丘分館》

夏の親子おはなし会 7/23(水)
時間 11:00~11:30 (1~3歳児とその保護者)
15:45~16:15 (4歳児~小学生とその保護者)
定員 各回30人
申込 当日直接会場へ

《土気図書室》

夏の親子おはなし会 8/5(火)
時間 13:30~14:00 (3歳児~小学生とその保護者)
会場 土気公民館 講堂
定員 先着20人
申込 当日直接会場へ

《自由研究は図書館へ》

図書館では、夏休みの自由研究や工作などのヒントとなる本をご用意しております。ぜひ、ご活用ください。



レファレンス事例

38

風鈴の歴史について調べる

風鈴は、涼やかな音色で夏の暑さを和らげてくれるものとして昔から使われてきましたが、いつ頃出来たのでしょうか。

まず、百科事典で風鈴についての概要を調べました。『世界大百科事典24』(平凡社 2007年)や『日本大百科全書20』(小学館 1995年)をひくと、中国から伝わった仏堂や塔の軒に吊り下げられた風鐸が起源らしいこと、鎌倉時代には風鈴についての記述が見られ、室町時代には広く普及していたらしいこと、金属製、陶器製、ガラス製があることがわかりました。次に、風鐸は仏教に関連があるようで、『例文仏教語大辞典』(小学館 1997年)で調べてみます。すると、『日本三代実録』という平安時代の歴史書にも記述があることがわかり、古くから日本に伝わっていたことがわかりました。

では、現在のどのようなスタイルになったのはいつのことでしょうか。『風鈴 NHK美の壺』(日本放送出版協会 2007年)によると、どのようにして小振りの風鈴となったかは、はっきりしないとあります。ただし、初めて風鈴という名称を使った人物は、浄土宗を開いた法然(1133年~1212年)で、「ぶつれい」と呼んでいたものが、のちに「ぶつりん」となったことがわかりました。しかし、『絵巻物による日本常民生活絵引 第5巻 新版』(平凡社 2006年)で、「法然上人絵伝」に描かれている風鈴の絵を確認すると、鐘のような風鈴の形とは異なることがわかります。

そこで、風鈴の中で一番イメージされることが多い、ガラス製のものについて調べました。『びびどろ』(雄山閣 1998年)によると、1700年代には造られていた様子で、当時のガラス問屋の広告チラシに、現在のスタイルに近い風鈴の絵が確認できます。また、『びびどろぎやまん図譜』(淡文社 1996年)では、江戸時代末頃に作られた、ガラス製の風鈴の写真が紹介されています。

千葉市読書環境整備計画を策定しました

千葉市の図書館は、昭和45年に策定した「千葉市図書館網計画」に沿って順次整備を進めてきましたが、同計画策定から40年余りが経過し、図書館を取り巻く環境が大きく変化したことを踏まえ、主にハード面での取り組みの方向性を示した「千葉市読書環境整備計画」を平成26年3月に策定しました。

この計画に基づき、「サービス拠点の整備」、「ICTの利活用」、「既存図書館の機能更新等」の3つの視点から取り組みを進めることで、時代の変化に対応し、環境の整った施設として、図書館の新たな価値や魅力を創出し、市民の皆様によりよければ、頼られる読書環境を整備します。

また、計画期間は平成26年度から5年間とし、計画の実施に当たっては、「千葉市資産経営方針」の基本的な考え方を踏まえ、施策・事業を市の実施計画に位置付けたうえで進捗を図ります。

主にソフト面での取り組みの方向性を示した「千葉市図書館サービスプラン2010」と、ハード面での取り組みの方向性を示したこの「千葉市読書環境整備計画」を一体的に進めることにより、社会教育及び生涯学習の推進を図り、千葉市新基本計画で掲げる実現すべきまちの個性の一つである「未来を創る人材が育つまち」を目指します。



「千葉市HP」

TMK! 図書館マナー向上

このコーナーでは、「小さな心がけで、より居心地のいい図書館をみんなで作っていききたい」という思いから、図書館をご利用いただく際に、皆さんに心がけていただきたいことをお伝えします。※タイトルの「TMK」は、「図書館マナー向上」の略です。

第3回 カバンの中は危険となりあわせ!

熱中症予防のため、飲み物を持ち歩くことが多くなりました。そこでご注意! カバンの中に、ペットボトルと図書館の本を一緒に入れる場合は、水滴が付かないよう、保冷カバー等をしてください。キャップの確認も忘れずに。本は湿気や水がキライです。ご協力をお願いします。



広告募集

図書館だよりへの広告を募集しています。

- 規格: 90mm×90mm
- 掲載場所: 4頁目の一部
- 発行部数: 5,000部 (1号あたり)
- 広告掲載料: 10,000円 (税込み)

図書館ホームページへの広告を募集しています。

- 広告掲載料 (月額)
 - ・トップページ 5,000円 (1枠1か月、税込み)
 - ・検索ページ 10,000円 (1枠1か月、税込み)

お問い合わせ先: 千葉市中央図書館管理課
電話 043-287-3980